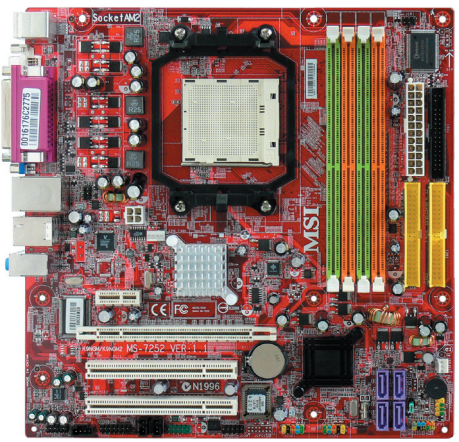
序章
ご使用になる前に

K9NGM / K9NGM2
MS-7252(v1.x) M-ATX Mainboard



MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

G52-72521X2

安全上のご注意　必ずお守り下さい！

ご使用の前に

※ここで示す注意事項は、お客様や他の人々の生命・財産への危害や損害を未然に防止するために書かれています。「警告」「注意」の２種類に分けてお知らせ致しますので、これらの安全に関する重要な内容を、必ずお守りください。



警告

取り扱いを誤ると、死亡または身体に重大な損害を負う可能性がある内容を表しています。



注意

取り扱いを誤ると、傷害または物理的損害が発生する可能性がある内容を表しています。

注意・警告記号の表記について

△ 記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が図案化して描かれています。下図の場合は「感電注意」を示しています。



注意

⃠ 記号は禁止されている行為であることを告げるものです。図の中や図の付近に、具体的に禁止されている内容が描かれています。下図の場合は「分解禁止」を示しています。



禁止

● 記号は行為を強制したり指示している内容を告げるものです。図の中に具体的な指示に内容が描かれています。下図は必ず実行していただく「強制」内容です。



強制

警告

安全のための注意事項を厳守する
取扱説明書に書かれている注意事項は
隅々までよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

万一異常が発生したら

- 煙が出たら
- 異常な音・においがしたら
- 基盤に水や飲み物が掛かったら
- 内部に異物が入ったら
- 落としたりぶつけたりしたら
- 何か変だなと思ったら

① 電源を切る
② コンセントを抜く
③ 修理窓口に修理を依頼する

警告

下記の注意事項を守らない場合は、火災・感電などを引き起こし生命の危機につながる恐れがあります。

● 絶対に改造はしない。適切な資格を持った修理技術者以外の人は絶対に修理をしない。



禁止

専門技術者以外の方が修理等を行った場合、火災・感電・故障・けがの原因となり、最悪の場合死亡や大けがの恐れがあります。
修理が必要な場合は、お買いあげになった販売店修理窓口または弊社サポート窓口へご相談下さい。

● 規格に合った電源装置 (パワーサプライ) を使うこと。また電源はコンセントから直接供給すること。



禁止

接続する電源装置（パワーサプライ）は、お使いになられる CPU や内部増設機器が消費する電力に対応できる物を使用してください。また、AC 電源は必ずコンセントに直接接続し、タコ足配線等は避けてください。

注意

下記の注意事項を守らない場合は、お客様の身体に重大な悪影響を及ぼす恐れがあります。

● 組み立て・増設作業は長時間連続して行わない。



禁止

ケース内部での細かい手作業を必要とするシステムの組み立てや増設作業等を長時間続けると、肩こり・疲労感などの症状があらわれる場合があります。作業する時は適宜休憩を取り、無理をせずに行ってください。

● ディスプレイなどの画面を長時間連続して見続けない。



禁止

ディスプレイなどの画面を長時間連続して見続けた場合、目が疲れる、視力の低下等の症状が発生する可能性があります。
体の一部に不快感や痛みを感じた場合は、すぐに本機の使用を止めて休憩してください。休憩しても不快感や痛みが取れない場合は、すぐに医師による診察を受けてください。

警告

下記の注意事項を守らない場合は、けがをしたり周辺の器物に損害を与える恐れがあります。

● 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない。
上記のような環境に設置すると、故障の原因となる場合があります。この取扱説明書に記載されている使用環境条件以外でのご使用は、故障・事故の原因となる場合があります。


禁止

● 内部に液体や異物を入れないこと。
本体に液体をかける、あるいは本体を液体に浸した場合、または本体に異物が入り込んだ場合には、確実に故障の原因になります。万一、液体や異物を入れてしまった場合は、すぐにコンセントを抜いて、弊社サポート窓口へご連絡ください。
※本製品は防滴仕様ではありません。


水漏れ禁止

● 内部を調整する場合は、静電気に注意すること。
マザーボードをはじめとしたコンピュータ部品は静電気にとても敏感です。組み立てや増設作業でコンピュータ内部を調整する場合は、あらかじめ金属部分に触れるなどして体の静電気を取り除いてください。


静電破壊注意

● 濡れた手で作業しない。
水仕事をしたり手を洗った後に、手が濡れている状態で内部を調整したり電源ケーブルを接続したりすると、感電事故の原因になります。


感電注意

● 機器を接続する場合は、コンセントを抜く。
CPU やメモリなどの内部デバイスを取り付け・取り外しする場合はもちろん、外部に接続する機器を接続する場合もコンセントを抜いてください。たとえ電源スイッチが入っていなくても、スタンバイ電流で故障の原因となる場合があります。


プラグをコンセントから抜く

注意

下記の注意事項を守らない場合は、けがをしたり周辺の器物に損害を与える恐れがあります。

● 電源コードを束ねて使わない。

電源装置（パワーサプライ）とコンセントをつなぐコードをはじめ、ケース内部に配線するコードも、グルグル巻きにしたり、きつく束ねたりしないでください。発熱してコードが損傷する場合があります。



禁止

● 動作中のドライブ類に長時間触れない。

電源装置（パワーサプライ）やハードディスク等の装置は、動作中に発熱します。長時間触れていると低温やけどの原因となる場合があるので注意してください。



やけど注意

● 安定した場所に固定して使う。

ぐらぐらした場所や不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れてきたりして、けがや故障の原因となる場合があります。



注意

● コネクタやケーブルは確実に接続する。

電源や信号用のケーブルは、コネクタをきちんと奥まで確実に差し込んでください。
斜めに差し込んだり、コネクタ内部に異物が入ると、ショートして火災や故障の原因になることがあります。



注意

● 直射日光のあたる場所や暖房の近くに置かない。

高温になる場所に置いた場合、内部の温度が異常に上がり故障の原因となる場合があります。また、外装部品が変形する場合もあります。



加熱禁止

リチウム電池の取り扱いに関する注意

危険

● マザーボード上には、リチウム電池が実装されています。
設定情報をバックアップする為に、マザーボード上には CR2032(または同等品) というリチウム電池が実装されています。
液漏れ・発熱・発火・破裂などの事故を避ける為に、下記の注意事項を厳守してください。また、本製品およびリチウム電池は子供の手の届かないところに保管してください。

- **充電は絶対にしない。**
- **火中に投入しない。**
- **ショートさせない。**
- **電子レンジやオーブンで加熱しない。**


ショート注意


破裂の恐れあり


火中に投じない


水漏れ禁止


分解禁止

万一、電池から漏れた液が目に入った場合は、大量のきれいな水で目を洗い、ただちに医師に相談してください。
適切に処置しない場合、失明や大けがをする可能性があります。


失明の危険あり

使用済みのリチウム電池は、有害ゴミではありません。一般の不燃ゴミとして廃棄できることになっています。ただし、自治体によっては特例を設けている場合もありますので、お住まいの地域のルールにしたがって処分してください。
リチウム電池を廃棄する際は、ショート・破裂・発火などの事故を防止するため、電池を粘着性の絶縁テープなどで覆ってから捨ててください。

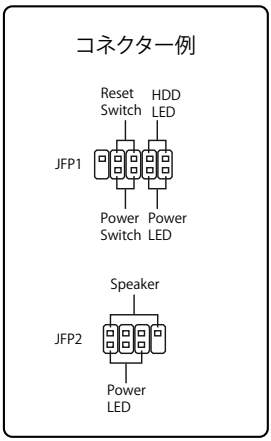

ルールを
守って廃棄

初期設定

● 電源スイッチや LED は、コネクターを接続しないと動きません。

ケース前面にある電源・リセットスイッチや、電源・ハードディスクの LED は、ケース前面のフロントパネルから伸びているケーブルをコネクターに接続しないと動作しません。下図を参考に正しく接続してください。

※製品のコネクターの詳細については本書の第 2 章を参照してください。



● 接続のポイント

スイッチ類は極性を気にする必要がありませんが、LED は極性を間違えると点灯しません。

● コネクタ極性の確認方法

大多数のケースに取り付けられている LED から伸びているコネクターは、プラス極側に「▲」または「●」の刻印がされています。詳しくはケースの取扱説明書をご覧ください。

注意!

静電気に注意

ジャンパピンはマザーボードに搭載されている各種コンポーネントと直結しており、静電気の放電によってコンポーネントが破損する場合があります。取り扱いの際には静電気の対策を十分に行ってください。

● BIOS 初期化ジャンパ

誤った BIOS 設定を行ってシステムが起動しなくなったり、電磁ノイズ等により不要な情報が記録された場合には、BIOS の設定情報を記憶する領域 (CMOS) を初期化 (クリア) します。またご購入されて初めて使用する場合にも、CMOS のクリアが必要な場合があります。CMOS のクリアはマザーボード上のジャンパピンまたはスイッチを操作して行います。

※操作の詳細については本書の第 2 章を参照してください。

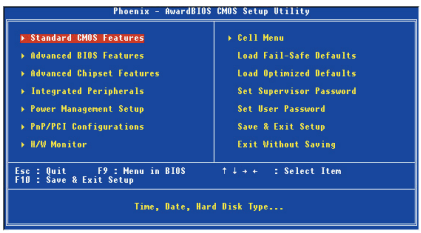
BIOS の設定

ご使用になる前に

● 初回起動時は BIOS のデフォルト設定値を

出荷状態ではシステム設定が必ずしも正確ではありません。接続している機器を正しく認識させる為に、BIOS の初期化作業を行ってください。

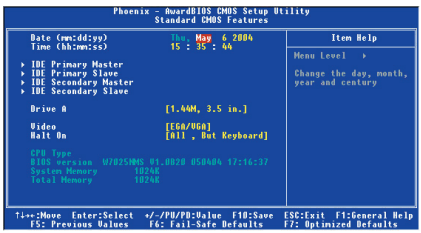
1. システム起動時に「DEL」キーを押します。
2. 「Load Optimized Defaults」または「Load Fail-Safe Defaults」にカーソルを合わせて「Enter」キーを押します。
3. デフォルト設定をロードしてよいか確認ログが表示されるので <Y(Yes)> キーを押します。
4. 「F10(保存して終了)」を押して保存終了し BIOS 設定画面を終了します。



BIOS 画面例

● システム時計を設定する

システム時計は BIOS 内部だけではなく OS も利用します。システム時計が正しく設定されていない場合、ファイルシステムやアプリケーションが正しく動作しない可能性があります。矢印キーでカーソルを上下左右に動かして項目を選択し <PageUp> キーまたは <PageDown> キーで値を変更して正しい日付と時刻を設定してください。



BIOS 画面例

● BIOS の設定は原則として標準設定で

「Optimized Defaults」または「Fail-Safe Defaults」をロードすると、全ての項目が自動的に設定に設定されます。

BIOS メニューにはハードディスクなど IDE 機器の検出設定やメモリタイミングの設定などがありますが、特に必要が無い限りは自動設定のままでお使いください。

注意!

1. デバイスの許容値を超えて高速動作の設定にした場合、システムが起動しない、あるいはシステムが正常に動作しない可能性がありますのでご注意ください。

2. 初期設定が行われていない状態で電源を投入した場合、起動中に「CMOS CheckSum Error」と表示されることがありますが、これは故障ではありません。初期設定 (デフォルト値のロード) を行って保存終了すれば、次回起動時からは表示されません。

※ BIOS 設定の詳細については本書の第 3 章を参照してください。

よくあるお問い合わせ

サポート窓口へお問い合わせ頂いたご質問の中から、頻度の高いものをまとめてみました。システムがうまく動作しない場合には、まず以下の内容を確認して下さい。

● 起動中に [CMOS Settings Wrong] というメッセージが表示されたままになり、次に進まない。

初期化等により BIOS の設定情報が消去された場合にこのメッセージが表示されます。本章 7 ページまたは第 2 章の CMOS クリアのページを参照して、初期値に書き戻せば正常に起動できます。

● メモリチェックに時間が掛かる。

初期設定状態ではメモリチェックを三重に行うように設定されています。したがって、チェックが終わるまで多少時間が掛かります。チェック中に ESC キーを押してキャンセルするか、BIOS 設定画面で [Advanced BIOS Features] の中の [Quick Boot] を [Enabled] に設定すればチェックが 1 回で終わるようになります。

● マザーボードバージョンの見分け方。

マザーボードのバージョンは、PCI スロットの間に白色のペイントで描かれています。[K8N Neo2 VER:1.0] と描かれている場合は、そのボードのバージョンは「1.0」であることを示しています。(PCB=Print Circuit Board バージョンと表記する場合もあります)

※ より細かいバージョン番号はマザーボード表面の上辺に印刷されています。

● シリアル番号はどこに書いてあるのか。

シリアル番号は、化粧箱側面に貼り付けてあるシールか、マザーボード 裏面の白いシールに書かれています。修理やサポートを受ける際に必ず必要となりますので、製品に同梱されている保証書に書き留めておいてください。

● 起動画面で、ハードディスクを認識しているときに、[Primary IDE Channel no 80 Conducor Cale Installed] というメッセージが現れた。

ATA33 の IDE ケーブルを ATA-66/100 のハードディスクに接続した場合にこのようなメッセージが表示されます。適切な IDE ケーブルに交換すればエラーメッセージは表示されません。

● マザーボードの BIOS ステッカーは "Phoenix BIOS" となっていますが、システムを起動すると "Award BIOS" が使用されています。

Phoenix と Award は既に 1 つの会社に合併しています。Award BIOS を使用している全ての MSI マザーボードには、Phoenix のロゴステッカーが添付されています。

よくあるお問い合わせ

● Web サイトから MSI Live Update ユーティリティをダウンロードしようとしましたがうまく行きません。

これは以下の方法で解決する場合があります。
1. zonealarm をインストールしない。
2. PC-cillion 2000 の「WebTrap」機能を無効 (Disabled) に設定する。
3. その他のウィルス対策ソフトウェアのインターネットウィルス防御機能を全て無効 (Disabled) に設定する。

● 新しい BIOS がリリースされたら手元の BIOS もアップデートした方がよいでしょうか？

新しい BIOS は通常以下のような理由によりリリースされます。
1. 新たな機能をサポートした
2. BIOS のソースコードが更新された
3. 不具合を修正した
4. 顧客からの要望に基づいた変更が加えられた
新しい BIOS がリリースされると、通常は更新内容を記載したリリースノートが添付されます。このような更新内容に基づいて、BIOS を更新すべきかどうかの判断が可能です。特に更新の必要性が見当たらなければ、そのままの状態で使用することをお勧めします。

● BIOS のバージョンはどうすれば知ることができますか？

起動時のメモリカウントの直後に一行目に表示されるのが BIOS のバージョンです。通常次のような書式で表されています。

1. 旧型番の場合

例えば AG76 091096 の場合、
1 桁目は BIOS のメーカー名を表します。それぞれ A = AMI(R), W = AWARD(R), P = PHOENIX(R) を示しています。
2 桁目は内部チップセット・コードを表します。
3 桁目はプロセッサのクラスを表し、5 = 486、7 = 586、8 = 686 となります。
4 桁目はインクリメンタルです。
091096 はこの BIOS がリリースされた日付を表します。

2. 新しい型番の場合

例えば W5139MS V1.0 091096 の場合、
1 桁目は BIOS のメーカー名を表します。それぞれ A = AMI(R), W = AWARD(R), P = PHOENIX(R) を示しています。
2 ～ 5 桁目は型番を表します。
6 ～ 7 桁目は顧客を表し、MS = 標準モデルを意味します。
V1.0 は BIOS のバージョンです。
091096 はこの BIOS がリリースされた日付を表します。

よくあるお問い合わせ

● **BIOS をフラッシュし、システムが再起動したら画面に何も表示されなくなりました。**

AMI BIOS の場合

要求されている AMI BIOS のファイル名を AMIBOOT.ROM に変更 (例 : A569MS23.ROM から AMIBOOT.ROM に変更) して、フォーマット済みのフロッピーディスクに保存します。

このフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。システムを起動し、[Ctrl] と [Home] キーを同時に押して強制的にアップデートします。システムは AMIBOOT.ROM ファイルを読み込み、FD ドライブから BIOS を回復します。4 回ビープ音が聞こえたら、フロッピーディスクを抜き取り、システムを再起動してください。

Award BIOS の場合

Award フラッシュユーティリティと BIOS ファイルを、フォーマット済みフロッピーディスクにコピーします。この時、BIOS ファイルは「awdfl535 + BIOS のファイル名 (例 :awdfl535 a619mj21.bin)」の形にして、自動起動バッチファイルにします。

このフロッピーディスクでシステムを起動します (画面が表示されるまで 2 分程度かかります)。BIOS をもう一度フラッシュし、システムを再起動してください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思うような症状でも、実は簡単な設定ミスだったということがよくあります。修理の依頼をされる前に、以下の項目をチェックしてください。

● 電源が入らない。

・電源ユニットの入力電圧切り替えスイッチは 100V(115V) に設定されていますか？
→ 230V 側になっていると動作しません。
・ケースの電源スイッチとマザーボードの JFP1 端子は正しく接続されていますか？
→本章 7 ページを参考にしてもう一度確認してください。
・電源ユニット自体は正常ですか？
→ 他のマザーボードがあれば接続して通電を試してください。

● 正常に起動できない。

・BIOS の基本的な初期設置と、ジャンパの設定が正しくされていますか？
→ 本章 8 ページ参照
・CPU やメモリの電圧や周波数は、定格通りに設定されていますか？
→ オーバークロックや過不足電圧状態では正常起動できません。

● ハードディスク等のデバイス類が認識されない。

・デバイス側のジャンパースイッチは正しく設定されていますか？
→ IDE 機器は Master / Slave / Cable Select の設定が正しくないと認識できません。
・信号と電源のケーブルは正しく接続されていますか？
→接触不良等により認識されない場合もあります。逆接続にも注意してください。

● システム全体の動きが安定しない。

・マシン構成に合った OS を使っていますか？
→ OS の種類によっては、チップセットを初めとして対応パーツを限定している場合があります。お使いの機器構成が OS の推奨環境と合致するか確認してください。
・各種デバイスドライバは最新のものを使っていますか？
→ ビデオやサウンド等、各種デバイス用のドライバーソフトは、WEB サイトを見る等して常に最新のものを使うようにしてください。細かい不具合が修正されている場合がありますので、システムの安定性向上が期待できます。
・電源容量は足りていますか？
→ CPU やビデオカードがパワーアップする一方で、電源容量の不足が不安定要素になるケースが増えています。HDD の台数や増設しているカードの消費電力を考えながら増設するようにしてください。

故障かな？と思ったら

● 音が鳴らない。

・サウンドドライバは正しくインストールされていますか？
→ 添付のドライバー CD-ROM よりドライバをインストールしてください。
・BIOS は最新版になっていますか？
→ Web サイトを見て、確認してください。
・スピーカー自体は正常ですか？
→他の音源につないだり、ヘッドホンをつないで確認してください。

● 画面が表示されない。

・電源は入っていますか？
→ 本章 12 ページを参照してください。
・モニターケーブルは正しく接続されていますか？
→ 取り付けが不完全な場合、正常に表示されません。
・システムは起動していますか？
→ オーバークロック等により、フリーズしたままになっている可能性があります。BIOS の初期化を行って起動を確認してください。
(詳しくは本章の 7 ページまたは 2 章の CMOS クリアの記述を参照してください)
・モニター自体は正常ですか？
→ 他の PC につないだりしてテストしてください。

● 電源が切れているのにランプが点いている。

・キーボードの電源ランプや、光学マウスのランプが点きっぱなしの場合
→ +5V スタンバイ電流で光る場合があります。
・ケースの電源ランプが点滅している場合
→ システムがスタンバイ状態の時に点滅する（またはランプの色が変わる）モデルもあります。

● OS がインストールできない。

・クロック・電圧・メモリタイミングの設定は適切ですか？
→ お使いのパーツの規定値に設定してインストールしてください。
・RAID チップ搭載モデルの場合、RAID チップドライバのインストールは行いましたか？
→ WindowsNT4.0 の場合、「コンピュータはハードウェアの構成を検査しています」の表示がでているところで F6 を押して「大容量記憶装置のドライバの追加」を選択し、添付のフロッピーからドライバをインストールしてください。
→ Windows2000 の場合、「Press F6 if you need to install third party SCSI or RAID driver」の表示が出ているところで F6 を押して「大容量記憶装置のドライバの追加」を選択し、添付のフロッピーからドライバをインストールしてください。

お手入れについて

● **マザーボードや内部部品は定期的に清掃してください。**
マザーボードやコンピュータ内部に組み込まれている機器は精密部品で構成されています。ホコリや汚れが内部に溜まると故障の原因となる場合がありますので、下記の要領で定期的に清掃してください。


注意

● **作業は静電気の発生しにくい安定した場所で行う。**
せっかく掃除しても、静電気で部品を壊してしまったり、不安定な場所から落としてしまっては意味がありません。毛足の長い絨毯の上や、不安定な台の上は避けましょう。


静電破損注意

● **ケガに注意。**
ケース内部や基盤上には金属等の突起部分がありますので、手や指などを引っかけてケガをしないよう、十分に気を付けて清掃してください。軍手等の着用をお勧めします。


ケガに注意

● **洗剤や濡れ雑巾は使わない。**
内部の清掃には洗剤や濡れ雑巾を使わず、掃除機でホコリを吸い取るようにしてください。洗剤成分や水分が内部に残ると、腐食やサビが発生し、故障の原因となる場合があります。


注意



清掃を行う前に必ずバックアップを取ってください。
ハードディスク等の記憶装置に保存してあるデータは、静電気やちょっとした衝撃でも破壊される場合があります。データの消失事故を未然に防ぐ為にも、内部を調整・点検する際は必ず事前にバックアップを取るようにしてください。

サービス窓口について

ご自身でチェックされてもどうしても解決できない場合や、万一製品に破損・不具合が発生してしまった場合は、下記の方法で対処してください。本製品をシステム (完成パソコン) としてご購入された場合は、まずシステムをお買い求めになられたパソコンショップにお問い合わせください。

① 弊社 WEB に解決策が掲載されていないか確認してください。

エムエスアイコンピュータージャパン株式会社ホームページでは、MSI 製品に関する様々な情報を提供しています。

http://www.msi-computer.co.jp/

よくあるお問い合わせ FAQ コーナー

サポート情報は随時アップデートされています。まずはこちらをご覧ください。

・マザーボードに関する質問
http://www.msi-computer.co.jp/support/mbfaq.html
・全般的な質問
http://www.msi-computer.co.jp/support/faq/

② 弊社サポート窓口までご連絡ください。

エムエスアイコンピュータージャパン株式会社カスタマーサービスセンターでは、MSI 製品に関するご質問、修理依頼を受付しております。

お問い合わせの際には以下の点を事前にご確認ください。

・製品型番
・製品のシリアル番号 ※本章 9 ページ参照
・ご購入日
・お買い上げになった店舗
・トラブルの症状

◇◇

- E-mail によるお問い合わせ　support@msi-computer.co.jp
- FAX によるお問い合わせ　03-5817-3709
- 電話によるお問い合わせ　03-5817-3708
  (受付時間 : 平日午前 11 時から午後 6 時まで)
- BIOS 破損の修理依頼　bios@msi-computer.co.jp
- 保守部品のお問い合わせ　support@msi-computer.co.jp

注意!

※以下の場合はサポートの適用外になります。

・エムエスアイコンピュータージャパン株式会社が正規に販売した製品ではない場合。
・弊社が認定した方法以外での修理・改造を受けている場合。
・保証書の紛失・棄損・改竄があった場合。
・その他、合理的な範囲内で弊社が不適当と判断した場合。

目次

序章　ご使用になる前に

安全上のご注意　必ずお守り下さい！ 2
注意・警告記号の表記について 2
警告 2
リチウム電池の取り扱いに関する注意 6
初期設定 7
BIOS の設定 8
よくあるお問い合わせ 9
故障かな？と思ったら 12
お手入れについて 14
サービス窓口について 15
目次 16
重要なお知らせ 20
版権について 20
安全のために 21

第 1 章　製品仕様

製品仕様 1-2
マザーボードのレイアウト 1-4

第 2 章　ハードウェアセットアップ

クイックコンポーネントガイド 2-2
CPU に関する注意事項 2-3
CPU の取り付け 2-4
クーリングファンの取り付け 2-5
メモリー 2-6
DDR DIMM の装着方法 2-7
電源コネクター 2-8
ATX24 ピン電源コネクター : JPWR1 2-8
ATX12V コネクター : JPW1 2-8
電源に関する注意事項 2-9
バックパネル 2-10
マウス / キーボードコネクター 2-10
VGA 出力ポート 2-10
DVI-D ポート (K9NGM2 シリーズのみ) 2-11
USB ポート 2-11
IEEE1394 6 ピン ポート (K9NGM2 シリーズのみ) 2-11
RJ-45 LAN ポート 2-12
オーディオジャック 2-12
パラレルポートコネクター : LPT1 2-13
コネクター 2-14
FDD コネクター : FDD1 2-14

ファン電源コネクター : CPUFAN1 / SYSFAN1 2-14
IDE コネクター : IDE1 / IDE2 2-15
ケース開放センサーピンヘッダー : JCI1 2-15
シリアル ATA コネクター : SATA 1 ～ 4 2-16
フロントパネルピンヘッダー : JFP1 / JFP2 2-17
シリアルポートピンヘッダー : JCOM1 (オプション) 2-17
フロントパネルオーディオピンヘッダー : JAUD1 2-18
IrDA 赤外線モジュールピンヘッダー : JIR 1 2-18
CD-IN コネクター : JCD1 2-18
フロント USB コネクター : JUSB1 / JUSB2 2-19
IEEE1394 コネクター : J1394_1 (オプション) 2-20
拡張オーディオピンヘッダー : J1 2-20
TV-Out コネクター : JTV1 (オプション) 2-21
CMOS クリア 2-22
クリア CMOS ジャンパ : JBAT 1 2-22
スロット 2-23
PCI Express スロット 2-23
PCI (Peripheral Component Interconnect) スロット 2-24
PCI 割り込み要求ルーティング 2-24

第 3 章　BIOS の設定

BIOS セットアップ画面の起動 3-2
コントロールキー 3-2
Main Menu 3-4
Standard CMOS Features 3-6
Advanced BIOS Features 3-9
Advanced Chipset Features 3-11
Integrated Peripherals 3-12
Power Management Features 3-15
PNP/PCI Configurations 3-18
H/W Monitor 3-20
Load Optimized Defaults 3-23
BIOS Setting Password 3-24

第 4 章　オーディオ機能の解説

Realtek オーディオドライバーのインストール 4-2
オーディオユーティリティの設定 4-4
Sound Effect 4-5
Mixer 4-7
Audio IO 4-11
Microphone 4-16
3D Audio Demo 4-17
Information 4-18
スピーカーの接続 4-19

第 5 章　NV RAID の解説

BIOS 設定 5-2
RAID 環境の構築を始める前に 5-3
RAID の構築 5-4
NVIDIA RAID Utility の起動と RAID アレイの設定 5-4
RAID アレイに OS をインストールする 5-9
OS をインストールした後に RAID ボリュームを増設する 5-11
HDD の管理 5-14
スペアディスクのセットアップ 5-16
RAID アレイの復元 5-22

第 6 章　ドライバーのインストール

ドライバーのインストール 6-2

第 7 章　マルチモニタ機能について

TV-Out ブラケットの接続 7-2
TV 出力ケーブルの接続 7-3
ディスプレイの設定 7-4
モニタ + TV の組み合わせ 7-4
モニタ 2 台の組み合わせ 7-6

CE N1996

FCC クラス B 適合装置に関する記述：

本製品は、FCC 規定第 15 部に準拠する、クラス B デジタル機器製品です。本製品は主に商工業地区で使用されることを想定しており、密集した住宅地などで使用した場合は無線通信やテレビ・ラジオ等に雑音が入る場合があります。（高調波障害）

このような障害が発生した場合、それを改善するために掛かる費用は、使用者の負担となります。また、本製品を弊社の定める以外の方法で分解・改造・修理等行った場合は、FCC の定める基準に適合できなくなる恐れがあります。

万が一高調波障害が発生した場合、システムの電源を切ることによって、この装置が干渉の原因であるかどうかを判断できます。システムの電源を切って障害が改善する場合、本装置またはその周辺機器が干渉の原因になっていると考えられます。装置が他の機器に干渉する場合は、以下の方法で干渉が起きないようにしてください。

- 干渉がなくなるまで、テレビまたはラジオのアンテナを調整してください。
- 問題の起きている機器から離れたところに装置を移動させてください。
- コンセントの場所を変更してください。

上記の処置で解決できない場合は、弊社カスタマーサービスセンターか最寄りの販売店にご相談ください。

本装置に接続するケーブル類は、できるだけシールドカバーがついた物をご使用ください。

FC Micro-Star International
MS-7252

重要なお知らせ

著作権について

本書の内容は MICRO-STAR INTERNATIONAL およびエムエスアイコンピュータージャパン株式会社の知的所有物です。万全を尽くして本書を作成しましたが、内容の正確性について保証するものではありません。弊社の製品は継続的に改良されており、本書の内容を将来予告なく変更することがあります。

版権について

本ユーザーズガイドのすべての内容は著作権によって保護されています。本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright© 2006

本ユーザーズガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスまたはロイヤルティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンスにもとづき同意書に記載されている管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

商標

本書に記載されているすべての商標は各会社の所有物です。
Intel, Pentium , Celeron は Intel Corporation の登録商標です。
AMD, Athlon ™ , Athlo ™ XP, Duron ™は AMD Corporation の登録商標です。
PS/2 および OS/2 は IBM Corporation の登録商標です。
Windows 95/98/2000/NT/XP は Microsoft の登録商標です。
Netware は Novell の登録商標です。
AMI は American Megatrends Inc. の登録商標です。
AWARD は Phoenix Technologies Ltd. の登録商標です。

改訂履歴

改訂	履歴	日付
V1.0	MS-7252 K9NGM / K9NGM2 シリーズ	2006 年 7 月

安全のために

以下の注意事項を必ず読んでください。

1. このマニュアルは必ず保管してください。
2. 本製品を湿度の高い環境下に置かないでください。
3. セットアップに入る前に本製品を水平な平面に置いてください。
4. ケースに開いている穴は本製品の過熱を防ぐための空気の通り道です。絶対にふさがないでください。
5. 電源の電圧を確認し、115V に設定してから電源コードをコンセントに接続してください。
6. 電源コードは、人がつまずくような場所には置かないでください。電源コードの上にものを置かないでください。
7. 拡張カードや追加モジュールを装着する前に、必ず電源コードを抜いてください。
8. 本書上に記載されている注意事項や警告は必ず確認してください。
9. 本製品にある穴に電気的ショックを引き起こすような液体を注がないでください。
10. 以下の場合はサービス担当者のチェックを受けてください。

- 電源コードまたは電源プラグが破損している。
- 製品内に液体が入った。
- 製品が蒸気にさらされた。
- 製品が動作しない、またはマニュアル通りに設定できない。
- 製品を落とした、または破損した。
- 製品が明らかに壊れたと認識できる状態。

11. 無条件に保管温度が 60℃を超える環境下に本製品を置かないでください。製品が破損することがあります。
12. 保管の際は湿度の高いところ、埃が多いところを避け、風通しの良い涼しいところで保管してください。

本製品には、ボタン型リチウム電池が使用されています。環境への影響を最小限に抑えるために、廃棄の際には各自治体の指示に従い、適切に処分してください。



規格が異なる電池と交換すると、電池が破裂する危険があります。必ずメーカーが推奨する電池または全く同等の電池と交換してください。



MSI は環境保護を推進するプログラムに参加しています。

European Union Directive で制定された WEEE 指令 (2002/96/EC) は 2005 年 8 月 13 日より施行されています。この指令により、私たちは電子機器をゴミとして廃棄することはできなくなり、電子機器メーカーは使用済みの電子機器の回収が義務付けられました。MSI もこの電子機器回収プログラムに参加し、EU 圏内で販売された MSI 製品の回収を行います。不要になった MSI 製品は最寄りの回収スポットで回収します。

※この回収プログラムは現在のところ EU 加盟国内で行われています。

第 1 章
製品仕様

この度は K9NGM / K9NGM2 (MS-7252) シリーズをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本シリーズは nVIDIA® GeForce ® 6100 / nForce® 410 (K9NGM シリーズ) チップセットまたは nVIDIA® nForce® 6150 / nForce® 430 (K9NGM2 シリーズ) チップセットを採用したマザーボードで、AMD® Athlon ™ 64 X2 / Athlon ™ 64 FX / Athlon ™ 64 / Sempron ™プロセッサーをサポートします。本製品は M-ATX フォームファクタに準拠して設計されており、デスクトップソリューションとして高いコストパフォーマンスを発揮します。

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

製品仕様

CPU

- Socket AM2, AMD® Athlon ™ 64 X2 / Athlon ™ 64 FX / Athlon ™ 64 / Sempron ™ プロセッサーをサポート

CPU 対応の詳細については弊社のホームページを参照してください。
http://www.msi-computer.co.jp/support/cpusupport.html

チップセット

K9NGM

- nVIDIA® GeForce® 6100 + nForce® 410

K9NGM2

- nVIDIA® GeForce® 6150 + nForce® 430

メモリー

- DDR2 DIMM (240pin, 1.8V) × 4 スロット (最大 8GB)
- DDR2 800 / 667 / 533

LAN

K9NGM

- RTL8201CL 10/100 BASE-T

K9NGM2

- NV LAN (+ VSC8601) 10 / 100 / 1000 BASE-T × 1

オーディオ

- Azalia コントローラー
- Realtek ALC883 7.1 チャンネルコーデック

IDE

- Ultra DMA 133 / 100 / 66 × 2 スロット
- PIO モード、Bus Master モードをサポート

SATA

K9NGM

- SATA II 300 × 2 ポート

K9NGM2

- SATA II 300 × 4 ポート

RAID

K9NGM

- nForce 410 S-ATA RAID
  RAID 0, 1, JBOD

K9NGM2

- nForce 430 S-ATA RAID
  RAID 0, 1, 0+1, 5, JBOD

Floppy

- 1 ポート (1 台をサポート)
- 360KB / 720KB / 1.2MB / 1.44MB / 2.88MB のフロッピーディスクドライブに対応

接続端子 (バックパネル)

- マウス / キーボード DIN コネクター　各 1 ポート
- パラレルポート (SPP/EPP/ECP サポート) × 1
- USB 2.0 ポート× 4
- LAN ジャック (RJ-45) × 1
- オーディオジャック (3 穴)
- D-Sub15 ピン× 1

K9NGM2 のみ

- DVI-D × 1
- IEEE1394 6 ピン端子× 1

接続端子 (内部)

- IrDA ピンヘッダー× 1
- USB 2.0 ピンヘッダー× 2 (4 ポートをサポート)
- オーディオピンヘッダー

K9NGM2 のみ

- TV-Out ピンヘッダー× 1
- SPDIF IN/OUT コネクター　各 1 ポート

オンボード VGA 機能

K9NGM

- nVIDIA® Geforce® 6100 内蔵

K9NGM2

- nVIDIA® Geforce® 6150 内蔵

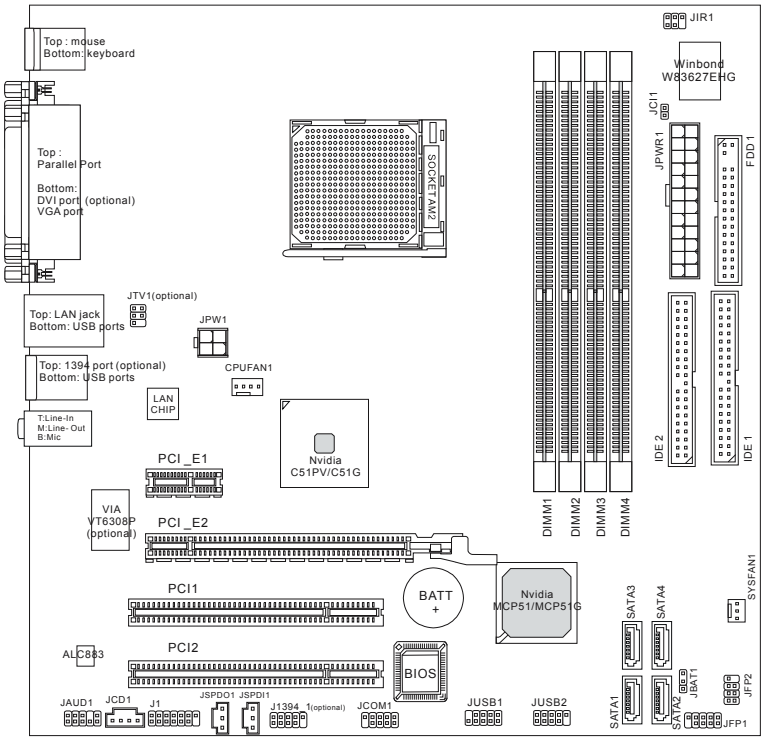
スロット

- PCI Express x16 スロット× 1
- PCI Express x1 スロット× 1
- PCI スロット× 2

フォームファクター

- M-ATX (24.4cm × 24.4cm)
- 取付穴× 8

マザーボードのレイアウト



K9NGM / K9NGM2 シリーズ M-ATX Mainboard

※上記レイアウト図は開発中のものであり、改良により予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。

※上記レイアウト図は K9NGM2 シリーズを掲載しています。

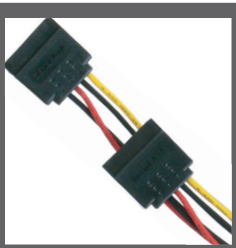
同梱品一覧



IDE ケーブル



SATA ケーブル



SATA 電源ケーブル



補助オーディオブラケット



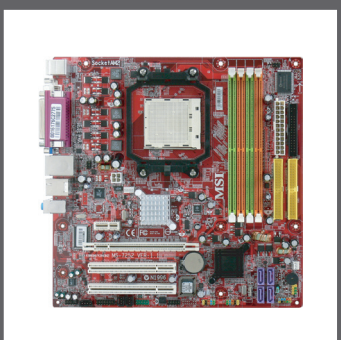
HDTV 出力ブラケット



バックパネル



ドライバー CD & 製品保証書 & マニュアル



マザーボード

※ 同梱品について不明な点がございましたら弊社ダイレクトサポートセンターにお問い合わせください。弊社が正規に販売した製品でない場合は、お客様のご要望に添えない場合がございますので予めご了承ください。

※ HDTV ブラケットは K9NGM2 シリーズにのみ同梱されます。

第 2 章
ハードウェアセットアップ

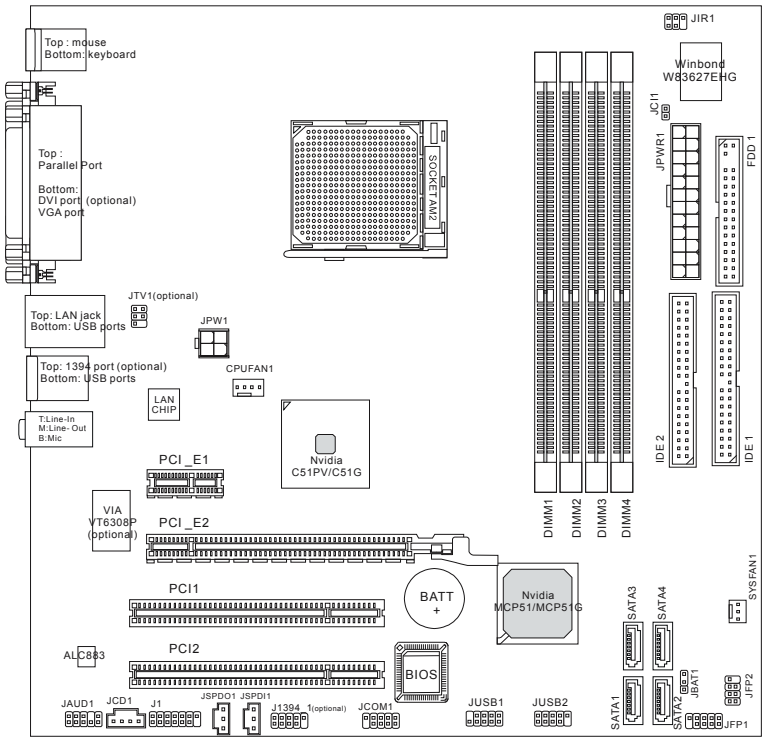
第 2 章では各コネクターとハードウェアの取り付けについて解説します。パーツの取り付けに際して、パーツの取り扱いおよび取り付け手順には細心の注意を払ってください。誤った方法でパーツを取り付けると、パーツに回復不能な損傷をもたらしたり、あるいはシステムの動作が不安定になる場合があります。

組み立てに際して以下の注意事項を守ってください。

- ◆ 組み立ての作業前に水道の蛇口の金属部分に触れるなどして、体に溜まった静電気を放出してください。また組み立て作業中にも、同様の処置を時おり行ってください。帯電防止バンドを用意できる場合はそれを着用してください。
- ◆ 組み立てが完了するまでコンセントに電源コードを接続しないでください。
- ◆ パーツの装着の際に手ごたえが固くてうまくはまらない場合は、パーツを無理に押し込まず、装着の向きや角度が正しいか、途中でぶつかっている箇所がないかを確認して下さい。
- ◆ 組み立てパーツは精密機器であり、衝撃に対して非常に敏感です。組み立て中に落としたりぶつけたりしないように注意してください。また、パーツは埃や過度の湿気にも弱いため、組み立て後の管理や手入れをしっかり行ってください。

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

クイックコンポーネントガイド



K9NGM / K9NGM2 (MS-7252) シリーズ M-ATX Mainboard

※上記レイアウト図は開発中のものであるため、改良により予告なく変更される場合があります。予めご了承ください。

※上記レイアウト図は K9NGM2 シリーズを掲載しています。

CPU に関する注意事項

本製品は AMD® Athlon ™ 64 X2 / Athlon ™ 64 FX /Athlon ™ 64 / Sempron プロセッサに対応したマザーボードです。本製品は Socket AM2 を採用し、CPU の取り付けが簡単に行えるように設計されています。CPU は動作中に大きな熱を持ちます。その熱を効率的に発散するためにヒートシンクと冷却ファンを必ず装着します。ヒートシンクと冷却ファンは CPU に同梱されているものを使用するか、AMD Athlon64 シリーズに対応するものを事前に用意してからセットアップを始めてください。
本製品がサポートする CPU については弊社のホームページで詳細を公開しています。
http://www.msi-computer.co.jp/support/cpusupport.html



CPU の装着 / 交換

CPU を着脱する時は、事前にコンセントから電源コードを抜いて下さい。通電中の CPU の交換は CPU の破損を招くだけでなく、感電の危険性があります。

CPU をソケットにセットする時は、ソケットに対して CPU を正しい向きにあわせます。この時には優しく慎重に作業を行ってください。また、取付時に CPU 裏面のピンには触れないように注意してください。

CPU の過熱

CPU をソケットにセットした後は、ヒートシンクとクーラーを装着します。これらの装着を忘れたり装着方法を誤ると、CPU の過熱を引き起こします。過熱が起こるとシステムのパフォーマンスが低下し、最悪の場合は CPU やマザーボードが破損します。システムの最初の起動時に CPU ファンが正常に動作することを必ず確認してください。

ヒートシンクを CPU に装着する際、必要に応じてシリコングリスを塗布してください。新品のヒートシンクを使用する場合、多くの製品ではシリコングリスが予め塗布されています。後からシリコングリスを付け足す場合は、古いシリコングリスをアルコールなどを使ってきれいに拭ってから、新たにシリコングリスを塗布します。

CPU の取り付け

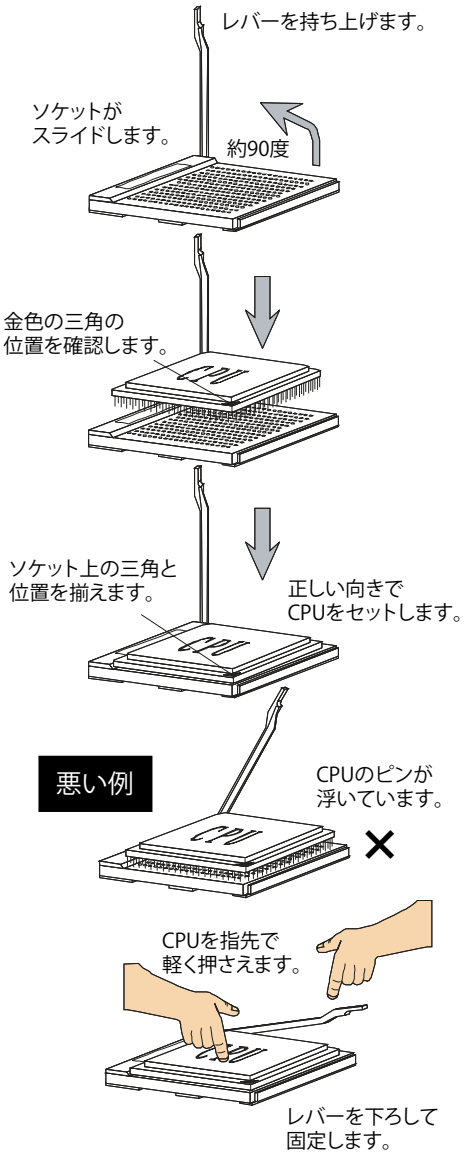
1. 取り付けの作業を始める前にコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

2. 固定レバーを横にずらし、90 度まで引き上げます。レバーの引き上げが甘いと CPU の取り付けが不十分になり動作不良やショートの原因になるのでご注意ください。

3. CPU 上の金色の三角印 (取り付け目印) と、ソケット上の三角印を合わせて CPU を装置します。

4. CPU が正しく装着された状態では、ピンがソケットにぴったりと差し込まれています。横から見てピンが浮いているような状態であれば、向きを確認して取り付けをやり直してください。間違った CPU の装着は CPU やマザーボードに重大な損傷を与えてしまいますので、くれぐれもご注意ください。

5. CPU を指でソケットにぐっと押し付けながら、固定レバーを倒して CPU を固定します。レバーで固定する際は CPU が押し戻される傾向があるので、レバーが固定されるまで CPU を抑える指を離さないでください。

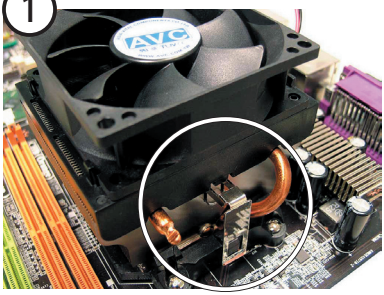


クーリングファンの取り付け

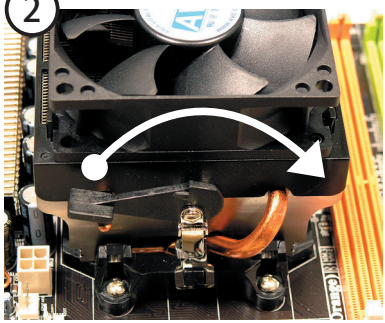
プロセッサのクロックスピードや性能の向上につれて、CPU の温度管理が非常に重要になっています。効果的な放熱を行うために CPU 上にヒートシンクとファンを取り付けます。

ヒント

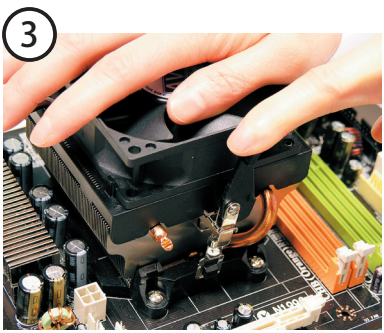
CPU にヒートシンクを装着する前に、CPU ファン用の電源コネクターの位置と、CPU ファンの電源ケーブルの飛び出し向きを確認してください。



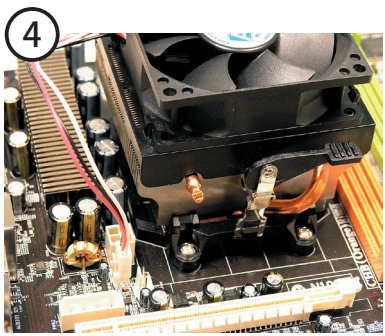
1. リテンションキットに固定金具を噛ませます。



2. レバーを逆サイドに倒します。



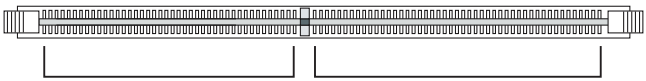
3. 片手でクーリングファンを押さえながらレバーを倒します。この時、ファンには触れないよう、ファンの縁を支えてください。



4. 最後にクーリングファンの電源ケーブルを接続します。組み立て完了後の最初の起動時に、ファンが正常に動作することを確認して下さい。

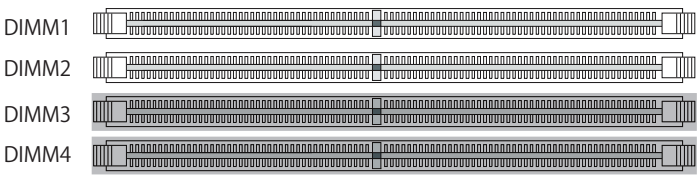
メモリー

本製品は 240 ピン DDR2 DIMM モジュールソケットを 4 スロット設けており、最大で 8GB のメモリーをサポートします。DDR2 規格は DDR1 との互換性は無く、スロットの切り欠きの位置も異なります。
最新のメモリーモジュール対応については MSI 台湾のホームページ (英語) を参照してください。
http://www.msi.com.tw/program/products/mainboard/mbd/pro_mbd_trp_list.php

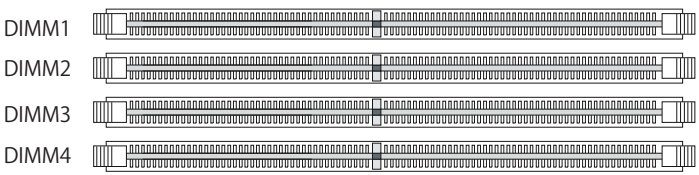


56 × 2 = 112 ピン　　64 × 2 = 128 ピン

デュアルチャンネルメモリーアクセスが機能するメモリーの装着パターンは以下の 2 通りです。



※ DIMM1 と DIMM2 にメモリーを装着。



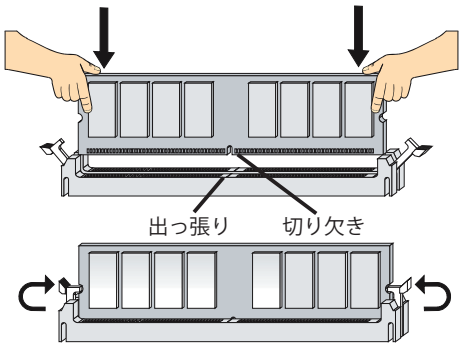
※全てのスロットにメモリーを装着。

注意！

・DIMM1 (CPU ソケットに最も近いスロット) には必ずメモリーを装着してください。
・異なる仕様、異なるメーカーのメモリーを組み合わせて使用した場合、製品本来のパフォーマンスが発揮されない場合があります。メモリーモジュールは 1 種類に統一して使用してください。

DDR DIMM の装着方法

1. DDR DIMM には中央付近に切り欠きが設けられています。切り欠きは中心から外れているため、間違った向きでは差し込めないように設計されています。
2. 基板が左右どちらかに傾かないよう、水平を保ったままスロットに差し込みます。
3. 最後に両サイドの固定クリップを基板に噛ませます。



ヒント

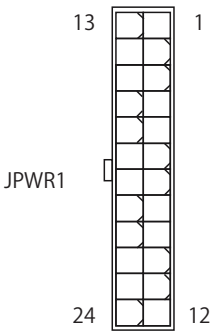
手ごたえが固くてうまく差し込めない場合は無理に力を入れず、左右が傾かないよう水平を保った状態でゆっくり押し込んでください。

電源コネクター

本製品は ATX 電源をサポートしています。電源コネクターを接続する前に、すべてのコンポーネントが正しく取り付けられていることを確認してください。

ATX24 ピン電源コネクター : JPWR1

本製品は ATX 24 ピンコネクターを使用します。コネクターには誤装着防止デザインが採用されており、間違った向きで差し込むことがないように配慮されています。

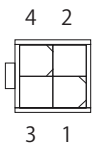


Pin Definition

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	+3.3V	13	+3.3V
2	+3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS-ON#
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	PWR OK	20	Res
9	5VSB	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V	23	+5V
12	+3.3V	24	GND

ATX12V コネクター : JPW1

本製品では補助電源として 2 種類の +12V コネクターを使用します。



JPW1

PIN	SIGNAL
1	GND
2	GND
3	12V
4	12V

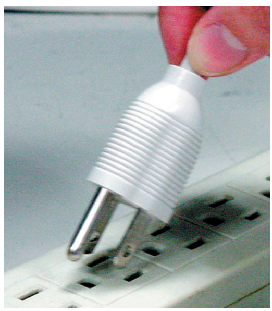
注意！

・安定動作のために 2 つの電源コネクター両方に適切な電源ケーブルを接続してください。

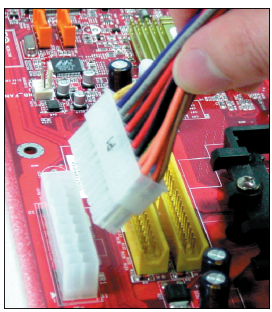
・350W 以上の品質の高い電源ユニットを使用してください。

電源に関する注意事項

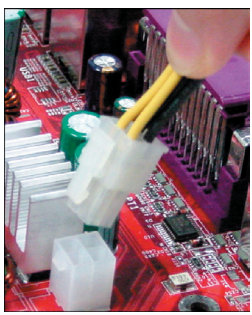
本製品は構造上、ESD(静電気放電) に対して非常に敏感であり、静電気によってコンポーネントが損傷を受け、システムが不安定になる場合があります。そのような事故を防ぐために、CPU やメモリーモジュールなどパーツを取り付ける場合には、電源ユニットに接続している AC 電源コード (図 A) コンセントから抜いた後に作業を行ってください。マザーボード上の電源コネクター (供給) を全て抜くことでも代用が可能です。



(図 A)



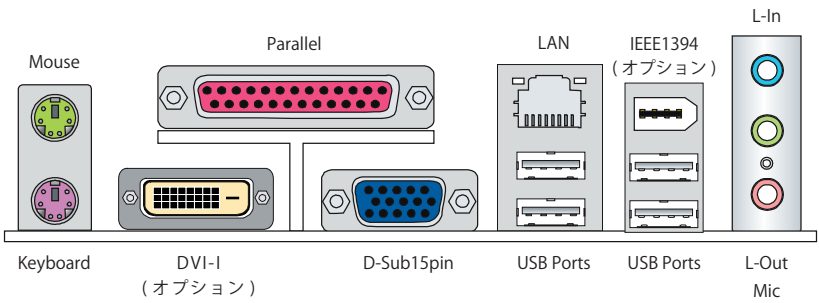
B -1. 24 ピン電源ケーブルを抜きます。



B -2. 12V 電源ケーブルを抜きます。

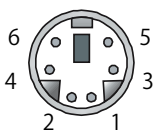
バックパネル

バックパネルの構成は下図の通りです。



マウス / キーボードコネクター

本製品は PS/2 マウス / キーボードを接続するための標準 PS/2 ミニ DIN コネクターが各 1 つずつ用意されています。このコネクターに PS/2 マウス / キーボードのケーブルを接続します。ピンアサインはについては下図を参照してください。



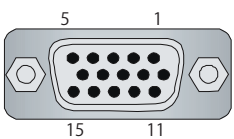
PS/2 Mouse / Keyboard
(6-pin Female)

Pin Definition

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	Mouse/Keyboard Data	Mouse/Keyboard data
2	NC	No connection
3	GND	Ground
4	VCC	+5V
5	Mouse/Keyboard Clock	Mouse/Keyboard clock
6	NC	No connection

VGA 出力ポート

本製品は内蔵グラフィック機能の映像出力コネクターとして、D-Sub15 ピン端子を搭載しています。

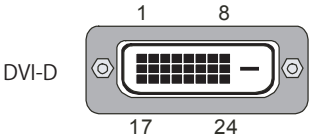


VGA Connector
(D-Sub 15-pin)

Pin	Signal Description	Pin	Signal Description
1	RED	2	GREEN
3	BLUE	4	N/C
5	GND	6	GND
7	GND	8	GND
9	+5V	10	GND
11	N/C	12	SDA
13	Horizontal Sync	14	Vertical Sync
15	SCL		

DVI-D ポート (K9NGM2 シリーズのみ)

内蔵グラフィック機能のデジタル映像出力コネクターとして、DVI-D 端子を搭載しています。



Pin Definition			
Pin	Signal Assignment	Pin	Signal Assignment
1	T.M.D.S.* Data2-	13	T.M.D.S. Data3+
2	T.M.D.S. Data2+	14	+5V
3	T.M.D.S. Data2/4 Shield	15	GND (for +5V)
4	T.M.D.S. Data4-	16	Hot Plug Detect
5	T.M.D.S. Data4+	17	T.M.D.S. Data0-
6	DDC Clock	18	T.M.D.S. Data0+
7	DDC Data	19	T.M.D.S. Data0/5 Shield
8	N/C	20	T.M.D.S. Data5-
9	T.M.D.S. Data1-	21	T.M.D.S. Data5+
10	T.M.D.S. Data1+	22	T.M.D.S. Clock Shield
11	T.M.D.S. Data1/3 Shield	23	T.M.D.S. Clock+
12	T.M.D.S. Data3-	24	T.M.D.S. Clock-

USB ポート

本製品は USB2.0 ポートを備えています。USB ポートはプリンターや外付け HDD、MP3 プレイヤーなどの多彩な機器との接続に利用されます。

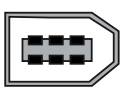


USB Ports

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	VCC	+5V
2	-Data 0	Negative Data Channel 0
3	+Data0	Positive Data Channel 0
4	GND	Ground
5	VCC	+5V
6	-Data 1	Negative Data Channel 1
7	+Data 1	Positive Data Channel 1
8	GND	Ground

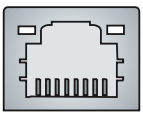
IEEE1394 6 ピン ポート (K9NGM2 シリーズのみ)

6 ピンタイプの IEEE1394 コネクターてず。

IEEE1394 6pin Port 

RJ-45 LAN ポート

PC をネットワークに接続する際に使用する RJ-45 端子を搭載しています。LAN ポートはブロードバンドモデムとの接続や LAN 環境を構築する場合に使用します。



RJ-45 LAN Jack

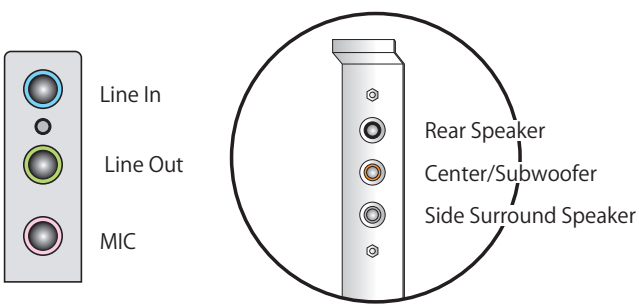
Giga-bit LAN Pin Definition

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	D0P	Differential Pair 0+
2	D0N	Differential Pair 0-
3	D1P	Differential Pair 1+
4	D2P	Differential Pair 2+
5	D2N	Differential Pair 2-
6	D1N	Differential Pair 1-
7	D3P	Differential Pair 3+
8	D3N	Differential Pair 3-

オーディオジャック

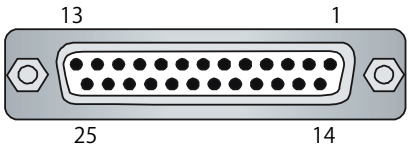
本製品のバックパネルには 3 穴のオーディオジャックを備えています。Line Out にはスピーカーまたはヘッドホン接続します。Line In には CD プレイヤー、MD プレイヤーなどの外部オーディオ機器を接続します。Mic にはマイクを接続します。Realtek ALC883 コーデックチップは 7.1 チャンネルオーディオをサポートしており、ユーザーの環境に応じて 4/5.1/7.1 チャンネルに切り替えることができます 。スピーカーの接続方法については本書の第 4 章を参照してください。

(関連項目 : 拡張オーディオピンヘッダー 2-20 ページ)



パラレルポートコネクター : LPT1

パラレルポート 25 ピンメスのコネクターです。パラレルポートは一時期までプリンタ出力用の標準インターフェイスとして利用されていました。Enhanced Parallel Port (EPP) と Extended capabilities Parallel Port (ECP) をサポートしています。



Pin Definition

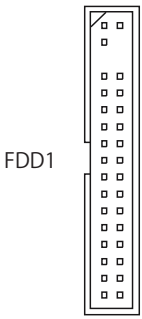
PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	STROBE	Strobe
2	DATA0	Data0
3	DATA1	Data1
4	DATA2	Data2
5	DATA3	Data3
6	DATA4	Data4
7	DATA5	Data5
8	DATA6	Data6
9	DATA7	Data7
10	ACK#	cknowledge
11	BUSY	Busy
12	PE	Paper End
13	SELECT	Select
14	AUTO FEED#	Automatic Feed
15	ERR#	Error
16	INIT#	Initialize Printer
17	SLIN#	Select In
18	GND	Ground
19	GND	Ground
20	GND	Ground
21	GND	Ground
22	GND	Ground
23	GND	Ground
24	GND	Ground
25	GND	Ground

コネクター

本製品には、フロッピーディスクドライブ、IDE ハードディスクドライブ、ケース、拡張 USB ポート、CPU/ 電源 / システムファンに接続する各種コネクターが用意されています。

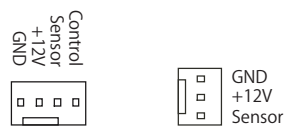
FDD コネクター : FDD1

本製品は 360K、720K、1.2M、1.44M 及び 2.88M のフロッピーディスクドライブに対応しています。FDD の接続の際には製品付属の FDD ケーブルを使用してください。



ファン電源コネクター : CPUFAN1 / SYSFAN1

これらのコネクターは +12V の冷却ファンをサポートします。原則としてコネクターの切り欠きの向きを合わせれば、極性が正しく接続されます。余裕があれば赤いコードが +12V に、黒いコードが GND に接続されていることを確認して下さい。

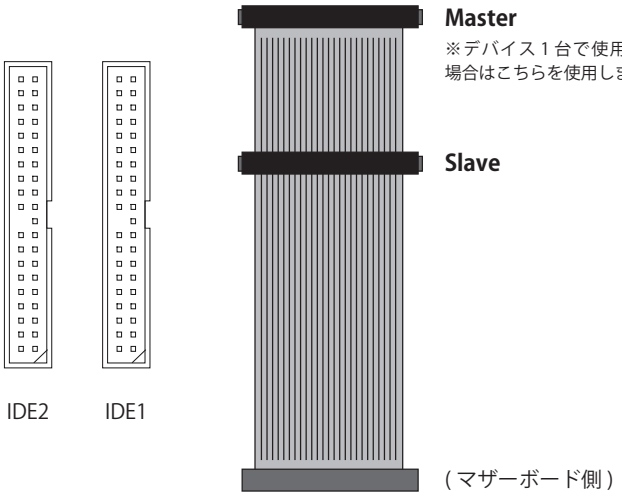


注意！

・冷却ファンは発熱量に見合った適切なものを選択してください。CPU ベンダーのウェブサイトでは CPU ファンに関する技術情報が公開されています。

IDE コネクター : IDE1 / IDE2

本製品は PIO モード 1 ～ 4/Bus Master/Ultra DMA 133/100/66 をサポートする IDE コネクターを 2 本搭載しています。1 つのコネクターには 2 台の Ultra ATA デバイスを接続することができます。



IDE ケーブル

注意!

IDE コネクターにデバイスを 2 台接続する場合は、ジャンパピンを使用して 2 台目のデバイスを Slave(スレーブ) に設定します。ジャンパ設定についてはハードディスクメーカーが提供する技術情報を参照してください。

ケース開放センサーピンヘッダー : JCI1

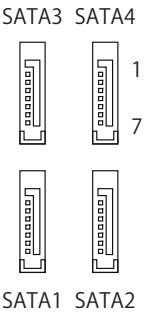
このコネクターは 2 ピンのケーススイッチを接続します。ケースが開けられると、ケース開放センサーはショート状態になります。システムは信号を記録し、警告メッセージを画面に表示します。この警告メッセージを消去するには、BIOS Setup ユーティリティに入って記録を消去する必要があります。



JCI 1

シリアル ATA コネクター : SATA 1 ～ 4

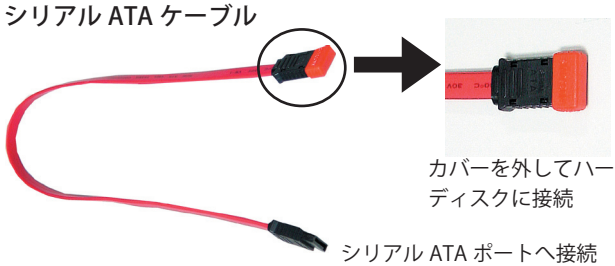
本製品は 4 ポートの SATA をサポートします。シリアル ATA Ⅱ は最大で 300MB/ 秒 (理論値) の転送速度を誇る最新の IDE 規格です。シリアル ATA の大きな特徴として細いケーブルを使用しており、ケース内の空気の循環を妨げません。データアクセスが高速化するだけでなく、廃熱管理が向上するのは大きなメリットです。
1 つのコネクターに対して 1 台のハードディスクを接続します。デイジーチェーンには対応していません。



Pin Definition

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	GND	2	TXP
3	TXN	4	GND
5	RXN	6	RXP
7	GND		

シリアル ATA ケーブル

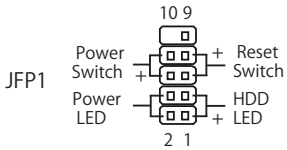


注意!

- シリアル ATA ケーブルはケーブルに折り目を残る程、強く鋭角に折り曲げないでください。データ転送時のデータ損失の原因になります。
- シリアル ATA ブラケットを使用する場合、システム電源が ON の間は絶対に HDD の取り付け / 取り外しを行わないでください。
- K9NGM シリーズは SATA を 2 ポート (SATA1, SATA2)、K9NGM2 シリーズは SATA を 4 ポート (SATA1 ～ SATA4) をサポートします。

フロントパネルピンヘッダー : JFP1 / JFP2

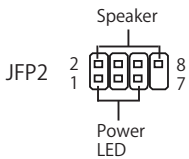
フロントパネルの電源スイッチや状態表示 LED と信号のやり取りをするための、フロントパネルピンヘッダーです。JFP2 は Intel 社が提唱するフロントパネル I/O 接続デザインガイドに準拠しています。



JFP1 Pin Definition

PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	HD_LED_P	Hard disk LED pull-up
2	FP PWR/SLP	MSG LED pull-up
3	HD_LED_N	Hard disk active LED
4	FP PWR/SLP	MSG LED pull-up
5	RST_SW_N	Reset Switch low reference pull-down to GND
6	PWR_SW_P	ower Switch high reference pull-up
7	RST_SW_P	Reset Switch high reference pull-up
8	PWR_SW_N	Power Switch low reference pull-down to GND
9	RSVD_DNU	Reserved. Do not use.

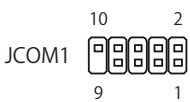
JFP2 Pin Definition



PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	GND	2	SPK-
3	SLED	4	BUZ+
5	PLED	6	BUZ-
7	NC	8	SPK+

シリアルポートピンヘッダー : JCOM1 (オプション)

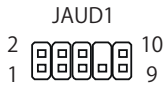
COM2 ブラケットを接続し、拡張シリアルポートとして使用することができます。COM2 ブラケットは別売りになります。



PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	DCD	Data Carry Detect
2	SIN	Serial In or Receive Data
3	SOUT	Serial Out or Transmit Data
4	DTR	Data Terminal Ready)
5	GND	Ground
6	DSR	Data Set Ready
7	RTS	Request To Send
8	CTS	Clear To Send
9	RI	Ring Indicate

フロントパネルオーディオピンヘッダー : JAUD1

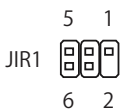
フロントパネル オーディオピンヘッダーを使用すると、フロントパネルからのオーディオ出力が可能になります。ピン配列は Intel Front Panel I/O Connectivity Design Guide に準拠しています。



PIN	SIGNAL	DESCRIPTION
1	PORT 1L	Analog Port 1 - Left channel
2	GND	Ground
3	PORT 1R	Analog Port 1 - Right channel
4	PRESENCE#	Active low signal - signals BIOS that a High Definition Audio dongle is connected to the analog header. PRESENCE# = 0 when a High Definition Audio dongle is connected.
5	PORT 2R	Analog Port 2 - Right channel
6	SENSE1_RETIRN	Jack detection return from front panel JACK1
7	SENSE_SEND	Jack detection sense line from the High Definition Audio CODEC jack detection resistor network
8	KEY	Connector Key
9	PORT 2L	Analog Port 2 - Left channel
10	SENSE2_RETIRN	Jack detection return from front panel JACK2

IrDA 赤外線モジュールピンヘッダー : JIR 1

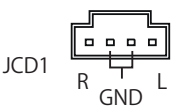
赤外線モジュールに接続するためのコネクターです。この機能を使用するためにはシステム BIOS で IR 機能の設定を行う必要があります。ピン配列は Intel Front Panel I/O Connectivity Design Guide に準拠しています。



Pin	Signal	Pin	Signal
1	NC	2	NC
3	VCC5	4	GND
5	RTX	6	IRRX

CD-IN コネクター : JCD1

CD-ROM ドライブ等のオーディオコネクターを接続します。Windows XP などの環境で使用する場合は、このケーブルを接続しなくてもオーディオの再生が可能です。



フロント USB コネクター : JUSB1 / JUSB2

本製品には拡張 USB 2.0 ピンヘッダを搭載しています。USB 2.0 テクノロジーは最大スループット 480Mbps(理論値) を誇り、旧来の USB1.1 と比較して 40 倍の高速データ転送を行えるようになりました。USB は汎用性が非常に高く、外付け USB ハードディスクやデジタルカメラ、MP3 プレイヤー、プリンタなど様々な機器に対応します。

JUSB1



JUSB2



Pin Definition

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	VCC	2	VCC
3	USB0-	4	USB1-
5	USB0+	6	USB1+
7	GND	8	GND
9	Key (no pin)	10	USBOC



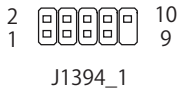
穴の無い 9 ピンの位置を
確認して下さい。

※ USB ブラケット (別売り)

注意! 配線の際には VCC と GND を間違えないようにご注意ください。この配線を誤るとマザーボードあるいは接続した USB 機器が損傷するおそれがあります。

IEEE1394 コネクター : J1394_1 (オプション)

オプションの IEEE 1394 ブラケットを使用して、IEEE1394 機器と接続することができます。この機能は製品によって搭載 / 非搭載が異なります。



J1394_1

Pin Definition

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	TPA+	2	TPA-
3	Ground	4	Ground
5	TPB+	6	TPB-
7	Cable power	8	Cable power
9	Key (no pin)	10	Ground



※ IEEE1394 ブラケット (別売り)

拡張オーディオピンヘッダー : J1

拡張オーディオブラケットを接続して 7.1ch 出力または SPDIF 出力を行います。



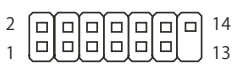
JSPDO
(SPDIF-Out)



JSPDI
(SPDIF-In)

※ SDDIF コネクターは
オプションです。

拡張オーディオ
ブラケット (別売り)

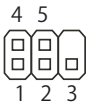


J1

PIN	SIGNAL	PIN	SIGNAL
1	LEFOut	2	SURROutR
3	CENTEROut	4	SURROutL
5	SURRBackR	6	SURRJD
7	SURRBackL	8	CENJD
9	SURRBackJD	10	Ground
11	Ground	12	Ground
13	NC	14	Ground

TV-Out コネクター : JTV1 (オプション)

TV-Out ブラケットを接続して VGA 出力を行います。TV-Out ブラケットは HD-TV 出力をサポートしています。

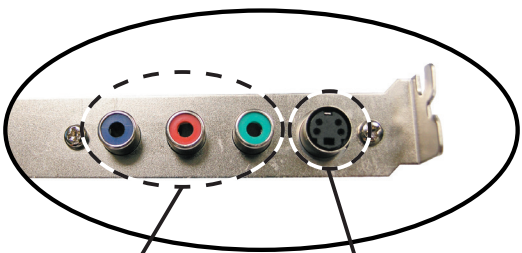


JTV 1

Pin	Description	Pin	Description
1	GND	4	COMP
2	Y	5	GND
3	C		



TV-Out ブラケット
(別売り)



注意! S 端子と RCA コンポジット端子は排他利用になります。TV-Out ブラケットから 2 台のテレビに映像を出力することはできません。

CMOS クリア

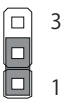
本製品には CMOS RAM が搭載されており、内蔵電池から電気が供給されることでシステム情報や BIOS の設定を保持しています。この CMOS RAM に蓄えられたデバイス情報によって、OS を迅速に起動させることが可能になります。内蔵電池は通例 2 年以上の電気供給が可能です。
間違ったシステム設定が原因で PC が起動しなくなるトラブルが発生した場合、この CMOS RAM のデータをクリアし、データを初期状態に戻すことでトラブルを回避できることがあります。ボタンスイッチあるいはジャンパ操作 (モデルにより異なります) で CMOS クリアを行います。

クリア CMOS ジャンパ : JBAT 1

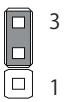
システム電源を落とし、コンセントから電源ケーブルを抜きます。2 ピンと 3 ピンをショートさせ、1 分ほどその状態にしておくと CMOS データがクリアされます。クリア操作が終わったら、元の 1 ピンと 2 ピンにジャンパピンをセットし直します。その後、最初の起動で BIOS 画面を開いてデフォルト設定をロードしてください。電源を投入する前に、必ずジャンパピンの状態を確認して下さい。



JBAT1



データを保存



データをクリア



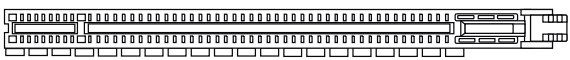
システムが起動している時の CMOS クリアーは絶対に行わないで下さい。マザーボードやその他のハードウェアの破損、あるいは火災などにつながる危険性があります。

スロット

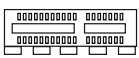
PCI Express スロット

PCI Express は、周辺機器と通信環境の高速化に対応するべく制定された次世代のシリアルバス規格です。PCI Express はポイントツーポイントのシリアル伝送を採用しているため、1 方向あたり 2 本、双方向で 4 本の信号ラインが必要となります。この 1bit シリアル転送を行う最小限の構成を 1 レーンと呼びます。1 レーンの転送能力は、250MB/ 秒です。1 レーンあたり 250MB/ 秒という転送速度は、従来の 32 ビット PCI バスの転送速度の約 2 倍にあたります。
PCI Express は用途によって 1 レーン (PCI Express 1x) から 16 レーン (PCI Express 16x) まで束ねて使用することが可能です。ギガビットイーサネットコントローラー、TV チューナーカード、IEEE1394 カードといった高速なデータ転送を要求されるカードを PCI Express に接続にすることで、従来以上に高速かつ安定したシステムを構築できます。
ビデオカードに関しては主流であった AGP8x バス (帯域幅 2.1GB/ 秒）から PCI Express 16x（帯域幅 4.0GB/ 秒）への移行が進んでいます。システムバス全体が PCI Express になることにより、高性能 CPU を初めとした各種コンポーネントの実力をフルに発揮し、システム全体の性能アップが期待できます。

PCI Express x16

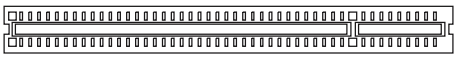


PCI Express x1



PCI (Peripheral Component Interconnect) スロット

PCI スロットは最も汎用性の高い拡張スロットで、対応する様々な拡張カードが発売されています。拡張カードの取り外しに際しては、必ず最初に電源コードをコンセントから抜いてください。拡張カードに添付されているマニュアルを読んで、ジャンパ、スイッチ、BIOS など必要なハードウェア設定、ソフトウェア設定を行ってください。



PCI Slot

PCI 割り込み要求ルーティング

ハードウェアが CPU に対して割り込み要求信号を発し、PC はこれを受けてデバイスの動作 (イベントの発生) を処理します。標準的な PCI バスの IRQ 設定は以下の通りです。PCI の IRQ ピンは通常 PCI バス INT E# から INT H# ピンに下表のように接続されています。

	Order 1	Order 2	Order 3	Order 4
PCI Slot 1	INT E#	INT F#	INT G#	INT H#
PCI Slot 2	INT F#	INT G#	INT H#	INT E#

第 3 章
BIOS の設定

この章は CMOS SETUP Utility (以下、BIOS 設定と表記) について説明します。ユーザーの用途に合ったシステム設定を行うことで、より快適に PC を使用できるようになります。また、以下に該当する場合は BIOS 画面を起動して設定値を適宜変更してください。

● システムの起動中に画面にエラーメッセージが表示され、BIOS のセットアップをやり直すようにメッセージが表示された。

● BIOS を更新した直後にデフォルト設定をロードする。

※ BIOS は不定期に改良バージョンがリリースされます。BIOS のバージョンによって設定項目や選択する内容が異なる場合があります。

※システムを起動すると、BIOS のバージョンが画面の上部に表示されます。表示形式は A7252NMS V1.0 041506 のように表示されます。

1 桁目	: "W" は AWARD BIOS、"A" は AMI BIOS
2-5 桁目	: 製品のモデル番号
6 桁目	: "I" は Intel、"V" は VIA、"N" は nVIDIA
7-8 桁目	: MS は標準出荷バージョン
V1.0	: BIOS バージョン
041506	: 2006 年 4 月 15 日リリース

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

BIOS セットアップ画面の起動

電源を投入するとハードウェアの初期化が始まり、POST (Power On Self Test) 画面が現れます。以下のメッセージが表示されている間に、<DEL> キーを押して BIOS セットアップ画面を呼び出します。

Press DEL to enter SETUP

BIOS セットアップ画面を呼び出せなかった場合は、システムを再起動して同様の操作を行ってください。電源ボタンを押した直後に <Delete> キーを押しっぱなしにしておけば、ほぼ確実に BIOS セットアップ画面が開きます。

コントロールキー

BIOS 画面内はキーボードで操作を行います。

< ↑ >	前項目へ移動
< ↓ >	次項目へ移動
< ← >	左項目へ移動
< → >	右項目へ移動
< Enter >	項目を選択
< ESC >	前メニューに戻る
< + / PU >	数値を上げる
< − / PD >	数値を下げる
< F6 >	Optimized Defaults をロード
< F10 >	設定変更を保存して BIOS 画面を終了

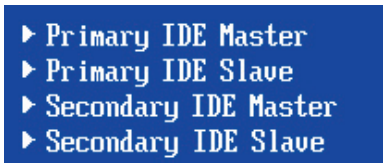
BIOS 画面内を立ち上げると、最初にメインメニューが表示されます。

メインメニュー

メインメニューには BIOS が提供する設定項目が各カテゴリー別に表示されます。矢印キー (↑ ↓) を使って項目を選択してください。カーソルが当たってハイライトされた設定項目の説明 (英語) が画面の下部に表示されます。

サブメニュー

項目の左手に三角のポイントが表示されている場合は、その項目にサブメニュー(下位メニュー)が用意されていることを示しています。矢印キーでカーソルを移動し、<Enter> キーを押すとサブメニューが表示されます。



Help <F1> キー

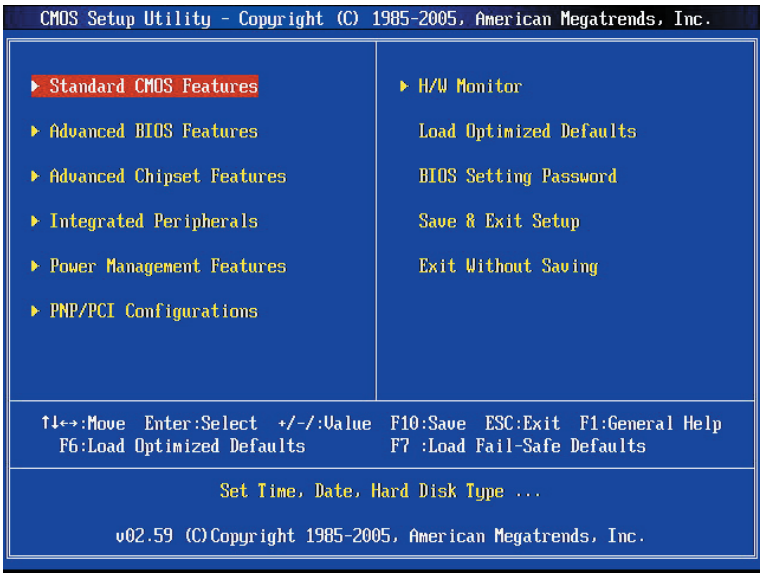
BIOS 画面を表示中に <F1> キーを押すとヘルプ画面が表示されます。ヘルプ画面では設定オプションや操作に必要なキーを表示します。<Esc> キーでヘルプ画面を閉じます。



・ユーザーの環境で実際に表示される項目は、BIOS バージョンや接続した機器などの理由で、本章の挿入図と異なる場合があります。また BIOS は継続的に開発 / 改良が行われており、設定項目や設定方法が予告なく変更される場合があります。

Main Menu

CMOS Setup Utility 画面 (以下 BIOS 画面と表記) に入ると、メインメニュー（下図）がスクリーンに表示されます。矢印キーを使って項目を選択し、<Enter> キーを押してサブメニューを開きます。



Standard CMOS Features
日付 / 時刻などのシステムの基本的な設定を行います。

Advanced BIOS Features
拡張機能の設定を行います。

Advanced Chipset Features
チップセットの機能に関連した各種の設定を行い、システムの性能を最適化します。

Integrated Peripherals
IDE、サウンド機能、グラフィック機能などの各種オンボード機能の設定を行います。

Power Management Features
電源管理に関する設定を行います。

PNP/PCI Configurations
プラグアンドプレイ機器や PCI バスに関する設定を行います。

H/W Monitor
CPU 温度やファン回転数、警告表示などが確認できます。

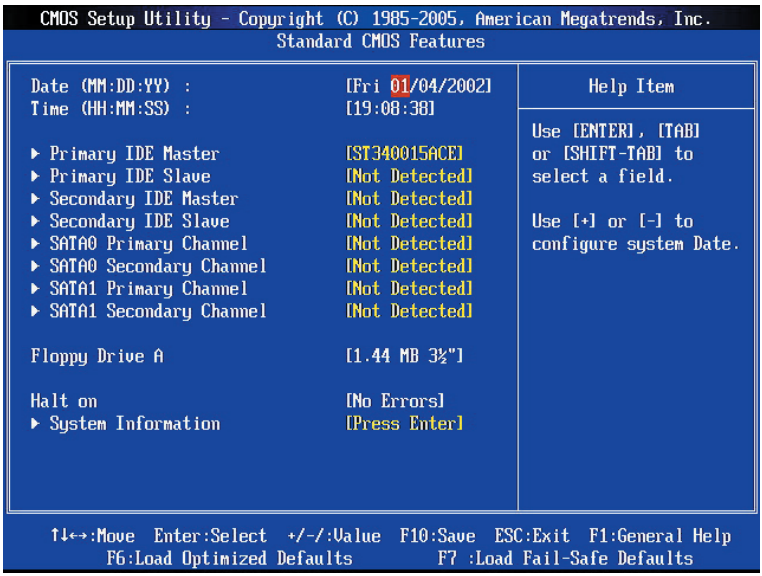
Load Optimized Defaults
Optimized Defaults(工場出荷時の設定) をロードします。動作の安定性と性能の釣り合いが取れた設定値です。

BIOS Setting Password
設定変更を行えるユーザーを制限するためにパスワードを設定します。

Save & Exit Setup
変更した設定値を保存して終了します。

Exit Without Saving
変更した設定値を保存せずに終了します。

Standard CMOS Features



Date (MM:DD:YY)

システムの曜日 / 日付を設定します。

day　曜日。Sun(日曜日) から Sat(土曜日)。BIOS の自動計算で日付から自動的に決定されます。

month　月。Jan ～ Dec。
Jan (1 月)、Feb (2 月)、Mar (3 月)、Apr (4 月)、May (5 月)、Jun (6 月)、Jul (7 月)、Aug (8 月)、Sep (9 月)、Oct (10 月)、Nov (11 月)、Dec (12 月)

date　日。1 ～ 31。ユーザーが正しい値を設定します。

year　年。ユーザーが正しい値を設定します。

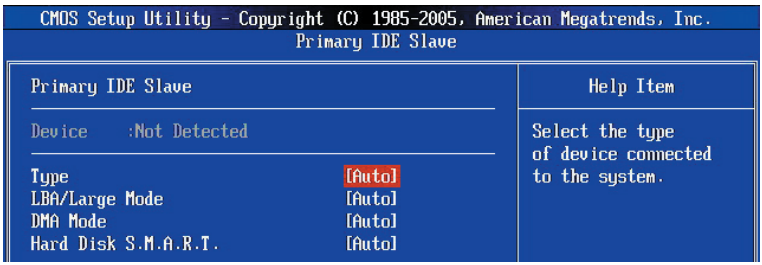
Time (HH:MM:SS)

システムの時刻設定を行います。形式は < 時 >< 分 >< 秒 > です。

Primary/ Secondary IDE Master/ Slave, Serial-ATA 0/1 Primary/ Secondary Channel

Master または Slave、いずれかのチャンネルを選択して <Enter> キーを押すとサブメニューが表示されます。

(画面は次ページ)



Device/ Vender/ Size/ LBA Mode/ Block Mode/ PIO Mode/ Async DMA/ Ultra DMA/ S.M.A.R.T.

IDE チャンネル、SATA チャンネルに接続されたデバイスの情報を表示します。

Type

IDE チャンネル、SATA チャンネルに接続されたデバイスの情報を表示します。設定オプションは [Not Installed], [Auto], [CD/DVD], [ARMD] です。

LBA/Large Mode

LBA モードの有効 / 無効を設定する項目で、設定オプションは [Auto] と [Disabled] です。LBA(Logical Block Addressing) とは、HDD のデータを一定の大きさで括り、それらに対して 0 から順番にアドレスを振っていく仕組みです。

DMA Mode

DMA (Direct Memory Access) モードの有効 / 無効を設定します。DMA は CPU を介さずにメモリーとデータストレージがデータアクセスを直接行うので、高速なデータアクセスが可能になります。設定オプションは [Auto] です。

Hard Disk S.M.A.R.T.

HDD の S.M.A.R.T. (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能の有効 / 無効を設定します。S.M.A.R.T. とは HDD を監視して、HDD の消耗によるディスクエラーを事前に察知し、ユーザーに知らせます。この機能によりユーザーはデータ損失が起こる前にデータのバックアップを行うことができます。設定オプションは [Auto], [Enable], [Disabled] です。

Floppy Drive A

フロッピードライブの種類を設定します。選択肢は [None], [360 KB, 51/4], [1.2 MB, 51/4], [720 KB, 31/2], [1.44 MB, 31/2], [2.88MB, 31/2] です。フロッピーディスクを使用しない場合は [Disabled] を選択します。

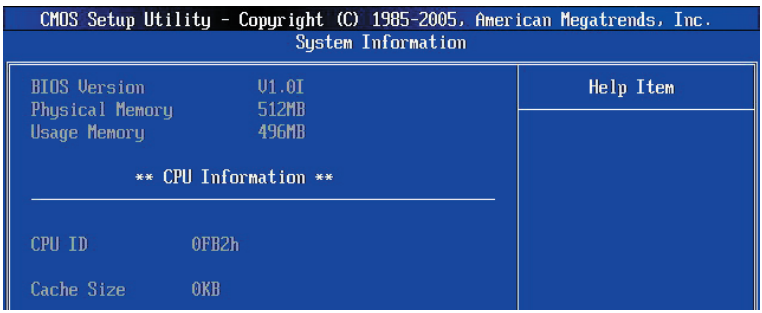
Halt On

起動時にエラーが発生した場合にシステムの動作を設定します。

No Errors	エラーが発生してもシステムは止まりません。
All, But Keyboard	キーボードエラーではシステムは止まりません。

System Information

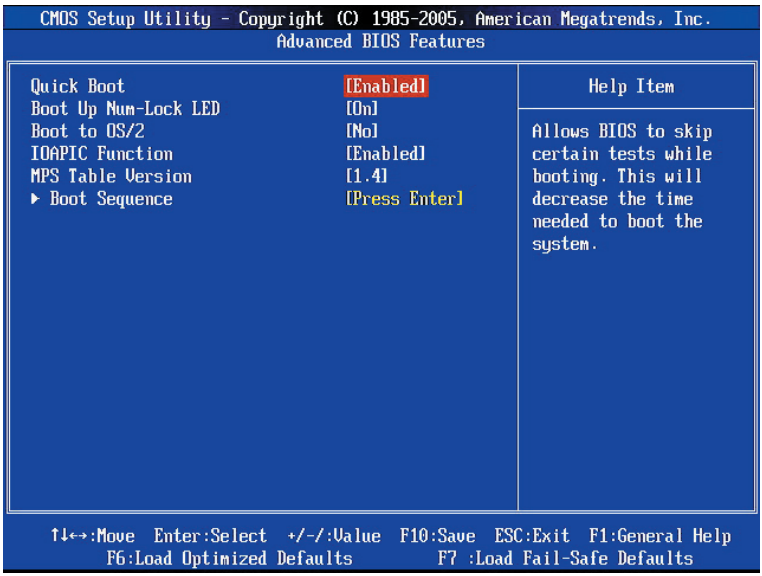
<Enter> キーを押すと以下のサブメニューが表示されます。



BIOS Version/ Physical Memory/ Usage Memory/ CPU Information

BIOS バージョン、搭載システムメモリー容量、消費システムメモリー、CPU 情報を表示します。(読み取り専用)

Advanced BIOS Features



Quick Boot

[Enabled] に設定すると、いくつかのデバイスチェックを省略して迅速なシステム起動を行います。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Boot Up Num-Lock LED

起動時の Num-Lock 設定 (テンキーの有効 / 無効) を選択します。[On] に設定すると Num-Lock が ON(テンキーが有効)、[Off] に設定すると Num-Lock が OFF(テンキーが無効) になります。

Boot To OS/2

システムメモリーが 64MB 以上ある環境で OS/2 の起動を許可する項目です。[No] を選択すると 64MB 以上のシステムメモリーを搭載した環境では OS/2 を起動できず、[Yes] では起動が可能になります。

IOAPIC Function

APIC(Advanced Programmable Interrupt Controller) の有効 / 無効を選択します。PC2001 デザインガイド準拠の条件として、APIC のサポートが必須となります。APIC を有効にすると IRQ リソースが拡張されます。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

MPS Table Version

ここでは OS に対してどの MPS(Multi-Processor Specification) バージョンを使うかを選択することができます。MPS は PC ベンダーが 2 個以上の CPU を使った Intel アーキテクチャシステムを設計する時に使う規格です。Novell Intranet Ware 4.1 などのサーバー OS は MPS1.4 をサポートします。最適な設定については OS ベンダーにお問い合わせください。設定オプションは [1.4] と [1.1] です。

Boot Sequence

ブートデバイスの設定を行います。<Enter> キーを押すと以下のメニューが表示されます。



1st Boot Device

ブート (起動) ディスクの優先順位を 3 つまで設定します。

Boot From Other Device

[Yes] に設定すると、1st / 2nd / 3rd ブートの全てに失敗した場合に、その他のドライブでブートを試みます。

Hard Disk Drives

ブートをかける HDD を選択します。

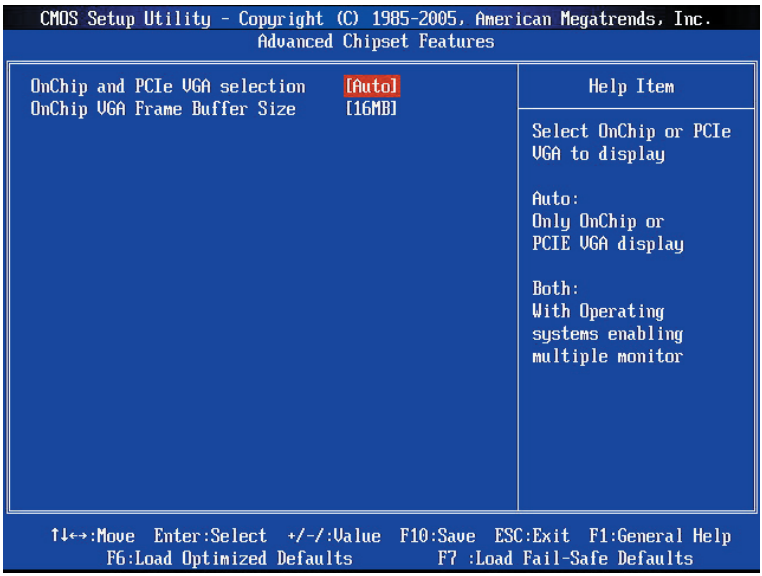
Removable Drives

ブートをかけるリムーバブルディスクを選択します。

CD/DVD Drives

ブートをかける光学ドライブを選択します。

Advanced Chipset Features



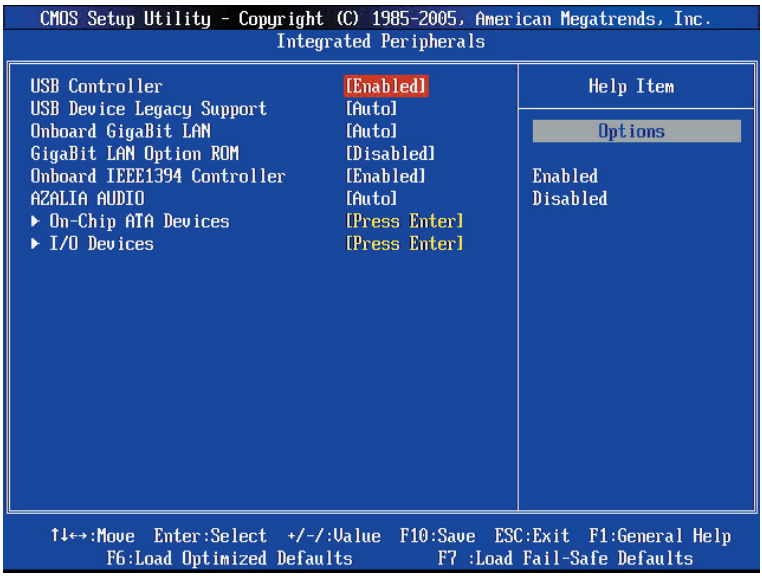
OnChip and PCIe VGA selection

本製品ではオンボードVGA機能とPCI Expressスロットに装着した拡張VGAカードの同時に使用することができます。設定オプションは [Auto] と [Both] です。

OnChip VGA Frame Buffer Size

システムメモリーに設けるビデオメモリーのサイズを設定します。一般に大きな値を設定した方がパフォーマンスは向上しますが、全体のメモリー容量に対してビデオバッファー領域が大きくなりすぎると、逆にパフォーマンスが落ちます。設定オプションは [Disabled], [16MB], [32MB], [64MB], [128MB] です。

Integrated Peripherals



USB Controller

USB1.1 コントローラーの有効 / 無効を決定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

USB Device Legacy Support

[Enabled] に設定すると、USB をサポートしない OS 環境 (DOS、SCO Unix など)、あるいは USB2.0 をインストールしない条件下でも USB 機器を使用できます。設定オプションは [Auto], [Disabled] です。



USB Device Legacy Support に関連した項目を有効に設定しても、機器や環境によっては使用できない場合があります。また、この設定は USB の転送速度 (USB1.1 もしくは USB2.0) を保証するものではありません。

Onboard GigaBit LAN

オンボード LAN コントローラーの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Auto] と [Disabled] です。

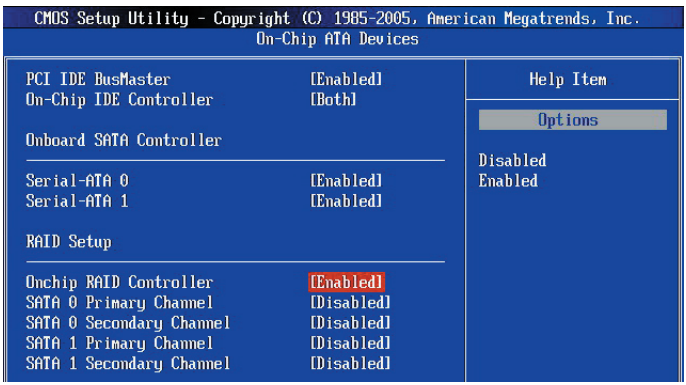
GigaBit LAN Option ROM

オンボード LAN オプション ROM (ブート ROM) の有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Onboard IEEE1394 Controller
オンボード IEEE1394 コントローラーの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Azalia Audio
HD オーディオ コントローラーの有効 / 無効を設定します。

On-Chip ATA Devices
<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



PCI IDE BusMaster
PCI IDE バスマスターの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

On-Chip IDE Controller
IDE チャンネルの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Disabled], [Primary], [Secondary], [Both] です。通常は [Both] で使用します。

Serial-ATA 0/1
SATA コントローラーの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Onchip RAID Controller
オンボード RAID コントローラーの有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

SATA 0/ 1 Primary/ Secondary Channel
RAID で使用する SATA チャンネルを決定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。[Enabled] に設定したチャンネルを RAID アレイに組み込むことができます。

※ K9NGM シリーズは SATA0 Primary/Secondary の 2 チャンネルが表示されます。

I/O Devices

<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



Onboard Floppy Controller

オンボードフロッピーコントローラ (FDC) の有効 / 無効を切り替えるときに使用します。フロッピーディスクドライブを使用するときは [Enabled] にしてください。別途 FDC をインストールする場合は [Disabled] に設定します。

COM Port 1

シリアルポート 1 の I/O ポートアドレスを設定します。設定オプションは [2F8/IRQ3], [3F8/IRQ4], [2E8/IRQ3], [3E8/IRQ4], [Disabled] です。

IR Function

IrDA ポートの動作モードを設定します。

Disabled	IrDA を無効にします
Enabled	IrDA 準拠シリアル赤外線ポート

Parallel Port

パラレルポートの I/O ポートアドレスを設定します。

Disabled	無効
3BC	プリンタポート 0
278	プリンタポート 2
378	プリンタポート 1

Parallel Port Mode

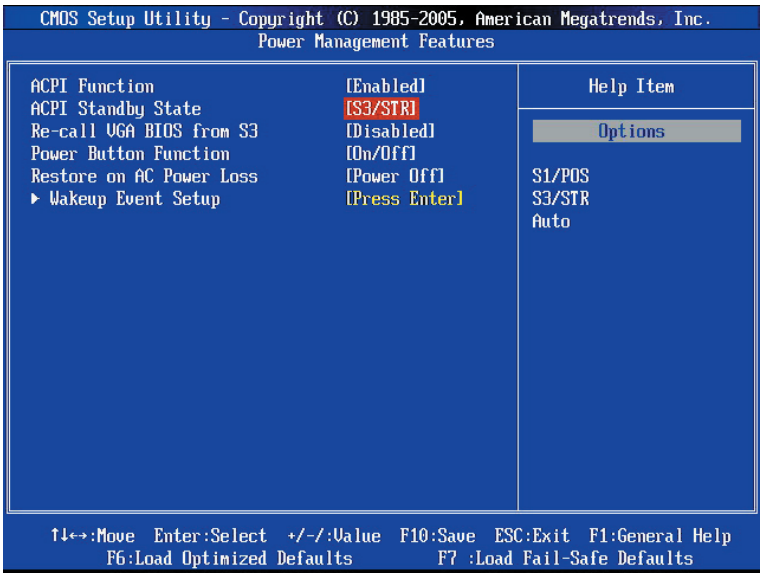
EPP :	Enhanced Parallel Port
ECP :	Extended Capability Port
ECP + EPP :	Extended Capability Port + Enhanced Parallel Port
Normal :	Standard Parallel Port (SPP)
Bi-Directional :	Bi-Directional (双方向モード)

オンボードパラレルポートを標準パラレルポートとしてのみ使用する場合は、[Normal] を選択してください。同時に EPP モードとしても使用する場合は [EPP] を選択してください。[ECP] を選択すると、ECP モードでのみ動作します。ECP+EPP を選択することによって、ECP と EPP を同時にサポートできます。

Parallel Port IRQ

オンボードパラレルポートの IRQ を設定します。設定オプションは [IRQ5], [IRQ7] です。

Power Management Features



注意！ この節で記述される S3 ステートに関連した機能は、OS やハードウェアが S3 機能をサポートする場合のみ使用できます。

ACPI Function

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能の有 / 無効を設定します。ACPI とは省電力管理に関する規格で、OS が電力管理を行う点を特徴としています。ご使用になる OS が ACPI に対応している場合 (Windows 2000 / XP) は [Enabled] に設定してください。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

ACPI Standby State

ACPI 省電力モードを指定します。Windows2000 / XP などの ACPI をサポートする OS を使用する場合は、この項目の設定によって S1(POS) または S3 (STR) の省電力モードへの切り替えが可能です。設定は以下の通りです。

[S1/ POS]	S1 は CPU/ チップセット / システムメモリーに通電した状態で待機します。システムの復帰時間が速いのが特徴です。
[S3 / STR]	動作状態をシステムメモリーに記憶して、メモリー以外のその他のデバイスへの電源供給を停止します。復帰にやや時間が掛かりますが、S1 と比べて省電力効率が高くなります。
[Auto]	BIOS が自動的に最適な設定を行います。

Re-Call VGA BIOS from S3

[ACPI Standby State] 設定項目を [S3/STR] に設定すると、システムは S3 (Suspend to RAM) 状態から VGA BIOS を初期化できるようにします。この項目を [Disabled] にしておけば S3 モードから起動する時間は短縮されます。但し、VGA カードのドライバがこの機能をサポートしていない場合は、モニタの表示に不具合が生じることがあります。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Power Button Function

パワーボタンの機能を設定します。設定オプションは以下の通りです。

[On/Off]	通常のオン / オフボタンとして動作します。
[Suspend]	電源ボタンを押すとサスペンド / スリープモードに入ります。 4 秒以上押すと電源オフになります。

Restore on AC Power Loss

システムの電源が正規の終了操作でシャットダウンされなかった場合の動作を設定します。

[Power Off]	シャットダウンしたままになります。
[Power On]	不正なシャットダウン後に再起動します。
[Last State]	不正なシャットダウン後に再起動して、シャットダウン前の状態を再現します。(完全には再現できません)

Wakeup Event Setup

<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



Resume From S3 by PS/2 KB

PS2 キーボードの信号で S3 サスペンドモードからの復帰する / しないを設定します。[Specific Key] を選択した場合は「Keyboard Password」で復帰パスワードを設定します。

Resume From S3 by PS/2 MS

PS2 マウスの信号で S3 サスペンドモードからの復帰する / しないを設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Resume by PCI Device (PME#)

特定のハードウェアの動作あるいは入力信号 (PME : Power Management Event) が確認された場合に、システムが S1 / S3 または省電力モードから復帰するかを設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Resume by PCIE Device

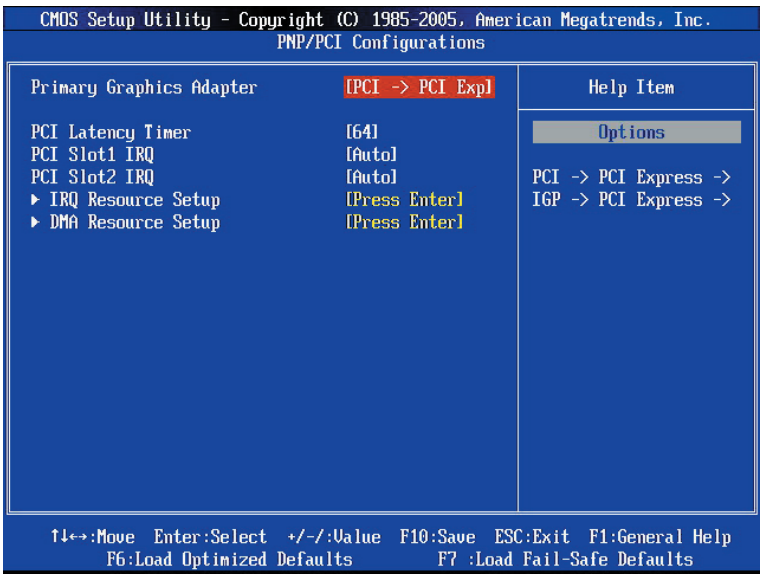
PCI Express スロットのハードウェアの動作あるいは入力信号が確認された場合に、システムが省電力モードから復帰する設定を行います。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Resume by RTC Alarm

設定日時に S1 / S3 または省電力モードからシステムを起動する機能の有効 / 無効を設定します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

PNP/PCI Configurations

ここでは、PCI バスシステムおよび PnP(プラグ & プレイ) 機能の設定について説明します。PCI (Peripheral Component Interconnect) とは、I/O デバイスが、CPU 本体とその特殊な構成部品との通信速度に近い速度で動作する方式です。本節の記述には技術的に高度な内容を含んでいるため、詳しい知識がある方以外はデフォルトの設定で使用することをお勧めします。



Primary Graphic’ s Adapter

メインで使用するグラフィックアダプターを指定します。設定オプションは [PCI → PCI Express → IGP] と [IGP → PCI Express → PCI] です。

PCI Latency Timer

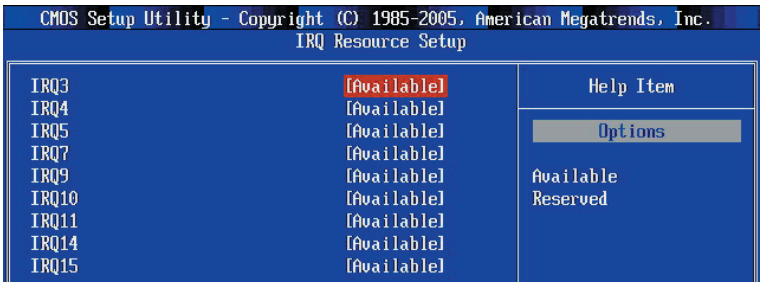
PCI デバイスがバスを占有する時間を設定します。接続デバイスが少ない環境では、設定値を 1 ～ 2 レベル程度長めに設定すると個々のデバイスのパフォーマンスが上がる場合があります。設定オプションは [32], [64], [96], [128], [160], [192], [224], [248] です。

PCI slot 1/2 IRQ

各 PCI スロットの IRQ 設定を行います。設定オプションは [Auto], [10], [11] です。[Auto] に設定すれば最適なリソースの割り振りを自動的に行うことができます。

IRQ Resource Setup

<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



IRQ 3/4/5/7/9/10/11/14/15

バスに割り当てる IRQ を設定します。BIOS は ESCD NVRAM の情報を読み取って利用可能な IRQ を表示します。[Reserved] に設定するとユーザーが独自にそのリソースを使用できるようになり、[Available] に設定すると BIOS がそのリソースを自動的に使用します。仮に全ての IRQ が [Reserved] に設定された場合は、IRQ14 / 15 は PCI IDE 用に、IRQ 9 は PCI および PnP デバイスに割り当てされます。設定オプションは [Available] と [Reserved] です。

DMA Resource Setup

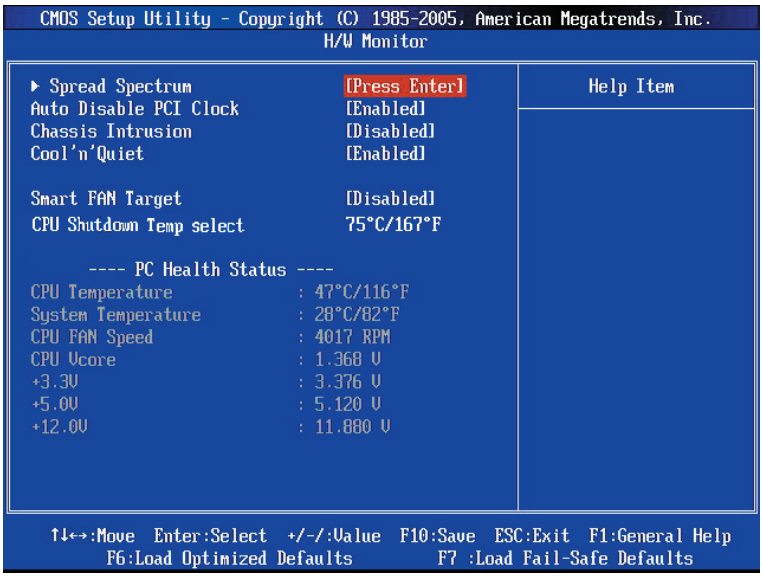
<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



DMA Channel 0/1/3/5/6/7

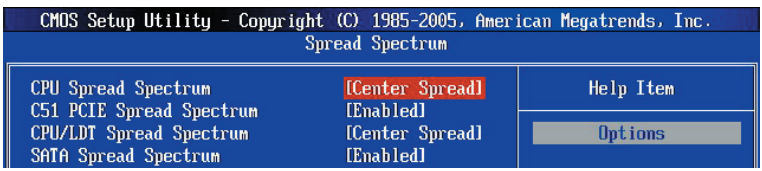
DMA チャンネルの割り当てを変更することができます。BIOS は ESCD NVRAM の情報を読み取って利用可能な DMA チャンネルを表示します。DMA チャンネルの使用を保留する場合は、該当するチャンネルを [Reserved] に設定します。

H/W Monitor



Spread Spectrum

<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。



CPU Spread Spectrum

コンピューターはクロック信号と呼ばれるパルス信号を元に動作しています。クロックジェネレーターがパルス信号を発生する際に、構造上やむを得ず生じてしまうノイズがスパイクノイズと呼ばれる電磁妨害 (EMI) です。そのノイズが特定環境下で外部に漏れてしまう場合があります。Spread Spectrum 機能を [Center Spread(有効)] に設定すると、CPU が処理したデータ信号はスペクトラム拡散方式で送信され、スパイクノイズが軽減されます。但し、この処理によってクロック信号の波形が鈍る場合があり、結果としてシステムの安定性が損なわれる可能性があることをご了承ください。オーバークロック機能を使用する場合は [Disabled] に設定してください。

C51 PCIE Spread Spectrum

PCI Express バスの Spread Spectrum を制御します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

CPU/LDT Spread Spectrum

ハイパートランスポートバス (ノース / サウスブリッジ間) の Spread Spectrum を制御します。設定オプションは [Center Spread], [Down Spread], [Disabled] です。

SATA Spread Spectrum

SATA バスの Spread Spectrum を制御します。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

Chassis Intrusion

ケースの開放を検知 / 記録して、画面上に警告メッセージを表示する機能を設定します。警告メッセージをクリアするには、一旦 BIOS メニューを起動してこの項目を [Reset] に設定します。

Cool 'n' Quiet

Cool 'n' quiet テクノロジーは AMD Athlon64 プロセッサに搭載された特殊機能で CPU を過熱による損傷からから守る機能です。省電力や低騒音動作にも効果があります。設定オプションは [Enabled] と [Disabled] です。

CPU Shutdown Temperature

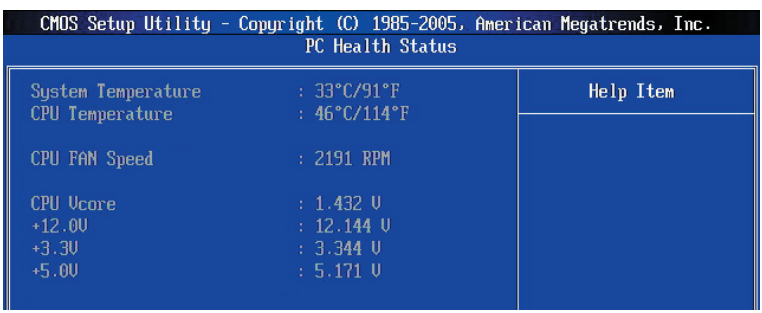
CPU の温度が設定値に達した場合、自動的にシステムをシャットダウンします。これは CPU が過熱により破損することを防ぐための機能です。設定オプションは [70° C/158° F], [75° C/167° F], [80° C/176° F], [85° C/185° F] です。

Smart Fan Target

CPU の温度が上昇してユーザーが設定した数値に達すると、CPU が自動的に回転数を上げて冷却効率を高めます。設定オプションは [40° C/104° F], [45° C/113° F], [50° C/122° F], [55° C/131° F] です。

PC Health Status

<Enter> キーを押すと以下の画面が表示されます 。

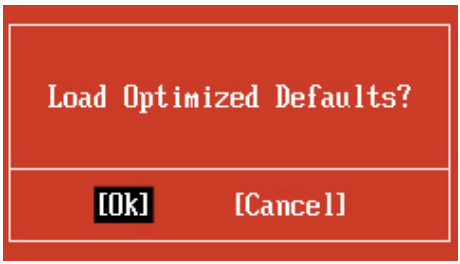


System/ CPU Temperature, CPUFAN Speed, CPU Vcore, +12.0V, +3.3V, +5.0V

システム温度、CPU 温度、CPU ファンスピード、CPU 電圧、ライン電圧 (+12.0V, +3.3V、+5.0V) などの情報を表示します。(読み取り専用)

Load Optimized Defaults

BIOS にはデフォルト設定として [Optimized Defaults] が用意されています。出荷時は [Optimized Defaults] が設定されており、マザーボードの性能を最大に引き出します。[Optimized Defaults] を選択すると、次のメッセージが表示されます。



<Y> キー押すと、工場出荷設定のデフォルト値がロードされます。

ヒント

組み上げた PC を初めて起動するとき、あるいは BIOS を更新した直後の起動では、BIOS メニューを開いて Optimized Defaults をロードして下さい。

BIOS Setting Password



[BIOS Setting Password] を選択して <Enter> キーを押すと、パスワードの入力を求められます。最大 6 文字 (半角英数) までのパスワードを入力して <Enter> キーを押すと、確認としてパスワードを再度入力するように促されます。ここで正しくパスワードを打ち込むとパスワードが確定します。以降、BIOS 画面を起動するたびにパスワードの入力が求められるようになり、部外者が BIOS 設定を変更することが出来なくなります。

パスワードを変更したり無効にする場合は、パスワードを入力して BIOS 画面を開いた後に再度 [BIOS Setting Password] を選択して <Enter> キーを押します。ここで異なるパスワードを入力するとパスワードが変更され、何も入力しない状態で <Enter> キーを押すとパスワード設定が無効になります。

第 4 章
オーディオ機能の解説 (ALC883)

本製品は 7.1ch オーディオ出力 (Front × 2 / Rear × 2 / Side × 2 / Center × 1/ Sub Woofer × 1) をサポートする Realtek 社 ALC883 チップを搭載しています。ALC883 チップは 7.1ch 出力だけでなく、2ch / 4ch / 5.1ch 出力にも対応しており、ユーザーの用途に適したオーディオ環境を構築することが可能です。本章ではドライバーのインストールとスピーカーの接続について解説します。

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

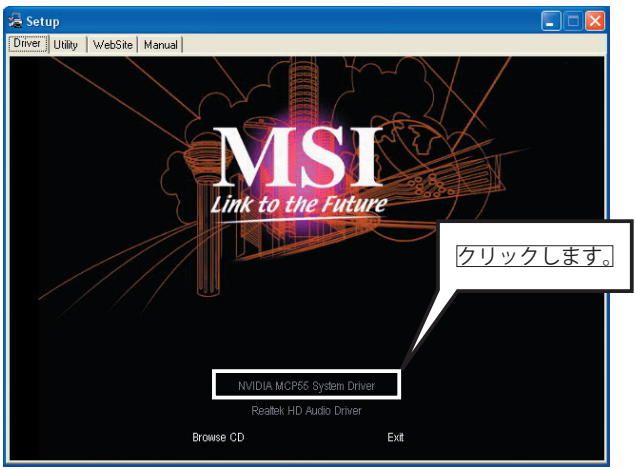
Realtek オーディオドライバーのインストール

オーディオ機能を使用するには 1. ドライバーのインストール、2. スピーカーの接続、という 2 つの手順が必要です。

Windows 2000/XP 環境でのドライバーのインストール

ドライバーの動作条件として Windows2000 では Service Pack4 以降、WindowsXP では Service Pack1 以降の環境が整っていることを確認して下さい。本章ではインストール例として WindowsXP 環境でのインストールを紹介します。

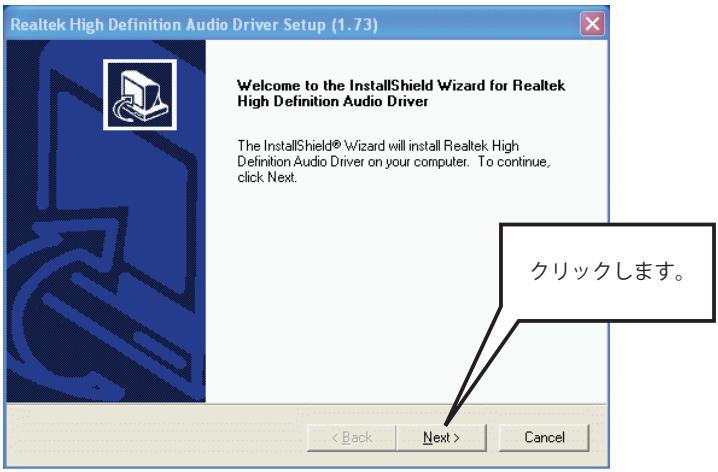
1. 同梱のドライバー / ユーティリティ CD-ROM を CD-ROM ドライブをセットします。オートランプログラムにより以下のインストール画面が起動します。
2. [Realtek HD Audio Driver] をクリックすると、インストールウィザードが起動します。



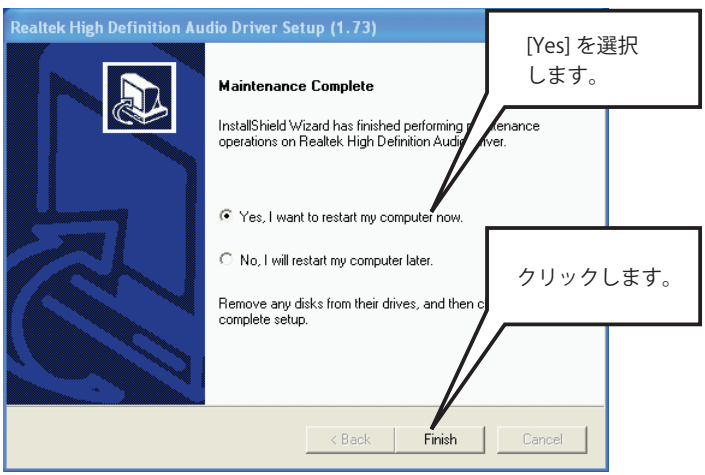
ヒント

Realtek オーディオドライバーは継続的に改良 / 改変が加えられています。そのため、本章で紹介するインストール画面やユーティリティ画面およびユーティリティ機能が予告なく変更されることがあります。予めご了承ください。

3. [Next] をクリックしてインストールを進めます。



4. [Finish] をクリックしてシステムを再起動したら、インストールが完了します。



オーディオユーティリティの設定

オーディオドライバーのインストールが完了したらスピーカーの使用が可能になります。但し事前にいくつかの設定が必要になるため、オーディオドライバーユーティリティーを起動してください。ドライバーをインストールした後に右下のタスクトレイに表示されるアイコン をダブルクリックしてユーティリティを起動します。[コントロールパネル] から [Azalia HD Sound Effect Manager] をダブルクリックしてもユーティリティを起動できます。





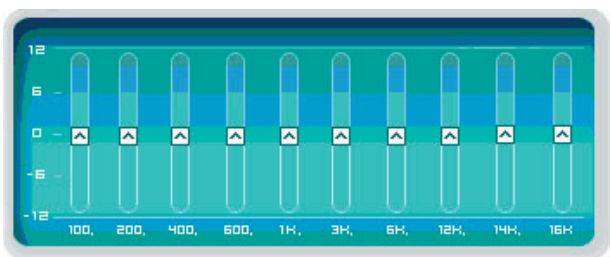
Sound Effect

オーディオドライバーのユーティリティが起動したら [Sound Effect] タブを選択します。

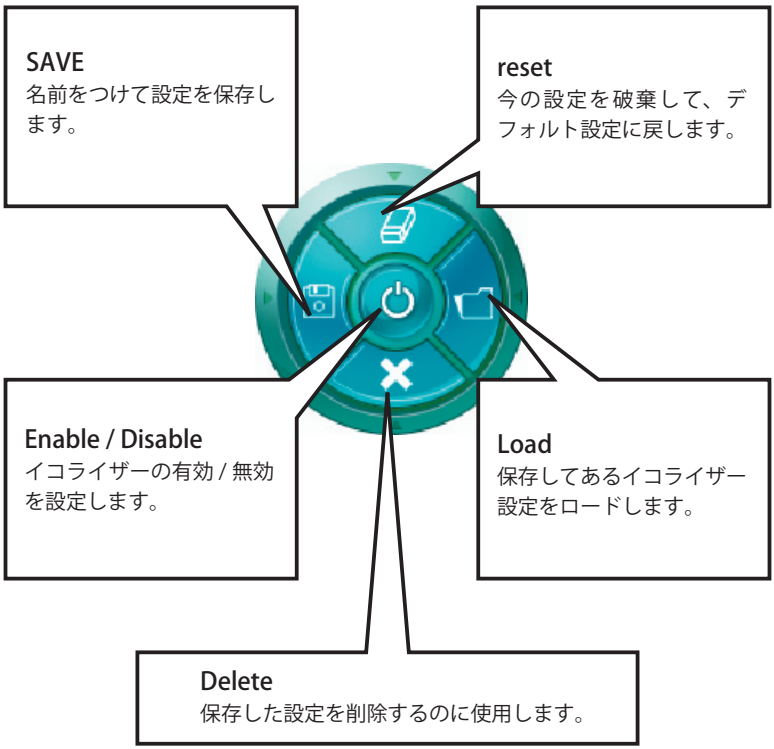


[Sound Effect] タブの主要な機能はイコライザー機能です。[Environment] では環境ごとに異なる音の響き方 (浴室やコンサートホールなど) を仮想的に再現します。

[Equaliser] では音楽のジャンルにあわせた音のバランスを調整することが出来ます。プリセットは「POP」「ROCK」「Live」「Club」などが用意されています。手動でイコライザー設定を行うことも可能です。イコライザーは 10 バンドでレンジ幅は 100Hz から 16KHz です。

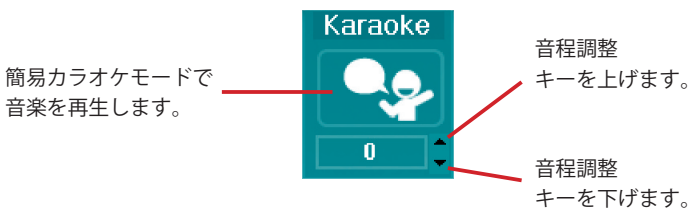


イコライザーの操作



カラオケ機能

[Sound Effect] には簡易カラオケ機能があり、CD(.wav ファイルを含む) や MP3、WMA などの音楽ファイルからボーカル域の出力を抑えた「簡易カラオケ音楽」として再生することが可能です。音程調整 (キーの上げ下げ) も行えます。



Mixer

[Mixer] タブではリア出力およびフロント入出力の音量設定を行います。

Playback (再生時の音量調整)

再生を行うには、まずリアもしくはフロントのオーディオジャックにスピーカーを接続します。次に「Realtek HD Audio Output」から [Realtek HD Audio Rear Output] または [Realtek HD Audio Front Output] を選択します。必要に応じて音量を調整します。



ヒント

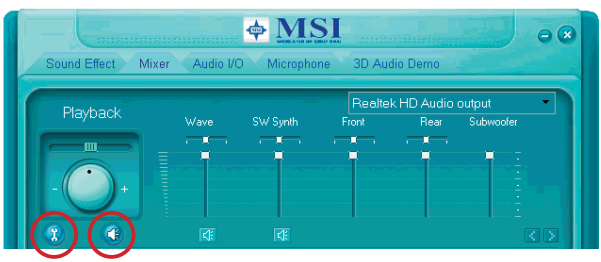
セットアップを行う前にスピーカーが正しく動作することを確認して下さい。フロントチャンネルの選択肢は、フロントパネルオーディオピンに接続をした後に表示されるようになります。

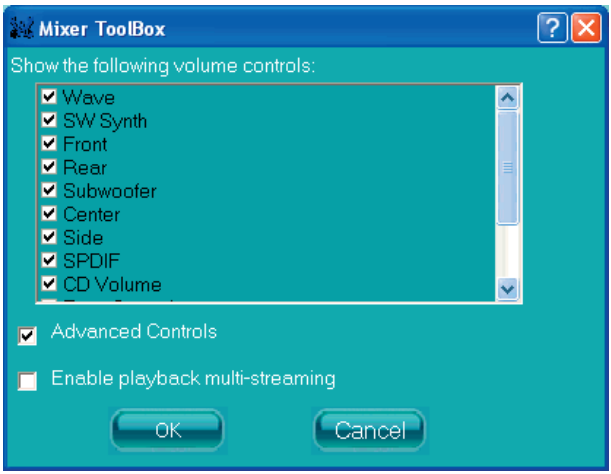
再生に関連する操作

再生にパネルには「Tool」ボタンと「Mute」ボタンが設けられています (下図)。

Mute … ミュート機能です。

Tool … ツールボタン  を押すと、ツールボックス (次ページ) が表示されます。





- Show the following volume controls
  13 個の項目から、ディスプレイに表示する項目を選択します。
- Advanced controls
  拡張機能が使用可能になります。主なものしてリアとフロントのチャネルから、同時にそれぞれ異なった音声を出力する「Multi-Stream Function」があります。

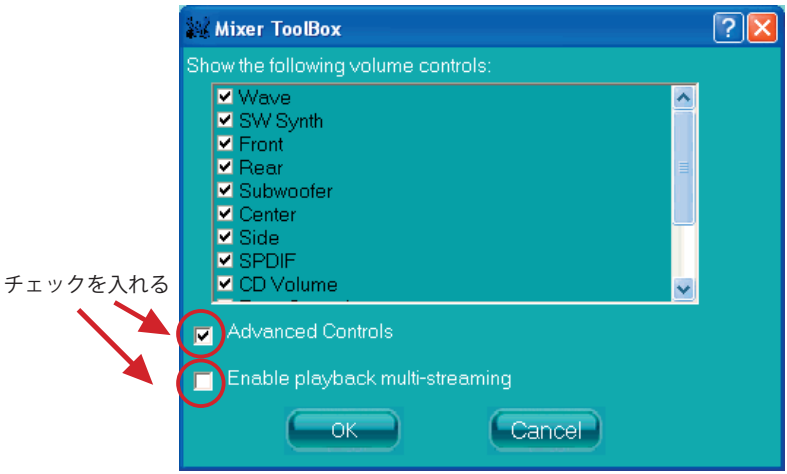
Multi-Stream Function (2 つの異なるリソースを同時に出力)

ALC883 ではフロントパネルとリアパネルで異なるリソースの出力を行うことができます。例えば、フロントパネルからは DVD 再生の音声を出力し、リアパネルからは CD 音楽再生を出力することができます。

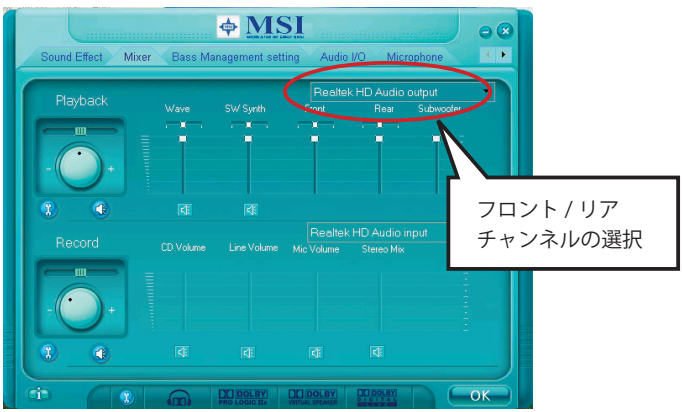
ツールボックス (Tool Box) ボタン  をクリックするとツールボックスメニューが現れます。そこで [Advanced controls] と [Enable playback multi-streaming] にチェックを入れ、[OK] ボタンで設定を保存してください (次ページ図)。



HD Audio (High Definition Audio) と AC97 ではオーディオピンヘッダ (JAUD) のピン配列が異なります。そのため AC97 規格に準拠したオーディオコネクターは使用できません。フロントパネルオーディオを使用するユーザーは気をつけてください。

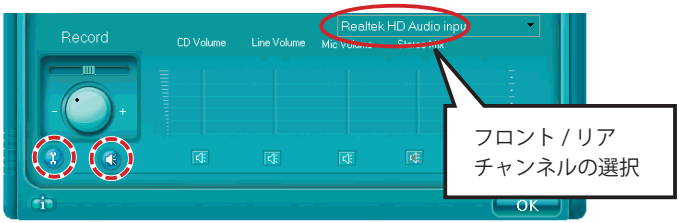


ファーストオーディオリソースはリアパネルから出力されます (デフォルト設定)。次にフロントパネル出力 (Realtek HD Audio front output) を選択して、ファーストオーディオリソースとは異なるオーディオ出力プログラムを実行すると、フロントパネルから出力されます。

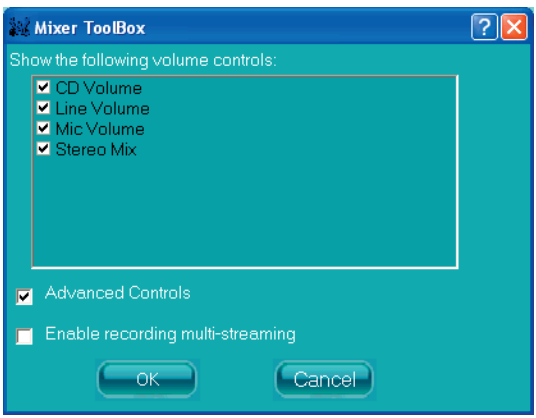


Recording (入力設定)

再生を行うには、まずリアあるいはフロントのマイクジャックに入力デバイスを接続します。次にユーティリティ画面下段の「Realtek HD Audio input」から [Back Line in/Mic, Front Lin in] を選択してください。デジタルオーディオ機器を接続する場合は [Realtek HD Audio Digital Input] を選択します。



Mute・・・ミュート機能です。
Tool・・・ツールボタンを押すと、ツールボックス (下図) が表示されます。



・Show the following volume controls
　ディスプレイに表示する項目を選択します。

・Advanced controls
　拡張機能が使用可能になります。Realtek883 はマルチチャンネルレコーディングに対応しています。

Audio IO

[AudioIO] タブでは出力チャンネル設定 (接続するスピーカー) を選択します。ユーザーは以下の中から選択します。

a. Headphone : ヘッドフォン
b. 2CH Speaker : 2ch ステレオスピーカー
c. 4CH Speaker : 4ch サラウンドスピーカー
d. 5.1CH Speaker : 5.1ch サラウンドスピーカー
e. 7.1CH Speaker : 7.1ch サラウンドスピーカー (デフォルト設定)
f . Dolby Digital 5.1ch サラウンドスピーカー
g. Dolby Digital PCM



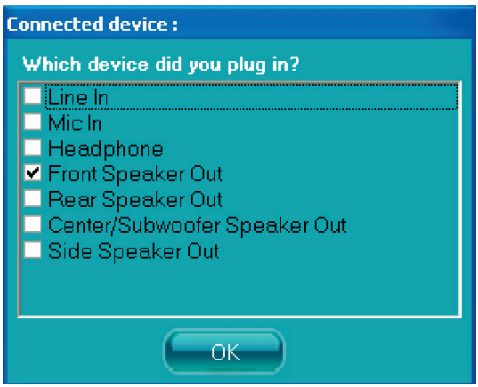
Realtek ドライバーユーティリティーではオーディオジャックの入出力のアサインを変更することができます。手順は以下の通りです。

1. オーディオジャックにスピーカーを接続します。
2. 接続したスピーカーが検知され、[Connected device] という画面が表示されます。接続したタイプのスピーカーを選択してください。

接続例

正しい接続の場合

ヘッドフォンをバックパネルの緑のジャックに接続したと仮定します。[AudioIO] タブ内の緑のジャックの横にアイコンが表示され、[Connected device] 画面が表示されます (次ページ図)。接続したスピーカータイプ (ヘッドフォン) にチェックを入れ [OK] ボタンを押します。そうすると緑ジャックの横のアイコンがヘッドフォンに変わります。



接続が正しくない場合

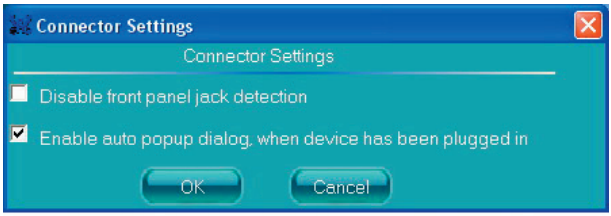
ヘッドフォンをバックパネルの青のジャックに接続したと仮定します。[AudioIO] タブ内の青のジャックの横にアイコンが表示され、[Connected device] 画面が表示されます。青のジャックは本来は Line-in として使用しますが、それには構わず [Headphon] を選択して [OK] ボタンを押します。エラーメッセージの表示や接続を変更することなく、青ジャックの横のアイコンがヘッドフォンに変わります。

その他のスピーカータイプの設定

2CH スピーカー	[Front Speaker Out] を選択します。
4CH スピーカー	[Front Speaker Out] と [Rear Speaker Out] を選択します。
5.1CH スピーカー	[Front Speaker Out] と [Rear Speaker Out]、[Center/Subwoofer Speaker Out] を選択します。
7.1CH スピーカー	[Front Speaker Out] と [Rear Speaker Out]、[Center/Subwoofer Speaker Out]、[Side Speaker Out] 選択します。

Connector Settings

11 ページの図からツールボタン を押すと「Connector Settings」ウィンドウが開きます。



- Disable front panel jack detection
  フロントパネルで検知されたオーディオ機器を全て無視します。フロントオーディオコネクターが AC97 タイプの場合は、この項目にチェックを入れて無効にします。
- Enable auto popup dialogue, when device has been plugged in
  デバイスを検知した時に表示するバルーンメッセージを表示しません。

SPDIF

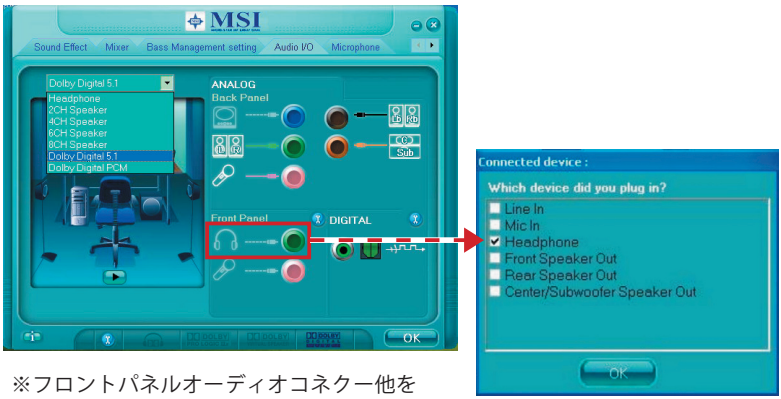
SPDIF は音声データをデジタルで出力するための規格です。アナログデータに変換する際のデータの劣化が発生しないため、良好な音質を維持することが可能です。

フロントオーディオパネルの設定

フロントオーディオパネル (フロントオーディオ入出力) を使用する場合は以下の点に注意してください。

- フロントオーディオパネルから延びているコネクター (HD Audio に対応していること) をオーディオピンヘッダー JAUD1 に接続します。
- BIOS の [Integrated Peripherals] から Azalia(HD Audio) を有効 [Enabled] に、AC97 を無効 [Disabled] に設定します。

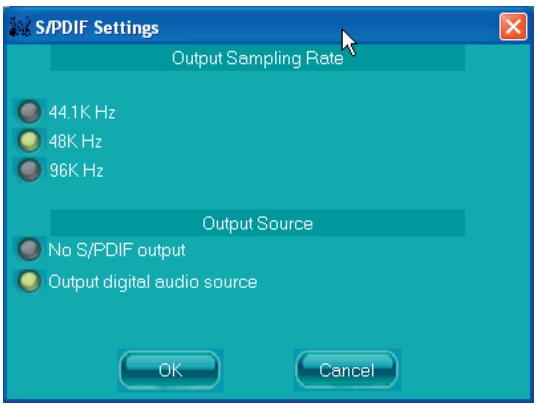
Azalia(HD Audio) の機能を使用した場合、Mic 端子は機能が固定されていますが、Line-Out はデバイスを選択することができます。ポップアップメニューから使用するデバイスを選択してください (次ページ図)。
AC97 の機能を使用した場合は Mic 端子と Line-Out 端子は機能が固定されます。



※フロントパネルオーディオコネクー他を
使用する場合の設定

SPDIF

SPDIF は音声データをデジタルで出力するための規格です。アナログデータに変換する際のデータの劣化が発生しないため、良好な音質を維持することが可能です。



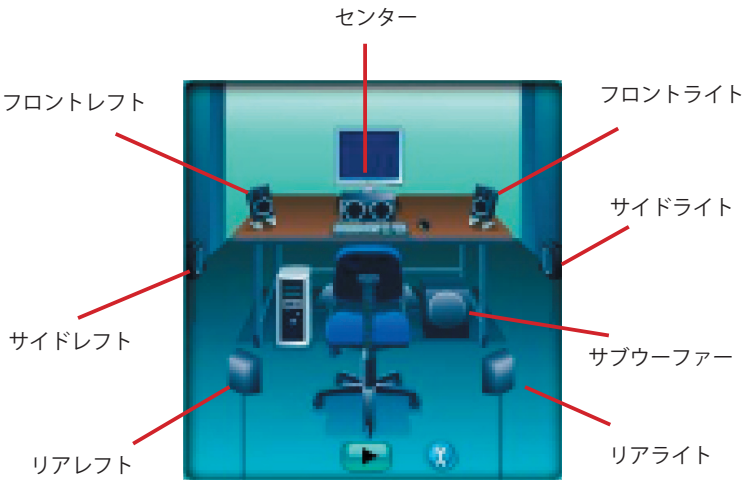
・Output Sampling Rate

44.1KHz: CD 再生時に適しています。
48KHz: DVD 再生および Dolby サラウンドフォーマットに最適です。
96KHz: DVD オーディオの再生に適しています。

・Output Source
Output digital audio source : .wav/.mp3/.midi などのデジタルフォーマットを出力する場合の設定です。
S/PDIF-in to S/PDIF -out pass though mode : SPDIF 端子から入力したソースを再生 (リアルタイム再生のみ、データ保存はできません) する場合の設定です。

スピーカーテスト

スピーカーを接続したらスピーカーテストを行って動作を確認します。画面のスピーカーをクリックするとクリックしたスピーカーが光り、対応するスピーカーから音が出ます。スピーカーから音が出ない場合は接続やスピーカー自体の動作を確認して下さい。オートテストボタン を押すと、自動的に各スピーカーの音を鳴らします。



Microphone

[Microphone] タブではマイク入力に関する設定を行います。マイク入力時には音質を高めるためのノイズ抑制機能 [Noise Suppression] またはエコーキャンセル [Acoustic Echo Cancellation] 機能を選択することができます。

※エコーキャンセル [Acoustic Echo Cancellation] 機能
エコーキャンセル機能とはハウリング防止のための機能です。スピーカーの音をマイクが拾ってしまうと、拾われた音はアンプで増幅され、大きなノイズ (ハウリング) を生む原因になります。エコーキャンセル機能は、一定レベル以上に増幅されてしまいやすい周波数の出力を自動的に抑えます。

入力チャンネル (リア [Realtek HD Audio rear input] またはフロント [Realtek HD Audio front input]) の設定が必要です。忘れずに設定してください。



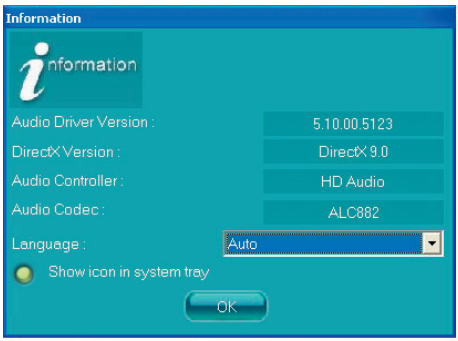
3D Audio Demo

[3D Audio Demo] タブでは 3D サウンドアプリケーション (ゲーム、DVD 再生など) 用の、サラウンド調整を行います。ユーザーの好みに応じて設定を選択してください。



Information

[Information] タブでは、ドライバーバージョン、DirectX バージョン、オーディオコントローラおよびオーディオコーデックなどの情報を表示します。[Language list] から表示言語を変更することができます。



タスクトレイにアイコンを表示する / 表示しないの設定もここで行います。アイコン表示に設定すると  というアイコンが表示されます。そのアイコンの上で右クリックをするとポップアップメニューが表示され、各種設定画面にアクセスすることができます。



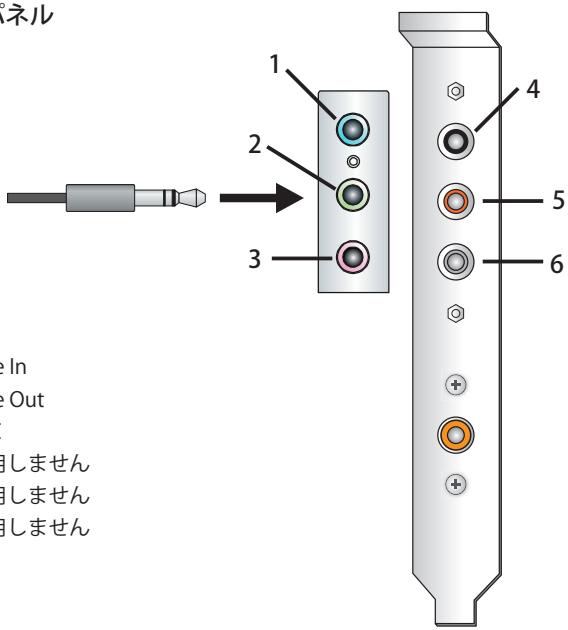
スピーカーの接続

一般的なスピーカーの接続方法を解説します。本章 6 ページで解説した設定がうまく機能しない場合は、以下の標準的な接続方法で動作を確認して下さい。

■ 2 チャンネルモード

2 チャンネルスピーカーを接続する場合は、[2] にジャックを接続します。

バックパネル

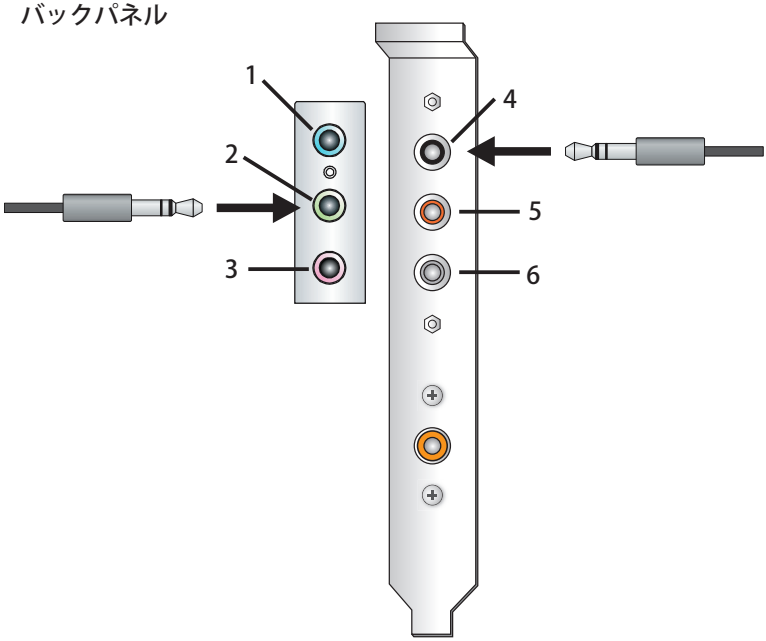


1 Line In
2 Line Out
3 MIC
4 使用しません
5 使用しません
6 使用しません

■ 4 チャンネルモード

4 チャンネルスピーカーを接続する場合は、[2](フロントチャンネル)、[4](リアチャンネル) にジャックを接続します。

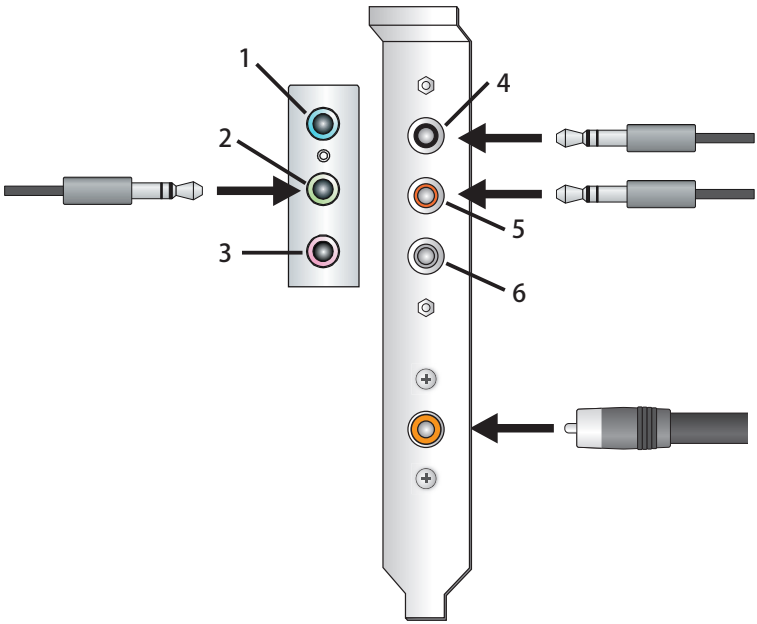
バックパネル



1 Line In
2 Line Out (フロント チャンネル)
3 MIC
4 Line Out (リア チャンネル)
5 使用しません
6 使用しません

■ 5.1 チャンネルモード

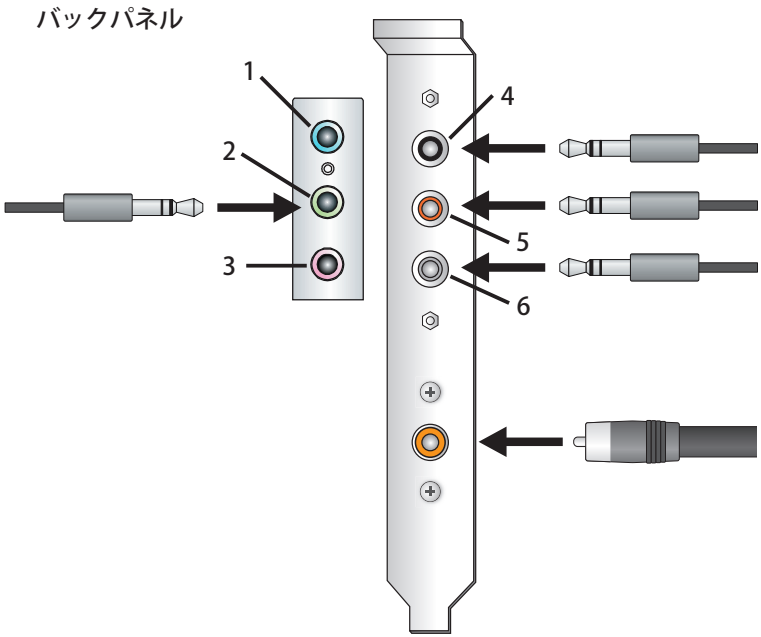
5.1 チャンネルスピーカーを接続する場合は、[2](フロントチャンネル)、[4](リアチャンネル)、[5](センター & サブウーファー) に接続します。
S/PDIF をサポートするスピーカーの場合は、S/PDIF 同軸ケーブルを利用して出力することができます。



1 Line In
2 Line Out (フロント チャンネル)
3 MIC
4 Line Out (リア チャンネル)
5 Line Out (センター & サブウーファー チャンネル)
6 使用しません

■ 7.1 チャンネルモード

7.1 チャンネルスピーカーを接続する場合は、[2](フロントチャンネル)、[4](リアチャンネル)、[5](センター & サブウーファー)、[6](サイドチャンネル) に接続します。



1 Line Out (サイド チャンネル)
2 Line Out (フロント チャンネル)
3 MIC
4 Line Out (リア チャンネル)
5 Line Out (センター & サブウーファー チャンネル)
6 Side Surround Out (サイドチャンネル)

第 5 章
NV RAID の解説

RAID (Redundant Array of Independent Disks) は複数の HDD を組み合わせてデータアクセスのスピードを上げる、あるいはデータ保存の安全性を高めることを目的とするストレージソリューションです。RAID はとくにサーバー用途の PC で採用されていますが、nVidia 社はこの RAID をデスクトップ PC にも導入することを提案しています。
本章では nVIDIA が提供する RAID ソリューションを NVRAID と呼びます。

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

BIOS 設定

オペレーティングシステムのサポート

NVRAID は以下の OS(オペレーティングシステム) をサポートします。

Windows XP Home Edition (Service Pack 2 以降)
Windows XP Professional Edition (Service Pack 2 以降)
Windows 2000 Professional (Service Pack 4 以降)

RAID アレイ

NVRAID は以下の RAID レベルをサポートします。

RAID 0 : 2 台の HDD を使用して並列に読み書きを行うことにより、データアクセスを高速化する方式です。ストライピングとも呼ばれます。

RAID 1 : 2 台の HDD に同じデータを書き込むことで、常にデータの完全なバックアップを行う方式です。ミラーリングとも呼ばれます。

RAID 0+1 : RAID 0 と RAID 1 を組み合わせた方式で、データアクセスの高速化とデータ保存の安全性を両立します。

RAID 5 : パリティデータを HDD に書き込むことにより、冗長性を高める RAID の方式です。HDD の仕様効率は RAID 0 より高くなります。

JBOD：異なるサイズのディスクを 1 台の大容量のディスクに仮想化する方式です。スパニングとも呼ばれます。

RAID レベルの概要

	メリット	デメリット	HDD (最小構成)	冗長性
RAID 0	データアクセス スピードが速い	データ保存の 安全性に欠ける	2	×
RAID 1	データ保存の 安全性が高い	ストレージの コストが上昇	2	○
RAID 1+0	データアクセスの 速さとデータ保存の 安全性を両立	ストレージの コストが上昇	4	○
RAID 5	データ保存の 安全性が高い	ストレージの コストがやや上昇	3	○
JBOD	容量の少ない HDD を 大容量 HDD として 使用できる	セクタの検索処理の ために書き込み 速度がやや落ちる	2	×



冗長性とは障害を事前に想定し、その障害から回復できる性質を持つことを意味します。RAID の項目では、HDD に障害が発生してもデータの復元が可能であるという文脈で使用されます。

RAID 環境の構築を始める前に

RAID 環境を構築する手順は 2 通りあります。一つは RAID アレイを組み、そこに OS をインストールする手順で、もう一つはシングル HDD に OS をインストールした後改めて RAID ボリュームを追加する手順です。
ここでは大まかな作業の流れを紹介します。

Bootable RAID アレイと Non-Bootable RAID アレイ、両者で共通の作業

1. システム BIOS で RAID に使用する HDD を選択します。
2. システム BIOS を終了し、NVIDIA RAID ユーティリティーを起動します。
3. RAID アレイを作成します。使用する HDD を選択し、RAID 0(ストライピング)、RAID 1(ミラーリング)、RAID 0+1(ストライプミラー)、RAID 5(パリティ RAID) のいずれかの RAID レベルを指定します。

※手順の詳細は本章 4 ページ以降を参照してください。

RAID アレイに OS をインストールする場合 (Bootable RAID アレイ)

1. システム BIOS で 1st ブートドライブに CD-ROM ドライブを指定します。
2. ブートドライブに指定した CD-ROM ドライブに Windows インストールディスクをセットします。システムを起動すると OS のインストールが始まります。
3. OS をインストールする初期段階で FD から RAID ドライバーをインストールします。ドライバーのインストールが完了したら、OS のインストール先を RAID アレイに指定して、OS インストールを行います。

※手順の詳細は本章 9 ページ以降を参照してください。

シングル HDD に OS をインストールした後、RAID ボリュームを増設する場合 (Non-Bootable RAID アレイ)

1. システムを起動して、添付のドライバー CD-ROM から IDE ドライバーである「NVIDIA Windows nForce Drivers」をインストールします。
2. ドライバーのユーティリティ機能「NVRAIDMAN」を使用して HDD を初期化します。

※手順の詳細は本章 11 ページ以降を参照してください。



ソフトウェアは継続的に改良が加えられています。そのため、本章で取り上げた項目の名称あるいは挿入された画像が実際と異なる場合があります。予めご了承ください。

RAID の構築

NVIDIA RAID Utility の起動と RAID アレイの設定

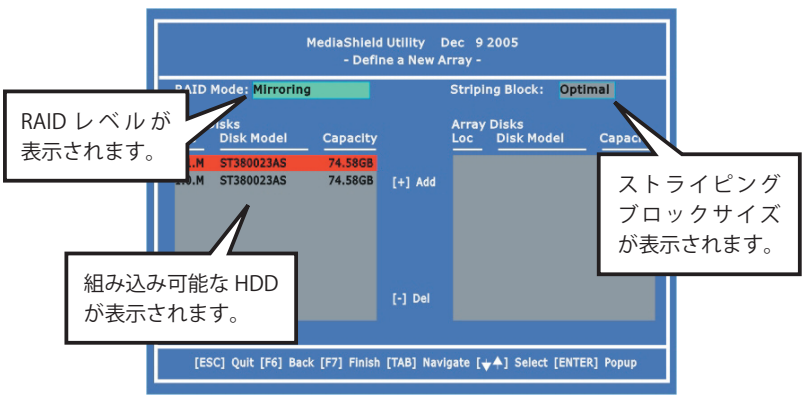
RAID では 2 台以上の HDD を組み合わせて使用します。この HDD の組み合わせを一般的に「アレイ」と呼びます。アレイの中に作成したデータ領域 (パーティションを) を「RAID ボリューム」と呼びます。RAID ボリュームには RAID 0、RAID 1 などの RAID レベルが設定されています。

アレイを組む前の準備

1. システム BIOS の「Integrated Peripherals」から「nVidia RAID Config」内の [RAID Enable] を [Enabled] に設定します。
2. NVRAID で使用する HDD を決定します。「nVidia RAID Config」に続く「IDE Primary/Secondary : Master/Slave RAID」 および「SATA 1/2/3/4 RAID」で RAID に使用する HDD を [Enabled] に設定します。

アレイの作成と RAID ボリュームの設定

1. PC の電源を投入し POST 画面が表示されたら <F10> キーを押して NVIDIA RAID Utility を起動します。この操作がうまく出来ない場合は、電源ボタンを押すと同時に <F10> キーを押しっぱなしにします。
2. NVIDIA RAID Utility が起動すると、「Define a New Array」ウィンドウが表示されます。初期設定では RAID レベルは [Mirroring] に設定され、「Striping Block (ストライピングブロック)」は [Optimal] (最適) に設定されています。アレイに組み込む前の HDD はウィンドウの左手、「Free Disks」の欄に表示されます。



注意！ RAID 0/RAID 1/RAID 0+1/RAID 5 アレイでは全く同じ HDD(型番、容量、ディスク回転数、メモリバッファなど) を組み合わせて使用してください。

Define a New Array ウィンドウについて

Define a New Array(新しいアレイの定義) ウィンドウでは以下の操作を行います。

- **RAID レベルの設定**
- **ストライピングブロックのサイズ設定**
- **RAID アレイに組み込む HDD の指定**

マザーボードは通常複数の IDE チャンネルを搭載しています。PATA には 1 チャンネルにつき 2 台の IDE デバイスが接続可能で、それらは Master/Slave で区別されます。また、各 HDD には「1.0.M」といったロケーションが表示されます。その表記から HDD のチャンネル、コントローラー、マスター / スレーブの識別を行います。

①…チャンネルの区別
[0] は PATA、[1], [2] は SATA を意味します。
②…コントローラーの区別
③…Master/Slave の区別



ロケーション表示の例

シリアル ATA

1.0.M チャネル 1、コントローラ 0、マスター (SATA1)
1.1.M チャネル 1、コントローラ 1、マスター (SATA2)
2.0.M チャネル 2、コントローラ 0、マスター (SATA3)
2.1.M チャネル 2、コントローラ 1、マスター (SATA4)

ヒント

・本章で表示される HDD の型番やディスク容量、ドライブレターなどはユーザー環境ごとに異なります。

・シリアル ATA ドライブはポートとドライブが 1 対 1 で接続されます。したがってシリアル ATA ドライブは全てマスターに設定され、スレーブディスクと表示されることははありません。

Define a New Array ウィンドウの操作

<Tab> キーを押すと、ハイライト表示がフィールドからフィールドへ移動します。設定するフィールドを <Tab> キーで選択してください。

- **RAID レベルの設定**

  デフォルトは RAID 1(ミラーリング) に設定されています。RAID レベルを表示するボックスにカーソルを移動し、矢印キー (↑ ↓) を操作すると RAID レベルが変更されます。

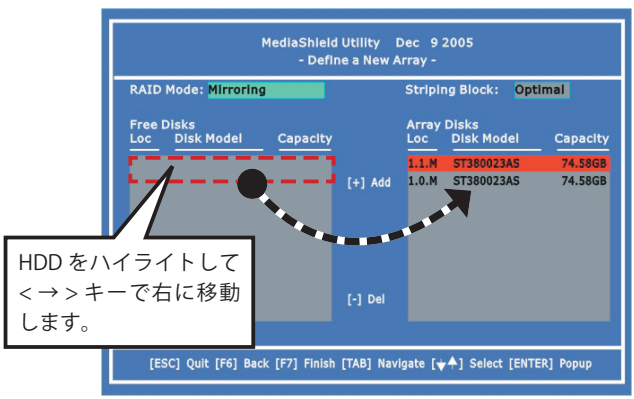
- **ストライピングブロック (Striping Block Size) のサイズ設定**

  RAID 0(ストライピング) ボリューム内では、データはある一定のサイズに分断して管理されており、その細切れになったデータのサイズを定義するのがストライピングブロックサイズです。設定値を小さくすると連続したデータの読み出しでパフォーマンスが上がりますが、一方でランダムアクセスを行った場合にはは、シーク回数が増えてパフォーマンスが下がります。この値は 4KB ～ 128KB の範囲で変更することも可能ですが、デフォルトの 32KB（最適値）で使用することをお奨めします。

- **RAID アレイに組み込む HDD の指定**

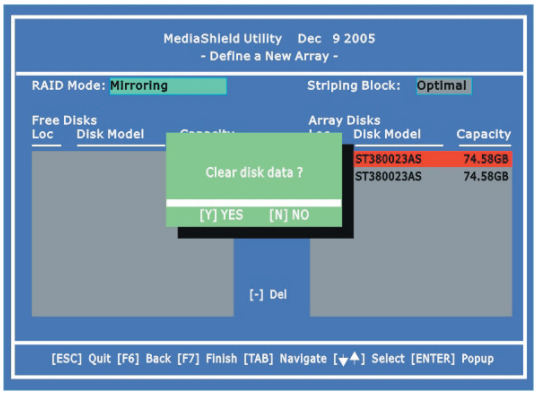
  「Free Disks」欄には NVIDIA RAID Utility で RAID に組み込むことができる HDD が表示されます。RAID ボリュームとして使用するディスク容量を以下の手順で設定します。

  1「. Free Disks」欄にカーソルを移動します。
  2. カーソルを当ててハイライト表示された HDD は、矢印キー (→) で「Array Disks 」欄に移動します。
  3. RAID アレイディスクとして使用する全ての HDD を「Array Disks」欄に移動してください。

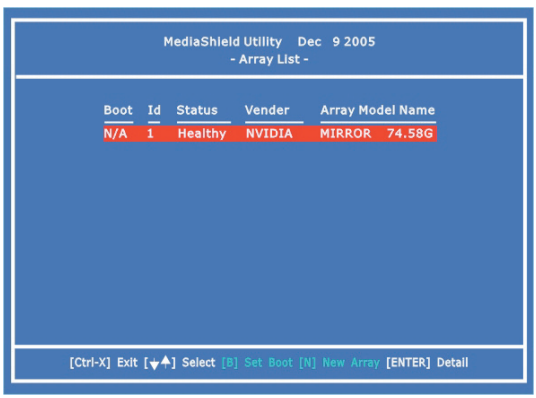


• RAID BIOS セットアップの完了

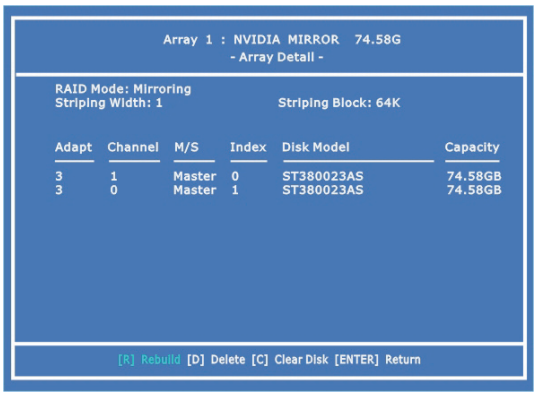
1. RAID アレイディスクの割り当てが完了したら [F7] を押します。「Clear Disk Data? (ディスクデータをクリアしてよろしいですか？)」というメッセージが表示されます。



2. <Y> キーを押すと［Y (Yes)］が選択され、HDD のデータが消去されます。HDD のデータ消去を行わない場合は <N> キー (No) を押します。「Define a New Array」ウィンドウの操作が終了して「Array List(アレイリスト)」ウィンドウが表示されます。



3. RAID アレイを追加する場合は <N> キーを押します。作成済みのアレイを矢印キーで選択して <Enter> キーを押すと「Array Detail 」ウィンドウ (下図) が表示され、RAID アレイの詳細を確認することができます。



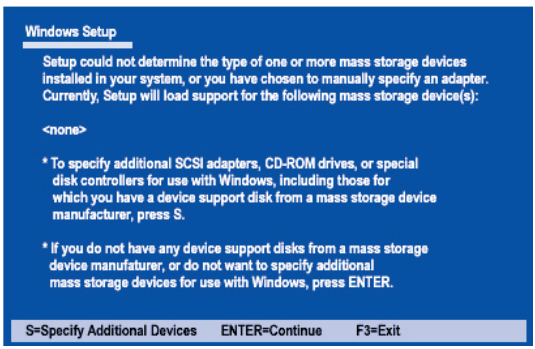
4. アレイを組み直す場合は <R> キー、HDD のデータ消去を行う場合は <C> キーを押します。確認メッセージが表示されますので [Y] (Yes、消去) を選択します。

5. 前画面「Array List」に戻る場合は <Enter> キーを押してください。RAID アレイのセットアップを終了する場合は <Ctrl> ＋ <X> キーを押します。

RAID アレイに OS をインストールする

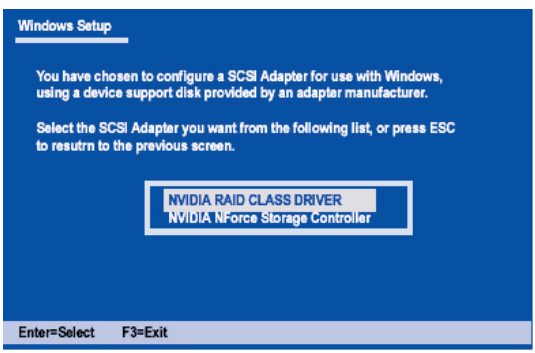
RAID アレイを Bootable ディスクとして使用する場合のセットアップ手順です。

1. RAID アレイのセットアップが完了したら、CD-ROM に Windows インストール CD をセットします。システム BIOS で CD-ROM を 1st ブートディスクに指定して起動すると、Windows のインストールが始まります。
2. インストールの初期段階で、ドライバーを追加する場合のメッセージが表示されます。<F6> キーを押すとドライバーの読み込み画面が起動します (下図)。



※挿入図は英語版 OS のインストール画面です。

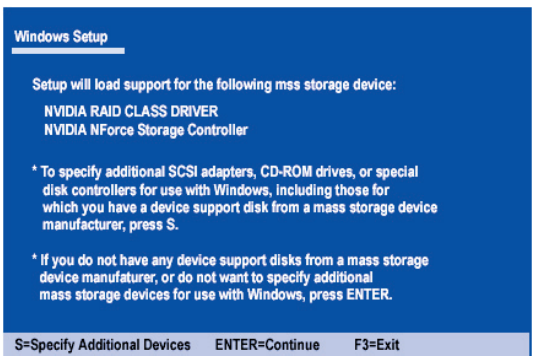
3. 以下の手順で NVIDIA ドライバをインストールしてください。
   (1) 同梱の RAID ドライバーフロッピーディスクを挿入します。最初に <S> キー、次に <Enter> キーを押してください。Windows セットアップ画面 (下図) が表示されます。



自分で nVIDIA シリアル ATA RAID ドライバを作成する場合
(Windows が起動する環境が必要です)

1. MSI ドライバ CD を CD-ROM ドライブにセットします。
2. セットアップ画面は使用せず、CD のコンテンツを「Explorer」で表示します。
3. \\nVidia \System \C51+MCP51 \IDE \Win XP or Win2K \sataraid にあるすべての内容をフォーマットしたフロッピーディスクにコピーします。

(2)「 NVIDIA RAID CLASS DRIVER」を選択して <Enter> を押します。
(3) 手順 2 の画面に戻ったら、再度 <S> キーを押し、「NVIDIA NForce StorageController」を選択します。<Enter> キーでインストールしてください。
(4)2 つのドライバーのインストールが終了して手順 2 の画面に戻ると、画面にはインストールしたドライバーが表示されます (下図)。



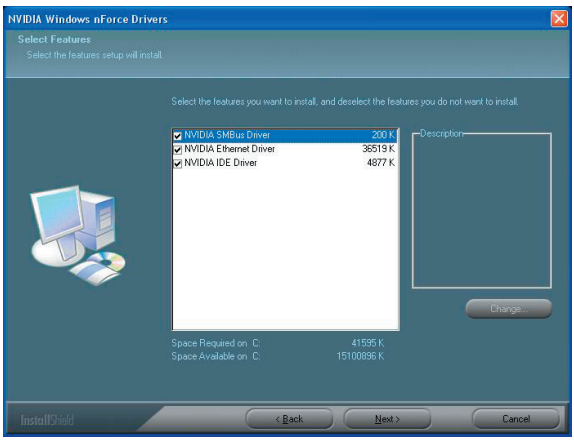
4. <Enter> キーを押して Windows のインストールを続けます。なお Windows ブルーバックのインストール画面が表示されている間は、フロッピーディスクを取り出さないでください。
5. Windows XP のインストール手順にしたがってインストールを進めてください。

OS をインストールした後に RAID ボリュームを増設する

シングル HDD に OS をインストールした後に、RAID アレイ追加する場合の手順です。

Windows IDE ドライバーを NVIDIA IDE ドライバーに更新します。

1. OS の起動後に添付のドライバー CD を CD-ROM ドライブにセットしてください。オートランプログラムでインストール画面が起動したら「NVIDIA Windows nForce Drivers」を選択します。
2. インストールウィザードが起動したら、インストールするドライバーを選択します。原則として全てのドライバーをインストールします。



3. [Next] ボタンでインストールを進めてください。
4. インストールが終了したらシステムを再起動します。
5. 再起動後に RAID アレイを初期化します。次ページ以降の解説を参照してください。



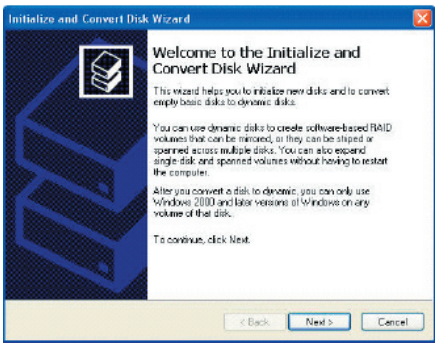
NVRAID 機能を使用するには NVIDIA IDE driver のインストールが必須となります。

ディスクアレイの初期化と使用方法

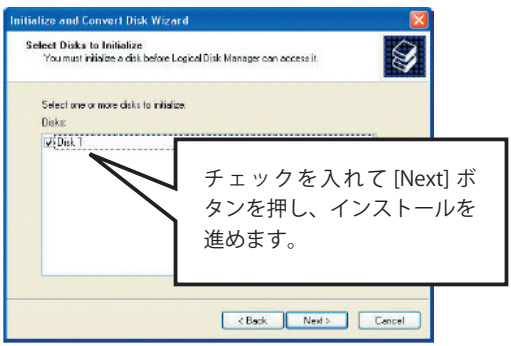
RAID アレイを Windows 上から初期化します。

1.「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順でコントロールパネルを開き、「管理ツール」をダブルクリックします。「管理ツール」内の［コンピュータの管理］を開いてください。

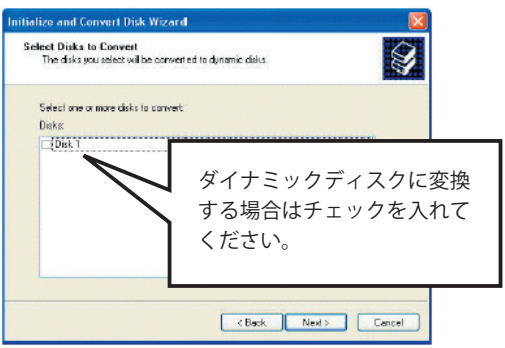
2「. 記憶域」のセクションから「ディスクの管理」をダブルクリックすると「ディスクの初期化と変換ウィザード」(下図) が表示されます。[Next] ボタンをクリックしてください。



3.「Select Disks to Install (初期化するディスクの選択)」が表示されます。画面には作成したアレイが表示されます。チェックボックスにチェックを入れてアレイを選択します。[Next] ボタンをクリックしてください。



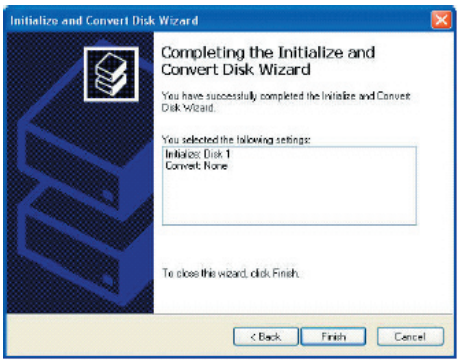
4.「 Select Disks to convert (変換するディスクの選択)」表示されます。アレイをダイナミックディスクとして利用する場合はチェックを入れます。



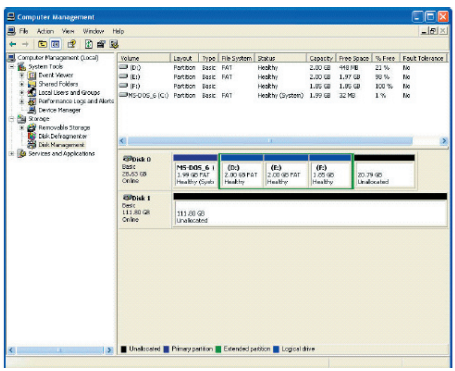
ヒント

ダイナミックディスクとは NT 系 Windows のディスク管理機能です。データを消去せずにパーティションの変更を行えるなどのメリットがあります。RAID アレイは通例一つのパーティションとして使用するので、特にダイナミックディスクに設定する必要はありません。

5. ［Next］ボタンをクリックして作業を進行してください。「ディスクの初期化と変換ウィザードの完了」のメッセージが表示されます。



6. [Finish] ボタンで終了してください。「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。



7. RAID ボリュームに割り当てられていないディスク領域がある場合は、新規のボリュームに設定して使用することができます。その際にはそのボリュームをフォーマットします。「Unlocated (割り当てられていないスペース)」を右クリックして「新しいパーティション」を選択します。ウィザードにしたがって操作フォーマット作業を行ってください。

HDD の管理

nVDIA IDE ドライバーをインストールすると、「NVRAIDMAN」と呼ばれる RAID 管理ユーティリティ機能を使用できるようになります。RAID 管理ユーティリティ機能の機能を以下に紹介します。

RAID アレイ設定の表示

・NVRAID アレイの構成を表示します。

予備の RAID ディスクの設定

・フリーまたは専用のフリーディスクの表示

・フリーディスクの特定のアレイへの割り当て

ミラーリングアレイの復元

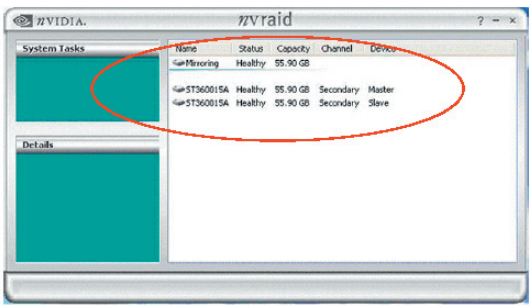
・壊れたミラーリングアレイを復元します。

・ミラーリングアレイが復元する進捗を監視します。

・RAID 1/RAID 0+1/RAID 5 で使用可能です。

RAID アレイの構成を表示する

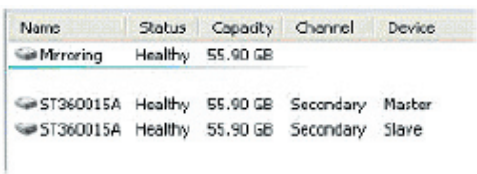
NvRaidMan.exe をダブルクリックすると NVRAID 管理ユーティリティが起動します。NVRAID 管理ユーティリティは、下図のようにウィンドウズ上から RAID の構成情報を表示します。



RAID アレイの種類

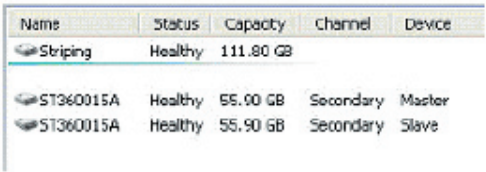
NVRAID ミラーリングアレイ (RAID 1)

RAID 1 は 2 台のドライブに同じデータを書き込み、2 台の HDD に並列でデータアクセスを行います。したがってアレイのディスク容量は実質的にアレイ 1 台分になります。



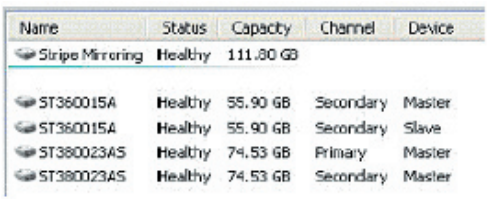
NVRAID ストライピングアレイ (RAID 0)

RAID 0 はデータを一定の大きさに裁断し、それを 2 台の HDD に振り分けることで高速なデータアクセスを実現します。アレイのディスク容量は HDD2 台分の合計です。万が一、1 台の HDD が故障した場合はアレイ全体のデータが読み取り不能になります。



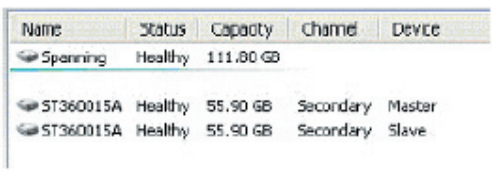
NVRAID ストライプ / ミラーアレイ (RAID 0+1)

RAID 0+1 は RAID 0 と RAID 1 を複合させたアレイで、4 台の HDD を必要とします。ストライピングアレイを構成する 2 台の HDD(マスタードライブ) に対して、それぞれミラーリングディスク (スレーブディスク) が設けられ、常にバックアップがとられます。



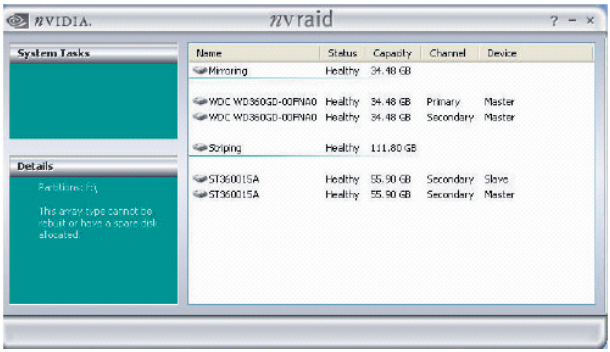
NVRAID スパニングアレイ (JBOD)

2 台の HDD を 1 台の HDD に仮想化して使用することができます。容量の小さい HDD を 1 台の HDD として使用する用途に向いています。1 台の HDD が破損した場合、他方の HDD のデータも同時に無効になります。



NVRAID ミラーリングアレイとストライピングアレイ

4 台の HDD を使用して、独立したミラーリングアレイとストライピングアレイを構築したケースです。この場合ストライピングアレイに対するバックアップはありません。



スペアディスクのセットアップ

RAID 1/RAID 0+1 アレイを構成する HDD に障害が発生した場合に、予備として使用する HDD を設定します。スペアディスクは障害の発生した HDD に代わって自動的にアレイに組み込まれます。NVRAID では 2 通りのスペアディスク機能をサポートします。

Free Disk (フリーディスク)

フリーディスクは RAID アレイを構成する HDD に障害が発生した時、障害が発生した HDD に代わって動作します。この非常時の HDD 交換プロセスは自動化されています。

例えば 4 台の HDD を搭載した PC があり、そのうちの 1 台は OS のブート用、2 台はミラーリングアレイとして使用、最後の 1 台はフリーディスクに設定されているとします。ここでミラーリングアレイの 2 台のうちいずれかが故障した場合、フリーディスクが故障した HDD に代わって自動的にミラーリングアレイに組み込まれ、データのバックアップを行った後、RAID アレイの一部として動作します。

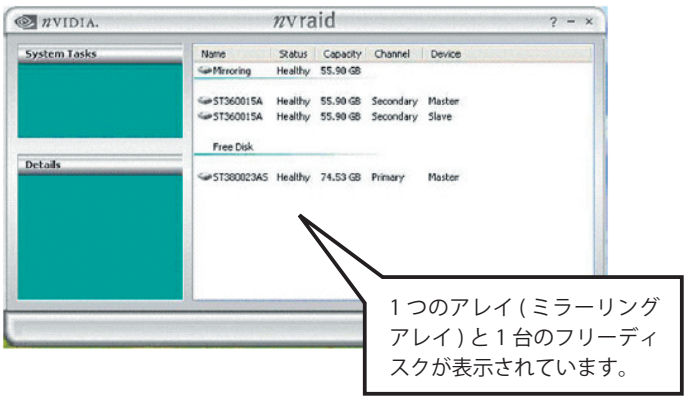
Dedicated Disk (専用ディスク)

専用ディスクは障害が発生した RAID 1/RAID 0+1 アレイに割り当てられる予備 HDD ですが、フリーディスクとは異なり、事前に指定したアレイに対してのみ割り当てが行われます。指定していないアレイの HDD に障害が発生しても交換作業は行われません。

Free Disk を設定する

フリーディスクの設定方法は以下の通りです。

1. システム BIOS を開き、フリーディスクとして使用する HDD が RAID での使用が許可されている (Enabled) ことを確認します。
2. 次に RAID BIOS 画面を開いて、その HDD がどのアレイにも属していないことを確認します。
3. Windows を起動して、RAID 管理ユーティリティ (NVRAIDMAN) を実行します。該当する HDD はフリーディスクセクションに表示されます。下図は RAID1 と 1 台のフリーディスクを設けた場合の表示例です。



Dedicated Disk (専用ディスク) を設定する

専用ディスクの設定方法は以下の通りです。

STEP1 : HDD をフリーディスクとして登録する。

前項の「Free Disk を設定する」の手順にならって、スペアディスクとして使用する HDD をフリーディスクとして登録します。

STEP2 : フリーディスクを専用ディスクに指定する。

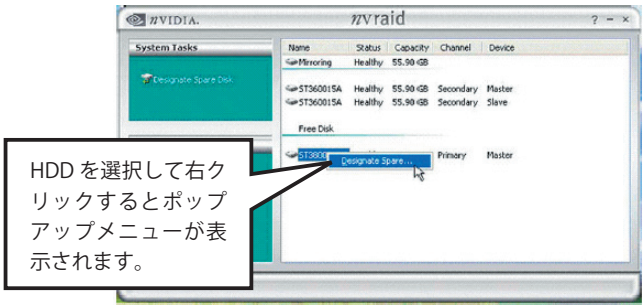
フリーディスクを専用ディスクに指定する場合、以下の 2 通りのやり方があります。

- やり方①…フリーディスクを選択して、これをアレイに割り当てる。
- やり方②…アレイを選択して、割り当てるフリーディスクを決定する。

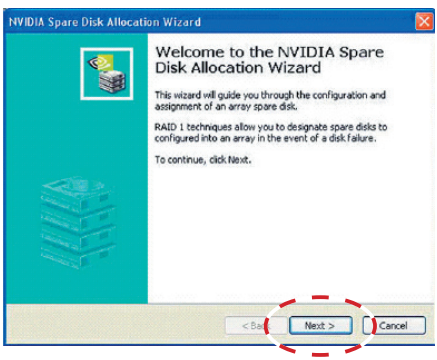
次ページより具体的な手順を解説します。

① フリーディスクを選択してアレイに割り当てる方法

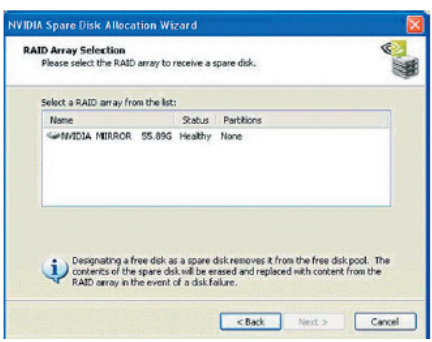
1. RAID 管理ユーティリティの画面を開きます。RAID 1/RAID 0+1 アレイから専用ディスクのサポートを受ける RAID アレイを指定します。HDD を選択して右クリックするとポップアップメニューが表示されます。



2. ポップアップメニューから［Designate Spare(スペアの指定)］を選択します。すると［Spare Disk Allocation (スペアディスクの割り当て)］ウィザードが起動します。[Next] ボタンをクリックしてください。



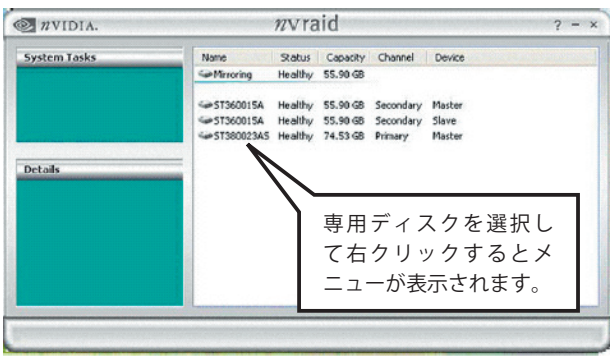
3. フリーディスクに登録されている HDD が表示されます。専用ディスクとして使用する HDD を選択してください。



4. HDD を選択して［Next］をクリックすると、専用ディスク割り当て完了のメッセージが表示されます。[Finish] ボタンをクリックしてください。



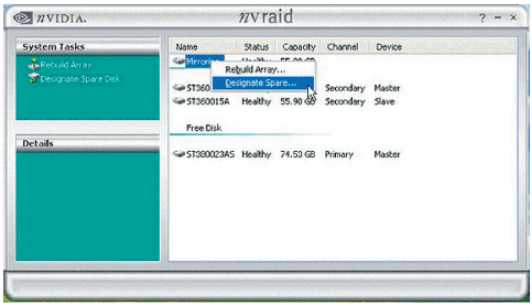
一連の作業が完了すると、フリーディスク領域に表示されていた HDD は、RAID アレイ内に表示されるようになります。2 台ある ST360015A ドライブのうち、いずれかが故障した場合に、ST380023AS ドライブが変わりにミラーリングアレイに組み込まれます。



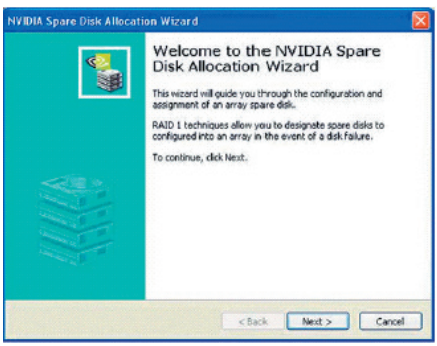
割り当てされた専用ディスクは、ユーザーのニーズに応じて削除、再設定を自由に繰り返すことができます。専用ディスクをマウスカーソルで選択し、右クリックするとメニューが表示されるので、削除用のオプション (Remove Disk) を選択してください。

② アレイを選択して割り当てするフリーディスクを決定する方法

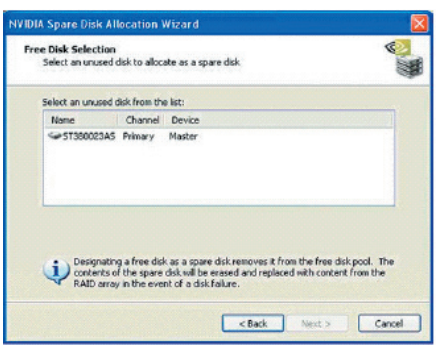
1. 専用ディスクを割り当てするアレイをクリックします。ポップアップメニューが表示されます。



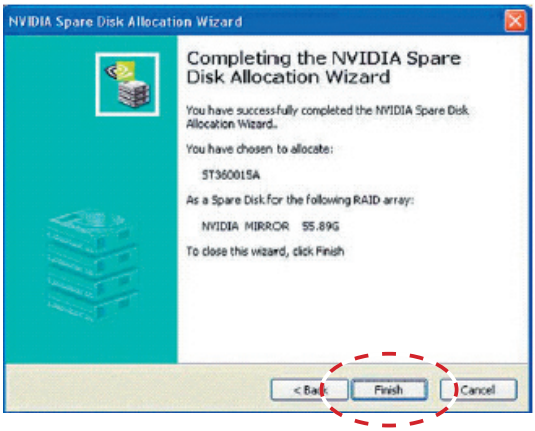
2. ポップアップメニューから［Designate Spare(スペアの指定)］を選択します。すると［Spare Disk Allocation (スペアディスクの割り当て)］ウィザードが起動します。[Next] ボタンをクリックしてください。



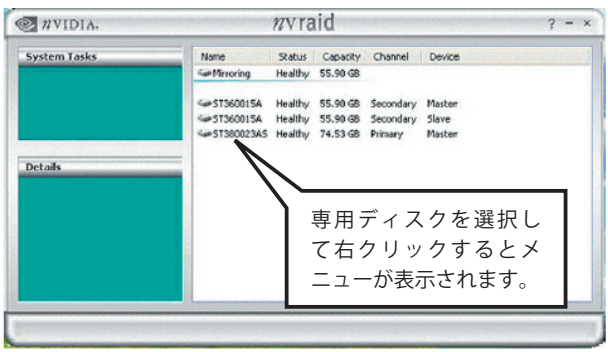
3. フリーディスクに登録されている HDD が表示されます。専用ディスクとして使用する HDD を選択してください。[Next] ボタンで次に進みます。



4. HDD を選択して［Next］をクリックすると、専用ディスク割り当て完了のメッセージが表示されます。[Finish] ボタンをクリックしてください。



一連の作業が完了すると、フリーディスク領域に表示されていた HDD は、RAID アレイ内に表示されるようになります。2 台ある ST360015A ドライブのうち、いずれかが故障した場合に、ST380023AS ドライブが変わりにミラーリングアレイに組み込まれます。



割り当てされた専用ディスクは、ユーザーのニーズに応じて削除、再設定を自由に繰り返すことができます。専用ディスクをマウスカーソルで選択し、右クリックするとメニューが表示されるので、削除用のオプション (Remove Disk) を選択してください。

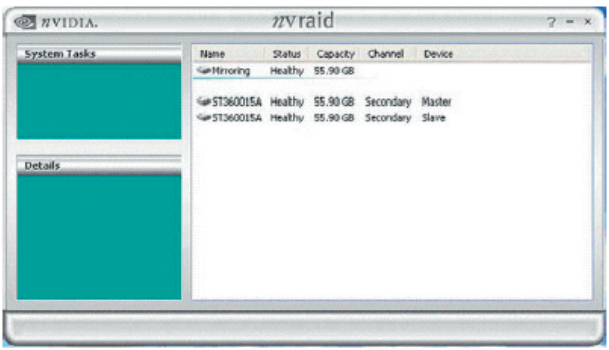
RAID アレイの復元

復元 (Rebuild) とは 1 台の HDD からアレイ内の他の HDD にデータをコピーするプロセスです。この作業は RAID1, RAID1+0 の冗長性を備えたアレイで行うことができます。RAID 1 または RAID 0+1 のアレイを構成する HDD がクラッシュした場合、正常な HDD からデータをコピーして再度 RAID 1/0+1 のアレイを構成します。

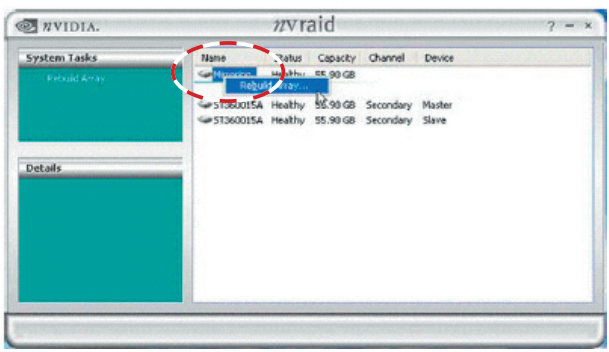
復元の手順

アレイ復元の手順は以下の通りです。

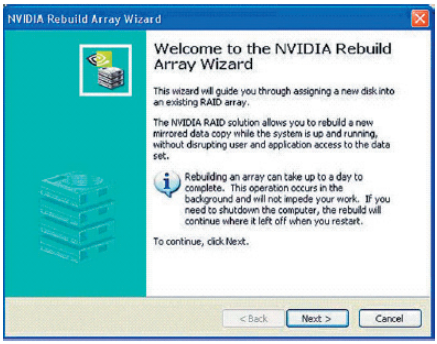
1. NVRAID 管理ユーティリティ (NVRAID Management utility) を起動します。以下は RAID 1(ミラーリングアレイ) を復元する例です。



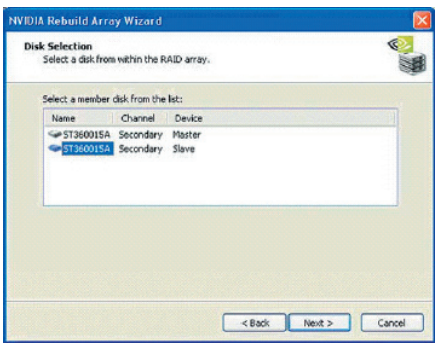
2. 下図のように「Mirroring」の項目を右クリックしてください。ポップアップメニューが表示されるので [Rebuild Array] をクリックします。



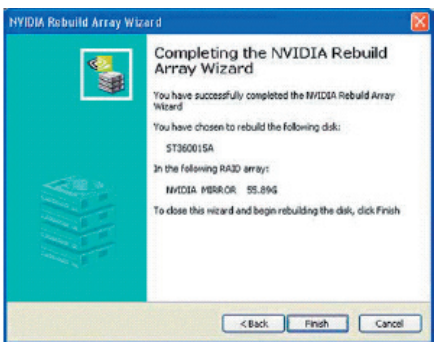
3.「NVIDIA Rebuild Array」ウィザードが起動します。[Next] ボタンを押してウィザードを進行させてください



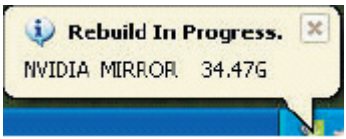
4. データをコピーする HDD をリストから選択して、［Next］ボタンをクリックします。



5. ウィザードの完了画面が表示されます。[Finish] ボタンを押してください。

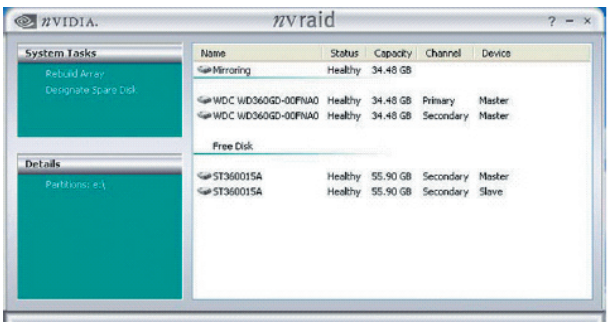


6. [Finish] ボタンを押した数秒後にアレイの復元が始まります。画面右下のタスクトレイには「Progress (進行中)」、「Finshed (終了)」といったバルーンメッセージが表示されます。



アレイの復元について…

- 復元はバックグラウンドで実行されます。
  復元作業は非常に長い時間 (条件によっては 1 日以上掛かる場合もあります) を必要すとるため、システム性能に影響を与えないようにバックグラウンドで実行されます。
- 復元は RAID 1, RAID 0 + 1 アレイのみ適用可能
  アレイの復元は RAID 1, RAID 0 + 1 アレイに対して有効です。RAID 0 および JBOD アレイには適用できません。
- フリーディスクや専用ディスクも使用可能
  RAID アレイの復元には、フリーディスクおよび専用ディスクを使用することもできます。フリーディスクを使用してアレイを復元する場合、新たに組み込む HDD をフリーディスクセクションから選択します。



第 6 章
ドライバーのインストール

本製品にはセットアップ用のドライバー / ユーティリティ CD-ROM が同梱されています。ドライバーはハードウェアと OS の橋渡しをするためのソフトウェアであり、インストールが必須です。ドライバーのインストールが必要な「ハードウェア」には周辺機器や拡張カード、マザーボード上のチップなどが含まれます。本製品の動作に必要なドライバーは全て CD-ROM に収められています。初心者の方の場合、ドライバーとそれに対応するハードウェアが分からないといったこともありますが、そのような場合はインストールメニューに設けられた「One Touch Setup」を利用してください。
ユーティリティはユーザーのニーズに応じて必要なものをインストールします。

MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

ドライバーのインストール

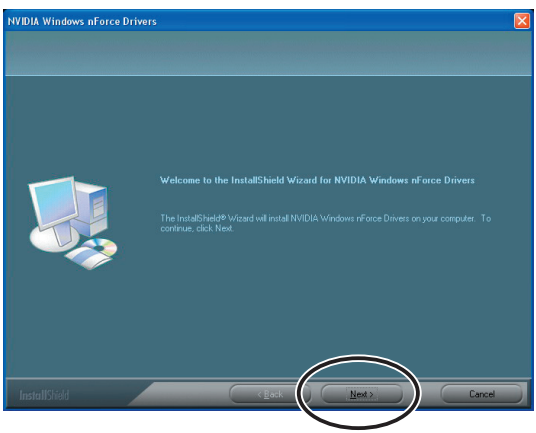
CD-ROM ドライブにドライバー / ユーティリティ CD-ROM ディスク (以下、CD と表記) をセットすると、オートランプログラムによってインストール画面が自動的に起動します。ドライバータブを選択してください。



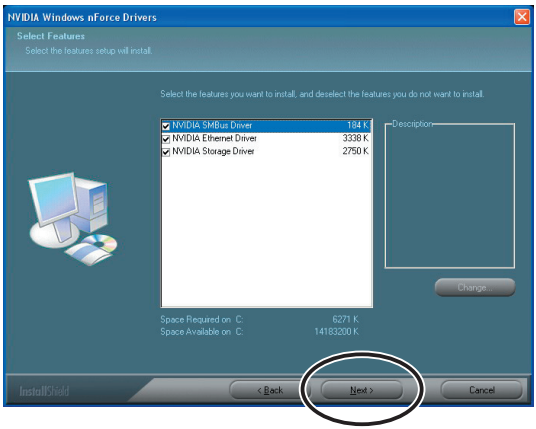
NVIDIA nForce4 System Driver

システムドライバーは Windows2000 および XP のみ対応します。以下の手順にしたがってインストールを進めてください。

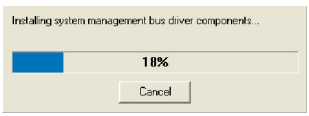
1.「 NVIDIA C51/MCP51 System Driver」ボタンをクリックすると、ウィザード画面が開きます。「Next」ボタンを押してインストールを進めます。



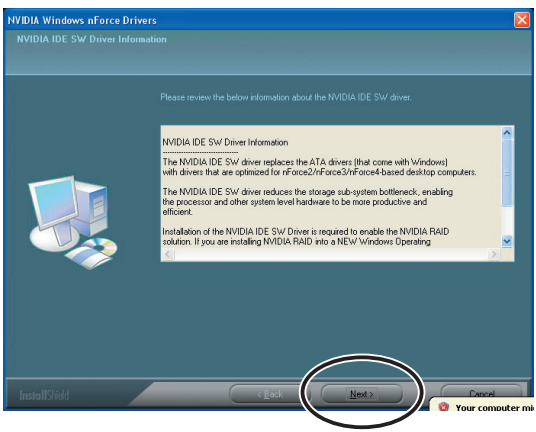
2. 画面の指示に従ってデバイスのドライバーをインストールします。デバイスの一覧が表示され、インストールするドライバーを選択することができますが、原則として全てのドライバーをインストールします。



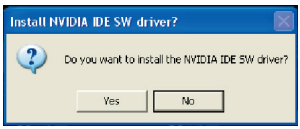
3. ドライバーを選択して「Next」ボタンを押すとインストールが自動的に進みます。



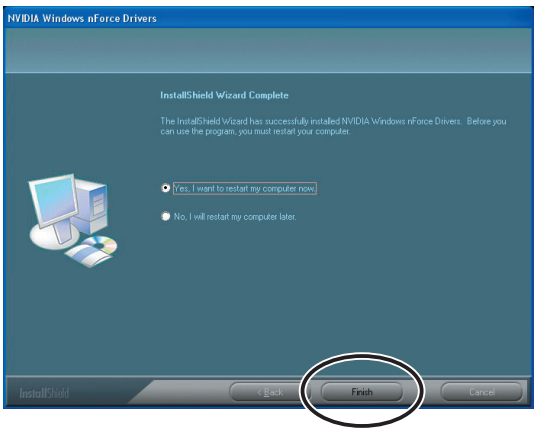
4.「NVIDIA IDE SW Driver」に関する注意事項などが表示されます。「Next」ボタンでインストールを押してインストールを進めて下さい。



5. 確認ダイアログが表示されますので「Yes」を選択してインストールを進めます。



6. インストールが完了すると以下のウィンドウが表示されます。インストール後はシステムの再起動を行ってください。

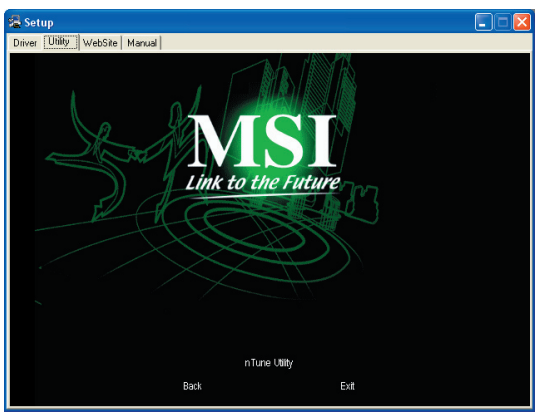


Utility

ドライバー / ユーティリティ CD をセットしてインストール画面が起動したら、「Utility」タブを選択します。インストールウィザードが起動したら、「Next」ボタンでインストールを進めて下さい。
Utility ソフトウェアはユーザーのニーズに応じてインストールしてください。



「Utility」タブを選択した後、必要なユーティリティを選択してください。



第 7 章
マルチモニタ機能について

GeForce ™ 6150 チップ搭載モデルでは内蔵のオンボード VGA 機能を利用して最大 2 台までのモニタに映像出力を行うことができます。TV-Out 機能は S 端子出力、コンポーネント出力に対応しています。TV-Out を行う場合は、付属の TV-Out ブラケットを装着してください。

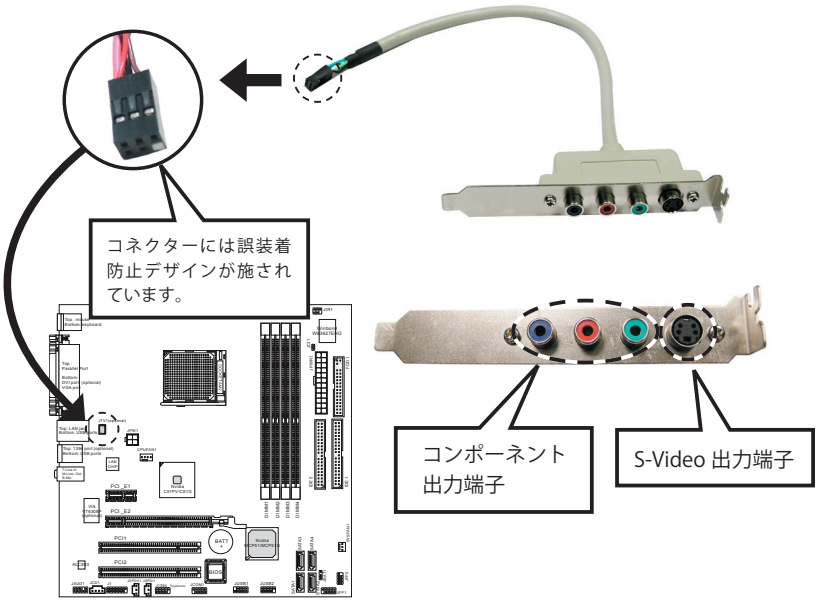
MSI
エムエスアイコンピュータージャパン株式会社

TV-Out ブラケットの接続

オンボード VGA 機能を利用して TV-Out 出力を行うには、付属の TV-Out 出力ブラケットを装着が必要です。

ブラケット装着の手順

1. マザーボード上の TV-Out ピンヘッダー (JTV1) の位置を確認して下さい。ピンヘッダーの詳細については本書第 2 章を参照してください。



2. ブラケットをケース背面の IO スロット拡張パネルに装着します。この時ケーブルの長さを考慮して、ピンヘッダーに近い IO スロット拡張パネルを選んでください。
3. ケーブルをピンヘッダーに接続します。

ヒント TV-Out 機能は K9NGM2 シリーズでのみご利用になれます。

注意！ コンポーネント出力と S-Video 出力は排他利用になります。両系統から同時に出力することは出来ません。

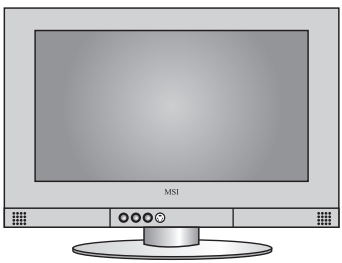
TV 出力ケーブルの接続

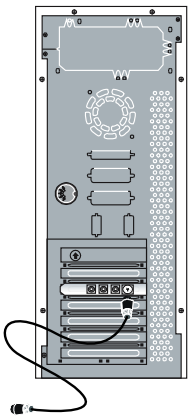
S-Video 出力ケーブルの接続

S-Video 出力ケーブルを TV-Out ブラケットの S-Video 出力端子とテレビの S ビデオ入力端子に接続してください。



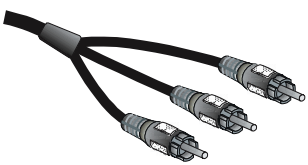
S-Video 出力ケーブル



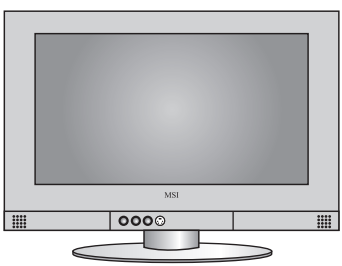


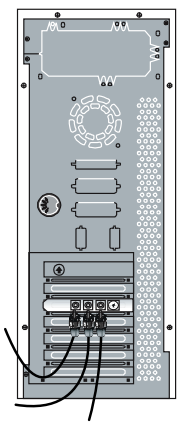
コンポーネント出力ケーブルの接続

TV-Out ブラケットのコンポーネント出力端子とテレビのコンポーネント入力端子、それぞれ対応するチャンネルにコンポーネント出力ケーブルを接続してください。



コンポーネント出力ケーブル





ディスプレイの設定

ハードウェアのセットアップが完了したら、システムを起動してディスプレイの出力設定を行います。本書では Windows XP 環境での設定方法を解説します。

モニタ＋TV の組み合わせ

1. モニタと TV の接続は以下の通りです。

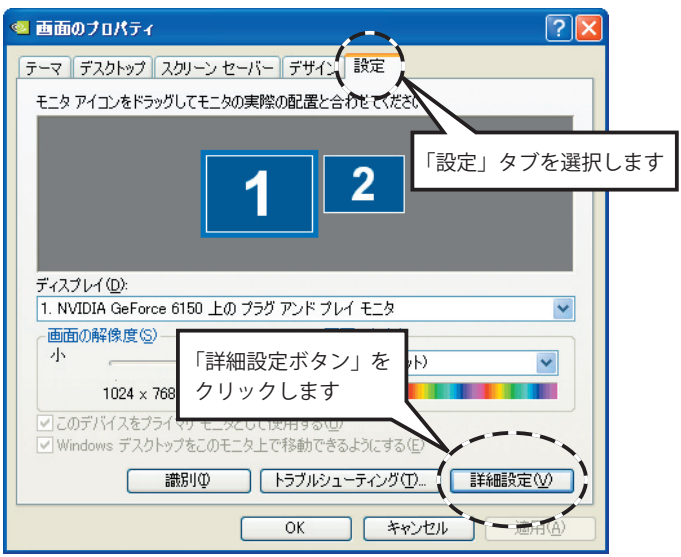
   モニタ … DVI-D コネクター（デジタル VGA 出力に対応するモニタを使用します）
   TV　… TV-Out ブラケット



チップセットの仕様により、アナログ VGA 出力 (D-Sub15 ピン端子) と TV-Out 機能を同時に使用することはできません。

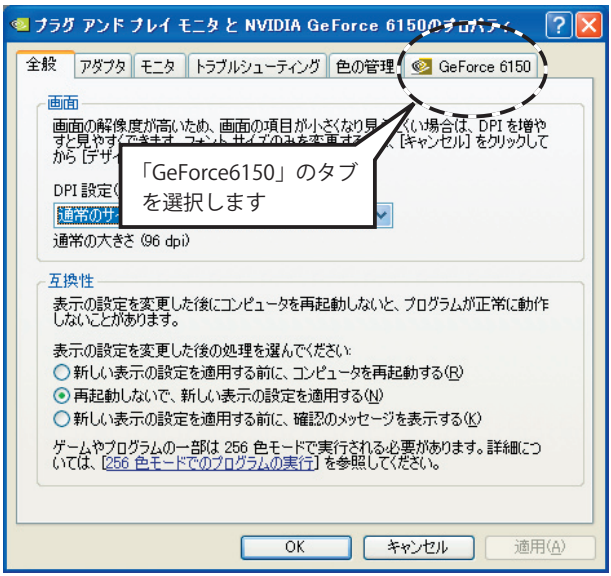
2. デスクトップ画面の空白領域で右クリックを行い、「画面のプロパティ」を開きます。画面のプロパティから「設定」タブを選択してください。「設定」タブ内の「詳細設定」ボタンをクリックします。

【図 1】



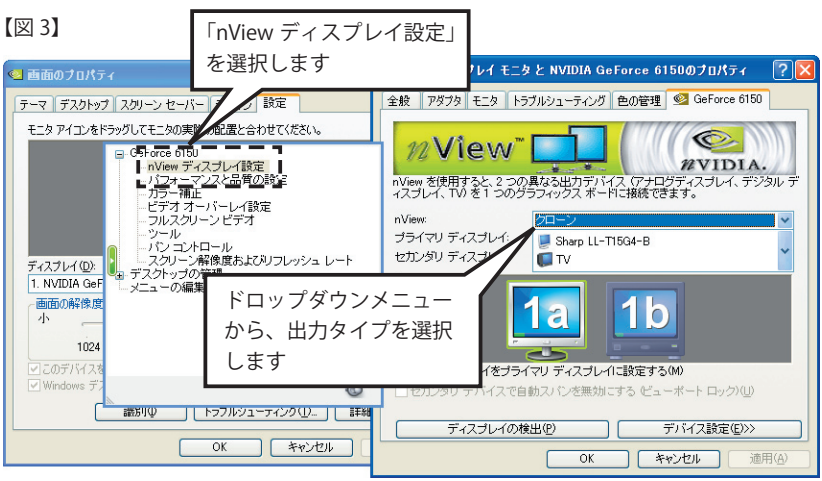
3.「詳細設定」ボタンをクリックすると下図が表示されます。「GeForce6150」タブを選択してください。

【図 2】



4.「GeForce6150」タブ内の階層メニューから「nView ディスプレイ設定」をクリックします。タブ内にはデジタルモニタと TV のアイコンが表示されます。出力タイプ (図 3 参照) を選択してください。動画再生画面などの表示に使用する場合は「クローン」を選択することをお勧めします。

【図 3】



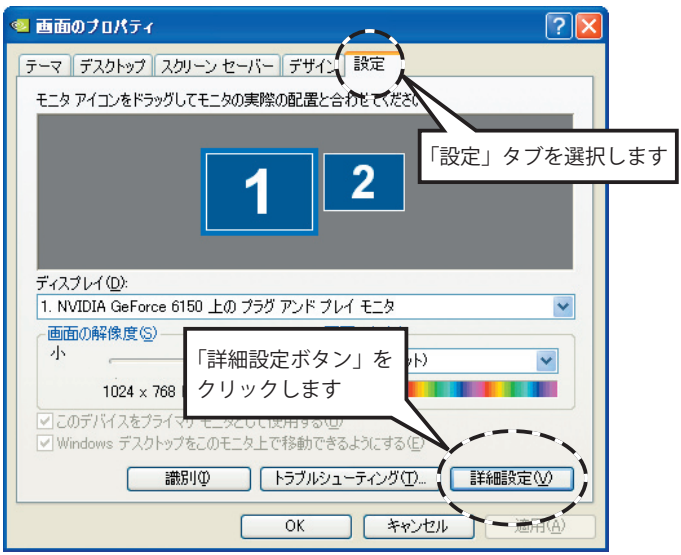
モニタ 2 台の組み合わせ

1. モニタと TV の接続は以下の通りです。

   モニタ (デジタル)　… DVI-D コネクター
   モニタ (アナログ)　… D-Sub15 ピンコネクター

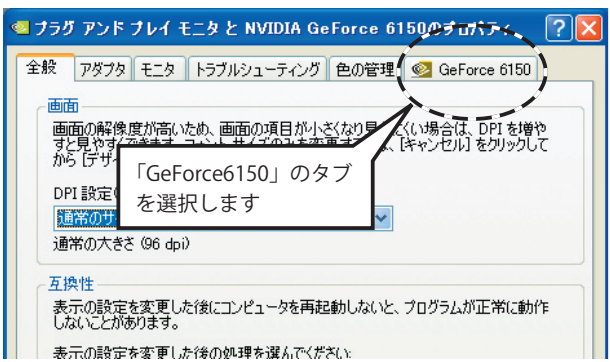
2. デスクトップ画面の空白領域で右クリックを行い、「画面のプロパティ」を開きます。画面のプロパティから「設定」タブを選択してください。「設定」タブ内の「詳細設定」ボタンをクリックします。

【図 4】



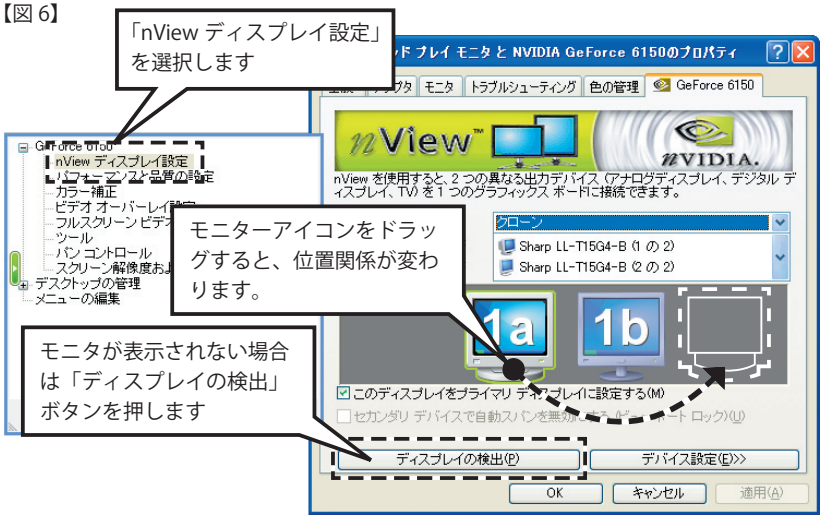
3.「詳細設定」ボタンをクリックすると下図が表示されます。「GeForce6150」タブを選択してください。

【図 5】



4.「GeForce6150」タブ内の階層メニューから「nView ディスプレイ設定」クリックします。タブ内にはデジタルモニタとアナログモニタのアイコンが表示されます。モニタの位置関係を調整する場合は、アイコンをドラッグしてください (図 6 参照)。

【図 6】



5. 出力タイプ (図 7 参照) を選択してください。クローン、水平スパン、垂直スパン、デュアルビューから用途に応じた出力タイプを選択することができます。

【図 7】

